メッセージおよびコード
バージョン 4 リリース 2
メッセージおよびコード

バージョン 4 リリース 2
本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、[69 ページの「特記事項」]に記載されている情報をお読みください。

本書は、Enterprise PL/I for z/OS バージョン 4 リリース 2 (5655-W67)、PL/I for AIX (5724-H45)、Rational Developer for System z PL/I for Windows バージョン 8.0、および新しい版または TNL で明記されていない限り、以降のすべてのリリースに適用されます。製品のレベルに合った正しい版をご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典：GC14-7286-01
    Enterprise PL/I for z/OS
    Rational Developer for System z PL/I for Windows
    Messages and Codes
    Version 4 Release 2

発行：日本アイ・ピー・エム株式会社
担当：トランスレーション・サービス・センター

第2版第1刷 2011.9

© Copyright IBM Corporation 1999, 2011.
目次

第 1 章 コンパイラーやおよびプリプロセッサのメッセージ .......................... 1
メッセージのフォーマット ............................................. 1
メッセージ内の挿入語句 ............................................. 2
IBM に連絡してサポートを得るには ................................. 2

第 2 章 ご意見の送付方法 ............................................. 3

第 3 章 アクセシビリティ ............................................. 5
インターフェース情報 .................................................. 5
キーボード・ナビゲーション .......................................... 5
本書のアクセシビリティ ............................................. 5
IBM とアクセシビリティ ............................................. 6

第 4 章 コンパイラーメッセージ通知メッセージ
(1000 から 1076、2800 から 2999) .......................... 7

第 5 章 コンパイラーメッセージ警告メッセージ
(1078 から 1225、2600 から 2799) ........................ 13

第 6 章 コンパイラーエラー・メッセージ
(1226 から 1499、2400 から 2599) .......................... 33

第 7 章 コンパイラーメッセージ重大会計メッセージ
(1500 から 2399) .................................................. 59

第 8 章 MACRO、CICS、および SQL
プリプロセッサー・メッセージ (3000
から 3999). ............................................. 115

第 9 章 コード生成メッセージ (5000
から 5999). ............................................. 139

第 10 章 条件コード ................................. 143
条件コード 1 から 500 ............................................. 143
条件コード 501 から 1000 ........................................... 149
条件コード 1001 から 1499 ......................................... 153
条件コード 1500 から 2000 ......................................... 154
条件コード 2001 から 2500 ......................................... 162
条件コード 3000 から 4000 ......................................... 164
条件コード 4001 から 9999 ......................................... 166

特記事項 .................................................... 169
商標 .............................................................. 170

参考文献 ..................................................... 171
PL/I 資料 ..................................................... 171
Enterprise PL/I for z/OS ........................................... 171
PL/I for MVS & VM ............................................. 171
PL/I for AIX ..................................................... 171
関連資料 ..................................................... 171
DB2 UDB for OS/390 および DB2 UDB for
z/OS ............................................................. 171
DFSORT ......................................................... 171
IMS/ESA ......................................................... 172
TXSeries for Multiplatforms ...................................... 172
z/Architecture ..................................................... 172
z/OS 言語環境プログラム ...................................... 172
z/OS MVS ......................................................... 172
z/OS UNIX システム・サービス ................................ 172
Unicode および文字表現 ...................................... 173
第 1 章 コンパイラーユおよびプリプロセッサーのメッセージ

メッセージのフォーマット

コンパイル出力では、各コンパイラ・メッセージは、範囲 5000 から 5999 のコード生成メッセージを除き、IBMMnnn1 X で始まります。ここで、

・ IBM は、メッセージが PL/I メッセージであることを示します。
・ nnnn はメッセージの番号です。
・ 終了文字 I は、システム・オペレーターの処置が必要であることを示します。
・ X は重大度コードを示します。
SYSPRINT を聞くことができないなど、一部の問題が発生した場合には、コンパイラは上記の規則に従わない場合があります。

本書では、メッセージは番号順に示します。この章に示す各コンパイラ・メッセージのフォーマットは、IBMnnn1 X です。X は重大度コードです。

重大度コードは、I、W、E、S、または U のいずれかです。
これらの重大度コードの意味は次のとおりです。（示されている戻りコードは、生成される戻りコードの最大値です。）

I 通知 (informational) メッセージ (RC=0) は、コンパイルされたプログラムが正しく実行されることを示します。非効率になる可能性のあるコードや、その他の注意すべき条件があると、コンパイラはユーザーに通知します。

W 警告 (warning) メッセージ (RC=4) は、ステートメント構文上は正しいが、なんらかのエラーがある可能性 (警告) を示します。コンパイルされたプログラムは正常に実行されますが、予想とは異なる結果が生成されたり、かなり効率が悪くなる場合があります。

E エラー (error) メッセージ (RC=8) は、単純なエラーが検出され、コンパイラによって修正されたことを示します。コンパイルされたプログラムは正常に実行されますが、予想とは異なる結果が生成される場合があります。

S 重大 (severe) エラー・メッセージ (RC=12) は、コンパイラにより修正できなかったエラーがあることを示します。プログラムがコンパイルされ、オブジェクト・モジュールが生成されても、そのモジュールを使用してはなりません。

U 回復不能 (unrecoverable) エラー・メッセージ (RC=16) は、コンパイルの強制終了を招くエラーを示します。オブジェクト・モジュールは正常には作成されません。
コンパイラ・メッセージは、これらの重大度レベル別、および生成元のコンポーネント別にグループに分けられます。

コード生成メッセージ (5000 から 5999 の範囲内のもの) は、IBMnnnn で始まります。ここで、
- IBM は、メッセージが PL/I メッセージであることを示します。
- nnnn はメッセージの番号です。

バッチ環境では、コード生成メッセージは STDOUT DD データ・セットに書き込まれ、その他のメッセージはすべてリストに出力されて、SYSPRINT DD データ・セットに書き込まれます。z/OS UNIX 環境では、コード生成メッセージは STDOUT に書き込まれ、その他のメッセージはすべてリストに出力されるとともに、STDOUT にも書き込まれます。

コンパイラの FLAG オプションを使用して、コンパイル・リスト内にメッセージを入れないようにすることもできます。FLAG オプションの説明は、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」に記載されています。

メッセージ内の挿入語句

多くのコンパイラ・メッセージには、メッセージを出力するときにコンパイラが情報を挿入する箇所を示す語句が入っています。この箇所に示すメッセージでは、このような挿入箇所を示す語句はイタリックで表してあります。

IBM に連絡してサポートを得るには

コンパイラ・エラーに関するプログラミング・サポートを要求するために IBM にご連絡いただく際には、該当ソース・プログラムのリスト出力を手元に用意していただけと役立ちます。このリストは、オプション INSOURCE MACRO OPTIONS SOURCE を指定して作成していただけと、潜在的な問題の分析が最も容易になります。
第 2 章 ご意見の送付方法

本書または PL/I の他のマニュアルについてご意見がありましたら、IBM 発行のマニュアルに関する情報の Web ページ (http://www.ibm.com/jp/manuals/) よりお送りください。今後の参考にさせていただきます。(URL は、変更になる場合があります)
第 3 章 アクセシビリティー

アクセシビリティー機能は、運動障害や視覚障害などの身体障害を持つユーザーが情報技術製品を快適に使用できるようにサポートします。z/OS でのアクセシビリティー機能により、Enterprise PL/I のためのアクセスビリティが提供されます。

z/OS での主要なアクセシビリティー機能は以下のとおりです。
- スクリーン・リーダーおよびスクリーン拡大鏡ソフトウェアで一般に使用されるインターフェース
- キーボードのみによるナビゲーション
- 色、コントラスト、フォント・サイズなどの表示属性をカスタマイズする機能

インターフェース情報
支援技術製品は、z/OS にあるユーザー・インターフェースを使用して作動します。ガイドアンス情報については、z/OS インターフェースへのアクセスに使用する支援技術製品の資料を参照してください。

キーボード・ナビゲーション
ユーザーは、TSO/E または ISPF を使用して z/OS ユーザー・インターフェースにアクセスできます。TSO/E または ISPF インターフェースへのアクセスについては、以下の資料を参照してください。
- z/OS TSO/E 入門
- z/OS TSO/E 入門
- z/OS TSO/E 入門

上記の資料には、キーボード・ショートカットまたはファンクション・キー (PF キー) の使用方法を含む TSO/E および ISPF の使用方法が記載されています。それぞれの資料では、PF キーのデフォルトの設定值とそれらの機能の変更方法についても説明しています。

本書のアクセスビリティー
本書の英語版を XHTML 形式にしたものIBM System z® Enterprise Development Tools & Compilers インフォメーション・センター (publib.boulder.ibm.com/ infocenter/pdthelp/index.jsp) で提供されます。スクリーン・リーダーを使用する視覚障害者ユーザーはそれにアクセスしてください。

横文図、ソース・コード例、およびビリオドまたはコンマ PICTURE 記号を含むテキストをスクリーン・リーダーで正確に読み上げるには、すべての句読点を発音するようにスクリーン・リーダーを設定する必要があります。
アクセスビリティー

IBM とアクセスビリティー

アクセスビリティーに対する IBM® の取り組みについて詳しくは、IBM Human Ability and Accessibility Center (www.ibm.com/able) を参照してください。
第 4 章 コンパイラー通知メッセージ (1000 から 1076、2800
から 2999)

**IBM1018I** I option-name should be specified within OPTIONS, but is accepted as is.

説明: このメッセージは、options リストの作成に使用される。

**IBM1035I** I The next statement was merged with this statement.

説明: このメッセージが発行されたステートメントの次
のステートメントが、そのステートメントとマージされた。

**IBM1036I** I The next statement-count statements were merged with this statement.

説明: このメッセージが発行されたステートメントの後
に続く、指定された数のステートメントが、そのステー
トメントとマージされた。

**IBM1038I** I note

説明: このメッセージは、バックエンド通知メッセージ
を報告するために使用される。

**IBM1039I** I Variable variable name is implicitly declared.

説明: 組み込み関数 SYSPRINT および SYSIN のコン
テキスト宣言の場合を除き、すべての変数を宣言する必
要がある。

**IBM1040I** I note

説明: このメッセージは、%NOTE テキストメントで戻
りコード 0 と共に使用される。

**IBM1041I** I Comment spans line-count lines.

説明: コメントが開始行とのは別の行で終わっている。こ
れは、コメント終了を表す区切り文字が欠落している可
能性を示す。

**IBM1042I** I String spans line-count lines.

説明: ストリングが開始行とは別の行で終わっている。こ
れは、右引用符が欠落している可能性を示す。

**IBM1043I** I variable name is contextually declared as attribute.

説明: 示例されている変数は言語ステートメントがないが、その使用法に基づいて、示されている属性が与えら
れた。例えば、変数がロケーターとして使用されていると、POINTER 属性を与えられることになる。

**IBM1044I** I FIXED BINARY with precision 7 or less is mapped to 1 byte.

説明: OS/370 PL/I および PL/I for MVS コンパイラ
では、これは 2 バイトにマップされる。

**IBM1045I** I Code generated for the REFER object reference name would be more efficient if the REFER object had the attributes REAL FIXED BIN(p,0).

説明: REFER オブジェクトに他の属性がある場合は、ライブラリー・コールにより、REAL FIXED BIN(31,0)
に、または REAL FIXED BIN(31,0) から変換される。

**IBM1046I** I UNSPEC applied to an array is handled as a scalar reference.

説明: OS/370 PL/I および PL/I for MVS コンパイラ
では、配列に適用された UNSPEC はスカラーの配列と
して取り扱われる。

**IBM1047I** I ORDER option may inhibit optimization.

説明: ORDER オプションをブロックに適用した場合は、最適化が禁止される可能性がある。特に、ON ユニ
ットの外部で宣言された変数を参照する ON ユニット
がブロックに含まれている場合は、最適化は禁止される
可能性が高い。

**IBM1048I** I GET/PUT DATA without a data-list inhibits optimization.

説明: GET DATA ステートメントは、ほとんどすべて
の変数を変更する可能性があり、PUT DATA ステート
メントでは、PUT DATA ステートメントの実行時点で
ほとんどの変数はホームに保管されている必要がある。
どちらの場合も最適化が禁止される。

© Copyright IBM Corp. 1999, 2011
IBM1050I I INITIAL attribute for RESERVED STATIC is ignored.

IBM1051I I Argument to BUILTIN name built-in may not be byte aligned.

IBM1052I I The NODESCRIPTOR attribute is accepted even though some arguments have * extents.

IBM1053I I Scaled FIXED operation evaluated as FIXED DECIMAL.

IBM1054I I Conversion from source type to target type will be done by library call.

IBM1055I I SELECT statement contains no OTHERWISE clause.

IBM1056I I Name resolution for identifier selected its declaration in a structure, rather than its non-member declaration in a parent block.

IBM1057I I Code generated for DO group would be more efficient if control variable were a 4-byte integer.
IBM1064I I Use of OPT(2) forces TEST(BLOCK).
説明: OPT(2) のもとでは、TEST(BLOCK) より強くフックする TEST 指定はサポートされない。

IBM1065I I Float constant constant would be more precise if specified as a long float.
説明: 指定された短精度の浮動小数点定数は正確に表すことができない。長精度の浮動小数点定数として指定された場合は、もっと正確に表すことができる。例えば、1.3E0 は正確に表すことができないが、1.3D0 の場合は適切に表すことができる。

IBM1067I I UNTIL clause ignored.
説明: DO の指定にループの繰り返しを生じさせる TO、BY、REPEAT などの文節がなければ、UNTIL 文節はループに影響を及ぼさず無視される。

```plaintext
do x = y until ( z > 0 );
  ...
end;
```

IBM1068I I Procedure has no RETURNS attribute, but contains a RETURN statement. A RETURNS attribute will be assumed.
説明: プロシージャに RETURN ステートメントが含まれている場合は、PROCEDURE ステートメントに RETURNS 属性を指定する必要がある。

```plaintext
a: proc;
  return( 0 );
end;
```

IBM1069I I The AUTOMATIC variables in a block should not be used in the prologue of that block.
説明: ブロック内の AUTOMATIC 変数は、含まれている任意のブロックの宣言ステートメントおよび実行可能なステートメントの中で使用できるが、その変数を宣言するブロックの中では、実行可能なステートメントの中でしか使用できない。

```plaintext
dcl x fixed bin(15) init(5);
dcl y(x) fixed bin(15);
```

IBM2801I I The procedure proc name is not referenced.
説明: 示されているプロシージャーは、外部プロシージャーではなく、コンパイル単位内で参照されることはない。これはエラー（このプロシージャーを呼び出すことになっている場合）またはなんらかの非活動コードを除去する機能を示す。

IBM2802I I Aggregate mapping will be done by library call.
説明: ルールズ(IBM) を指定すると、算術演算に FIXED BIN のオペランドと非ゼロのスケール因数を指定した FIXED DEC のオペランドがある場合、FIXED DEC オペランドは FIXED BIN に変換される。

IBM2803I I keyword STRING EDIT statement optimized.
説明: PUT または GET STRING EDIT ステートメントがコンパイラによって最適化され、そのほとんどがオンラインで実行されるようになる場合に、このメッセージが出される。

```plaintext
dcl x fixed bin(15) init(5);
dcl y(x) fixed bin(15);
```
IBM2804I I Boolean is compared with something other than '1'b or '0'b.

IBM2805I I For assignment to variable name, conversion from source type to target type will be done by library call.

IBM2806I I Passing a LABEL to another routine is poor coding practice and will cause the compiler to generate less than optimal code.

IBM2809I I FIXED DEC(source-precision, source-scale) operand will be converted to FIXED BIN(target-precision, target-scale). This introduces 8-byte integer arithmetic into an operation that might be faster if computed in decimal.

IBM2810I I Conversion of FIXED BIN(source-precision,source-scale) to FIXED DEC(target-precision,target-scale) may produce a more accurate result than under the old compiler.

IBM2811I I Use of PICTURE as DO control variable is not recommended.

IBM2812I I Argument number argument-number to BUILTIN name built-in would lead to much better code if declared with the VALUE attribute.

IBM2814I I Aggregate mapping for storage allocation will be done by library call.

IBM2815I I Argument number argument-number in ENTRY reference ENTRY name is not recommended to be passed BYVALUE.
IBM2816I I BYVALUE parameters should ideally be ones that can reasonably be passed in registers.

説明: BYVALUE パラメーターは、正常にレジスターで受け渡しできるものである必要がある。したがって、そのタイプは、REAL FIXED BIN、REAL FLOAT、POINTER、OFFSET、LIMITED ENTRY、FILE、ORDINAL、CHAR(1)、WCHAR(1)、または ALIGNED BIT(n) (n は 8 以下) のいずれかでなければならない。

IBM2817I I BYVALUE in RETURNS is recommended only for types that can reasonably be returned in registers.

説明: RETURNS で BYVALUE を使用するのが推奨されるのは、戻される値のタイプがレジスターで正常に戻すことができるタイプである場合に限られる。したがって、そのタイプは、REAL FIXED BIN、REAL FLOAT、POINTER、OFFSET、HANDLE、LIMITED ENTRY、FILE、ORDINAL、CHAR(1)、WCHAR(1)、または ALIGNED BIT(n) (n は 8 以下) のいずれかでなければならない。

IBM2818I I Addition or subtraction of FIXED DEC(precision, scale-factor) and FIXED DEC(precision, scale-factor) may raise FIXEDOVERFLOW.

説明: この加算（または減算）を PL/I の定義に従って結果を保持するために必要な精度が、オペランドの LIMITS(FIXEDDEC) の最大値より大きくなっている。したがって、データ値に応じて、FIXEDOVERFLOW が演算によって生じる可能性がある。

IBM2819I I Multiplication of FIXED DEC(precision, scale-factor) and FIXED DEC(precision, scale-factor) may raise FIXEDOVERFLOW.

説明: この乗算を PL/I の定義に従って結果を保持するために必要な精度が、オペランドの LIMITS(FIXEDDEC) の最大値より大きくなっている。したがって、データ値に応じて、FIXEDOVERFLOW が演算によって生じる可能性がある。

IBM2820I I The option-name option is not supported on this platform.

説明: 指定されたコンバイラー・オプションは、このプラットフォームではサポートされていない。例えば、BLKOFF オプションは z/OS プラットフォーム上で使用するオプションであるが、AIX または Windows 上で使用するオプションではない。それらのプラットフォーム上で指定されたとしても、それは無視される。
第 5 章 コンパイラー警告メッセージ (1078 から 1225, 2600 から 2799)

IBM1078I W Statement may never be executed.
説明: このメッセージは、コンパイラーが常に通過しなければならないステートメントが制御フローとして実行されないと検出したことを警告する。

IBM1079I W Too few arguments have been specified for the ENTRY ENTRY name.
説明: 引数の数は、ENTRY 宣言のパラメーターの数と一致しなければならない。

IBM1080I W The keyword label-name, which could form a complete statement, is accepted as a label name, but a colon may have been used where a semicolon was meant.
説明: 完全なステートメントを構成する可能性がある PL/I キーワードが、ステートメント・ラベルとして使用されている。この使用法は許容されるが、セミコロンを使用すべき場所でコロンが使用されている可能性がある。

```pli
  dcl a fixed bin(31) ext;
  if a = 0 then
    put skip list( 'a = 0' )
  else:
    a = a + 1;
```

IBM1081I W keyword expression should be scalar. Lower bounds assumed for any missing subscripts.
説明: 示されているキーワード文節内の式はスカラーであるべきだが、配列参照が指定されている。

```pli
  dcl e entry( 1 2 fixed bin(31),
              2 fixed bin(31) );
  dcl i fixed bin(15);
  call e( i );
```

IBM1082I W Argument number argument-number in entry reference entry name is a scalar, but its declare specifies a structure.
説明: 構造体が予期されている場合にスカラーを引数として渡すことが可能だが、このためには「ダミー」構造体を作成し、スカラーをその構造の各フィールドに割り当てる必要がある。

```pli
  dcl p pointer;
  dcl x based char(10);
  dcl a(10) area(1000);
  allocate x in(a) set(p);
```

IBM1083I W Source in label assignment is inside a DO-loop, and an illegal jump into the loop may be attempted. Optimization will also be very inhibited.
説明: GOTO ステートメントは DO ループ内部にジャンプすることはできず、(異なる) DO ループ内のラベル定数をターゲットとする GOTO に対しては、コンパイラによってフラグが立てられる。ただし、DO ループ内のラベルがラベル変数に割り当てられている場合、この種のエラーは検出されない可能性がある。

IBM1084I W Nonblanks after right margin are not allowed under RULES (NOLAXMARGINS).
説明: RULES(NOLAXMARGINS) のもとでは、右マージンの後ろにはプランク以外の何も指定してはならない。

IBM1085I W variable may be uninitialized when used.
説明: 示されている変数は、初期化される前に使用された可能性がある。

IBM1086I W built-in function will be evaluated using long rather than extended routines.
説明: 示されている組み込み関数は拡張浮動小数点の引数を持っているが、対応する拡張ルーチンがまだ使用可能でないため、適切な長精度ルーチンを使用して評価される。
IBM1087I W FLOAT source is too big for its target.
An appropriate HUGE value of assumed value is assumed.

説明: HUGE(1x0) より大きな値を短精度浮動小数点に割り当てることはできない。16 進表示では、値 3.141592E+40 を短精度浮動小数点に割り当てることが可能だが、IEEE のもので短精度浮動小数点が保持できる最大値は約 3.40281E+38 である。

IBM1088I W FLOAT literal is too big for its implicit precision. The E in the exponent will be replaced by a D.

説明: 浮動リテラルの精度は、その仮数内の桁数により暗黙に決まる。例えば、1e99 は暗黙に FLOAT DECIMAL(1) を表すが、値 1e99 は FLOAT DECIMAL(1) が保持できる最大値より大きい。

IBM1089I W Control variable in DO loop cannot exceed TO value, and loop may be infinite.

説明: TO の値が、FIXED 変数または PICTURE 変数の保持できる最大値と等しい場合、その変数が上位になるループは、LEAVE または GOTO によってループを終了したいかぎり、無限に実行される。例えば、以下に示す 1 つの目コード・フラグメントでは、x が 99 より大きな値になることはあり得ず、ループは無限になる。以下に示す 2 つ目のコード・フラグメントでは、y が 32767 より大きな値になることはあり得ず、ループは無限になる。

    dcl a fixed bin(31) based( null() );
    a = 0;

IBM1090I W Constant used as locator qualifier.

説明: 式には、ロケーター修飾子用の定数値と共に、基底付き変数への参照が含まれている。これにより、一部のシステムでは記憶保護例外が発生することがある。また、変数が NULL または SYSNULL に基づくものとし
て宣言されていて、その定数値がロケーター修飾子として使用されていることを示している場合もある。

---

Enterprise PL/I for z/OS: メッセージおよびコード
は、SPIE および STAE に相当し、TRAP(OFF) は NOSPIE および NOSTAE に相当する。SPIE と NOSTAE の組み合わせおよび NOSPIE と STAE の組み合わせは、サポートされなくなった。詳細については、示されている LE メッセージを参照のこと。

IBM1097I W Scalar accepted as argument number argument-number in ENTRY reference ENTRY name although parameter description specifies an array.

説明: 一般に、配列を受け取ることになっている場合にスカラーを渡すべきではないが、スカラーを渡したい場合もある。

dcl a entry((*) fixed bin) option(nodescriptor);
call a(0);

IBM1098I W Extraneous comma at end of statement ignored.

説明: コンマの次に、有効な構文エレメント (ID など) でなく、セミコロンがある。コンマは無視され、セミコロンが有効になる。

dcl 1 a, 2 b fixed bin, 2 c fixed bin, ;

IBM1099I W FIXED DEC( source-precision, source-scale ) operand will be converted to FIXED BIN( target-precision, target-scale ). Significant digits may be lost.

説明: RULES(IBM) のもとでは、FIXED BIN のオペランドと、非ゼロのスケール因数を指定した FIXED DEC のオペランドが比較演算または算術演算に使用される場合、FIXED DEC オペランドは FIXED BIN に変換される。FIXED DEC オペランドは、ゼロのスケール因数を指定した FIXED DEC のオペランドが比較演算または算術演算に使用される場合、FIXED DEC オペランドは FIXED BIN に変換される。どちらの場合も、有効数字が失われる可能性があり、また小数部分がある場合は、小数部分が 2 進数として正確に表現されない可能性がある。例えば、RULES(IBM) のもとでは、以下の代入ステートメントによってターゲットの値は 29.19 になり、また比較演算の中で C は FIXED BIN(31,10) に変換されて、有効数字が失われる（実際には SIZE が発生するが、SIZE は使

IBM1100I W The attribute attribute-option is not valid on BEGIN blocks and is ignored.

説明: BEGIN ステートメントの OPTIONS 文節に指定した属性（下記の例では REDUCIBLE）は、BEGIN ブロックには無効である。

begin options( reducible );

IBM1101I W option-name is not a known PROCEDURE attribute and is ignored.

説明: PROCEDURE ステートメントの OPTIONS 文節に指定した属性（下記の例では DATAONLY）は、PROCEDURE には無効である。

a: proc options( dataonly );

IBM1102I W option-name is not a known BEGIN attribute and is ignored.

説明: 指示された属性は PROCEDURE ステートメントでは有効だが、BEGIN ステートメントでは無効である。

begin recursive;

IBM1103I W option-name is not a supported compiler option and is ignored.

説明: このコンパイラー・オプションは、このプラットフォームではサポートされていない。

*process map;
IBM1104I W Suboptions of the compiler option
option-name are not supported and are
ignored.

IBM1105I W A suboption of the compiler option
option-name is too long. It is shortened
to number-of-letters characters.

IBM1106I W Condition prefixes on
keyword statements are ignored.

IBM1107I W option-name is not a known ENTRY
statement attribute and is ignored.

IBM1108I W The character char specified in the
option option is already defined and may
not be redefined. The redefinition will be
ignored.

IBM1109I W The second argument in the C-format
item will be ignored.

IBM1110I W The %INCLUDE statement should be on
a line by itself. The source on the line
after the %INCLUDE statement is
ignored.

IBM1111I W CHECK prefix is not supported and is
ignored.

IBM1112I W condition-name condition is not supported
and is ignored.

IBM1113I W verb-name statement is not supported and
is ignored.

IBM1114I W Comparands are both constant.
IBM1115I W INITIAL list contains count items, but the array variable name contains only array size. Excess is ignored.

説明: 配列の場合、INITIALリストには、その配列が持つエレメントの数を超える数の値を入れてはならない。

```nasm
dcl a init(1, 2), b(5) init(10) 0;
```

IBM1116I W Comment spans more than one file.

説明: コメントが、開始ファイルとは別のファイルの中で終わっている。これは、コメントを終了ステートメントが欠落している可能性を示す。

```nasm
dcl a init(1, 2), b(5) init(10) 0;
```

IBM1117I W String spans more than one file.

説明: ストリングが、それが始まったファイルとは別のファイルの中で終わっている。これは、右引用符が欠落している可能性を示す。

```nasm
dcl a init(1, 2), b(5) init(10) 0;
```

IBM1118I W Delimiter missing between nondelimiter and nondelimiter. A blank is assumed.

説明: すべてのIDと定数の間には、区切り文字(例えばブランクまたはコンマ)が必要である。

```nasm
dcl 1 a, 2 b, 3 c;
```

IBM1119I W Code generated for DO group would be more efficient if control variable were not an aggregate member.

説明: DOループ内の制御変数が配列、構造体、または共用体のメンバーであるため、このループ用に生成されるコードは最適にはならない。

```nasm
dcl 1 a, 2 b, 3 c;
```

IBM1120I W Multiple closure of groups. END statements will be inserted to close intervening groups.

説明: 1つのENDステートメントを使用して複数のステートメント・グループをクローズすることは許されるが、コーディング・エラーが示される場合がある。

```nasm
dcl 1 a, 2 b, 3 c;
```

IBM1121I W Missing character assumed.

説明: 指示された文字が欠落しているが、ソースの中にそれ以外の文字がない。構文解析プログラムが、欠落した文字を挿入してソースを訂正した。

IBM1122I W Missing character assumed before character.

説明: 示されている文字が欠落していたため、構文解析プログラムがその文字を挿入してソースを訂正した。

```nasm
display('Program starting ');
```

IBM1123I W The ENVIRONMENT option option-name has been specified without a suboption. The option option-name is ignored.

説明: 一部のENVIRONMENTオプション(RECSIZEなど)には、サブオプションが必要である。

```nasm
dcl f file env( recsize );
```

IBM1124I W A suboption has been specified for the ENVIRONMENT option option-name. The suboption will be ignored.

説明: 一部のENVIRONMENTオプション(CONSECUTIVEなど)は、サブオプションを付けずに指定する必要がある。

```nasm
dcl f file env( consecutive(1) );
```

IBM1125I W The ENVIRONMENT option option-name has been specified more than once.

説明: ENVIRONMENTオプションは繰り返し指定してはならない。

```nasm
dcl f file env( consecutive consecutive );
```

IBM1126I W The ENVIRONMENT option option-name has an invalid suboption. The option will be ignored.

説明: サブオプションの型が無効である。
IBM1127I W option-name is not a known ENVIRONMENT option. It will be ignored.
説明：サポートされるENVIRONMENTオプションには、このオプションはない。

IBM1128I W The ENVIRONMENT option option-name conflicts with the LANGLVL compiler option. The option will be ignored.
説明：示されているオプションは、LANGLVL(OS)でのみ有効である。

IBM1129I W verb-name processor-name statement ignored up to closing semicolon.
説明：ソース・プログラムの中に、EXEC SQLステートメントまたはEXEC CICSステートメントがある。コンパイラでは、これらのステートメントは無視される。

IBM1130I W The external name identifier is too long. It will be shortened to identifier.
説明：外部名の最大長は、LIMITSコンパイラ・オプションのEXTNAMEサブオプションにより設定される。

IBM1131I W An EXTERNAL name specification for name has been specified on its PROCEDURE statement and in the EXPORTS clause of the PACKAGE statement. The EXPORTS specification will be used.
説明：EXPORTS文節のEXTERNAL属性に指定した名前は、PROCEDUREステートメントのEXTERNAL属性に指定した名前をオーバーライドする。

a: package exports( b ext('_B') );
b: proc ext('BB');

dcl f file env( fb );

dcl f file env( unknown );

dcl f file env( regional(5) );

IBM1128I W The ENVIRONMENT option option-name conflicts with the LANGLVL compiler option. The option will be ignored.
説明：示されているオプションは、LANGLVL(OS)でのみ有効である。

IBM1132I W An EXTERNAL name specification for name has been specified in its declaration and in the RESERVES clause of the PACKAGE statement. The RESERVES specification will be used.
説明：RESERVES文節のEXTERNAL属性に指定した名前は、DECLAREステートメントのEXTERNAL属性に指定した名前をオーバーライドする。

a: package reserves( b ext('_B') );
dcl b ext('BB') static ...

dcl this_name_is_long static external pointer;

IBM1133I W The FORMAT CONSTANT array label-name is not fully initialized.
説明：FORMAT CONSTANT配列のエレメントが定義されていない。例えば、次の例ではf(2)がこれに該当する。

f(1): format( x(2), a );
f(3): format( x(4), a );

IBM1134I W The LABEL CONSTANT array label-reference is not fully initialized.
説明：示されている変数ではステートメント・ラベル配列が定義されているが、その配列のエレメントの一部に、収容プロシージャーのステートメント用のラベルではないものがある。
IBM1135I W Logical operand is constant.

IBM1136I W Function invoked as a subroutine.

IBM1137I W The attribute attribute is invalid in GENERIC descriptions and will be ignored.

IBM1138I W Number of items in INITIAL list is count for the array variable name which contains array size elements.

IBM1139I W Syntax of the %CONTROL statement is incorrect.

IBM1140I W Syntax of the LANGLVL option in the %OPTION statement is incorrect.

IBM1141I W Syntax of the %NOPRINT statement is incorrect.

IBM1142I W Syntax of the %PAGE statement is incorrect.

IBM1143I W Syntax of the %PRINT statement is incorrect.

IBM1144I W Number of lines specified with %SKIP must be between 0 and 999 inclusive.

IBM1145I W Syntax of the %SKIP statement is incorrect.
IBM1146I W Syntax of the TEST option in the
%OPTION statement is incorrect.
説明: %OPTION ステートメント内の TEST オプションは、サブオプションを付けずに指定しなければならない。

IBM1147I W Syntax of the NOTEST option in the
%OPTION statement is incorrect.
説明: %OPTION ステートメント内の NOTEST オプションは、サブオプションを付けずに指定しなければならない。

IBM1148I W Syntax of the %PUSH statement is incorrect.
説明: %PUSH ステートメントのあとには (間にブランクを入れるか入れないかは任意で) セミコロンを指定しなければならない。

IBM1149I W Syntax of the %POP statement is incorrect.
説明: %POP ステートメントのあとには (間にブランクを入れるか入れないかは任意で) セミコロンを指定しなければならない。

IBM1150I W Syntax of the %NOTE statement is incorrect.
説明: %NOTE ステートメントのあとには、注および任意の戻りコードを括弧で囲んで指定し、その後にセミコロンを指定しなければならない。

IBM1151I W FIXED BINARY precision is reduced to maximum value.
説明: FIXED BIN の最大精度は LIMITS オプションにより決まる。

IBM1152I W FIXED DECIMAL precision is reduced to maximum value.
説明: FIXED DEC の最大精度は LIMITS により決まる。

IBM1153I W FLOAT BINARY precision is reduced to maximum value.
説明: FLOAT BIN の最大精度は、Intel では 64、AIX では 106、z/OS では 109 である。

IBM1154I W FLOAT DECIMAL precision is reduced to maximum value.
説明: FLOAT DEC の最大精度は、Intel では 18、AIX では 32、z/OS では 33 である。ただし、DFP では最大 34 である。

IBM1155I W The aggregate aggregate-name contains noncomputational values. Those values will be ignored.
説明: I/O ステートメントで参照されている集合のメンバーの一部が非計算型である。計算型メンバーは正しく処理されるが、非計算型メンバーは無視される。

IBM1156I W Arguments to MAIN procedure are not all POINTER.
説明: SYSTEM(CICS)、SYSTEM(TSO)、および SYSTEM(IMS) のもとでは、MAIN プロシージャに対する引数はすべて、POINTER 型でなければならな

IBM1157I W note
説明: このメッセージは、%NOTE ステートメントで戻りコード 4 と共に使用される。

IBM1158I W A option is missing in the specification of the option option. One is assumed.
説明: コンバイラー・オプションの指定に、右引用符または右括弧が欠落している。引用符付きストリングは行の境界を超えてはならない。

IBM1159I W The string option is not recognized as a valid option keyword and is ignored.
説明: 無効なコンバイラー・オプションを指定した。

IBM1160I W The third argument to the MARGINS option is not supported.
説明: 入力ソース・レコードでは、印刷制御文字はサポートされない。
IBM1161I W The suboption suboption is not valid for the option compiler option.
説明: コンパイラーオプションのサブオプションが無効である。このサブオプションは、不明なもと、または許容範囲外のものである。

*process flag(q) margins(1002);

IBM1162I W A required suboption is missing for the suboption option.
説明: コンパイラーオプションの必須サブオプションが欠落している。

*process or;

IBM1163I W Required sub-fields are missing for the option option. Default values are assumed.
説明: コンパイラーオプションの必須サブオプションがいくつか欠落している。

*process margins;

IBM1164I W option-name should be specified within OPTIONS, but is accepted as is.
説明: 該当のオプション (例えば REORDER) は、OPTIONS 属性の外部で受け入れられるが、OPTIONS 属性の内部で指定する必要がある。こうすることによって、ANSI 規格にも準拠することになる。

IBM1165I W The OPTIONS option option-name has been specified more than once.
説明: サポートされる LINKAGE オプションは、OPTLINK と SYSTEM だけである。

IBM1166I W option-name is not a known LINKAGE suboption. The LINKAGE option will be ignored.
説明: サポートされる LINKAGE オプションは、OPTLINK と SYSTEM だけである。

IBM1167I W Maximum number of %PUSH statements exceeded. The control statement is ignored.
説明: 保留 %PUSH ステートメントの最大数は 63 である。

IBM1168I W No %PUSH statements are in effect. The %POP control statement is ignored.
説明: 保留中の %PUSH ステートメントがないときに、%POP が発行された。

IBM1169I W No precision was specified for the result of the builtin name built-in. The precision will be determined from the argument.
説明: このメッセージは、引数が 1 つだけ指定されている場合には、FIXED および FLOAT 組み込み関数に適用される。精度はデフォルトに設定されずに、その引数から得られる。例えば、x が FLOAT BIN(21) の場合、

IBM1170I W The OPTIONS attribute option-attribute is not supported and is ignored.
説明: OPTIONS リスト内の示されているエレメントはサポートされていない。

dcl a ext entry options( nomap );

IBM1171I W SELECT statement contains no WHEN or OTHERWISE clauses.
説明: WHEN 文節または OTHERWISE 文節は SELECT ステートメントに必須ではないが、指定しないとコーディング・エラーが示されることがある。

IBM1172I W A zero length string has been entered for the option-name option. The option is ignored.
説明: ユーザー指定ストリングの長さが 0 である。これは、OR(“) がコマンド行に指定された場合、または円記号(¥) 文字が OR ストリング内の唯一の文字として指定された場合に起こる。後者の場合、円記号(¥) 文字はエスケープ文字として解釈されるため、ストリングの長さがゼロであるように見える。

IBM1173I W SELECT statement contains no WHEN clauses.
説明: SELECT ステートメントには WHEN 文節は必須ではないが、指定しないとコーディング・エラーが示されることがある。

第 5 章 コンパイラーオンラインメッセージ (1078 から 1225, 2600 から 2799) 21
IBM1174I W The reference in the from-into clause clause may not be byte-aligned.

説明: FROM 文節または INTO 文節に指定された参照のバイト整合がとれていない可能性がある。参照のバイト整合がとれていない場合は、予測不能な結果が生じることがある。

IBM1175I W FIXED BINARY constant contains too many digits. Excess nonsignificant digits will be ignored.

説明: FIXED BINARY 定数の最大精度は、LIMITS コンパイラーオプションの FIXEDBIN サブオプションで指定する。

IBM1176I W FIXED DECIMAL constant contains too many digits. Excess nonsignificant digits will be ignored.

説明: FIXED DECIMAL 定数の最大精度は、LIMITS コンパイラーオプションの FIXEDDEC サブオプションで指定する。

IBM1177I W Mantissa in FLOAT BINARY constant contains more digits than the implementation maximum. Excess nonsignificant digits will be ignored.

説明: 浮動 2 進定数は、Intel では 64 桁、AIX では 32 桁、z/OS では 33 桁に制限されている。

IBM1178I W Mantissa in FLOAT DECIMAL constant contains more digits than the implementation maximum. Excess nonsignificant digits will be ignored.

説明: 浮動 10 進定数は、Intel では 18 桁、AIX では 106 桁、z/OS では 109 桁に制限されている。

IBM1179I W FLOAT literal is too big for its implicit precision. An appropriate HUGE value of assumed value is assumed.

説明: 浮動リテラルの精度は、その仮数の桁数により暗黙に決まる。例えば、1e99 は暗黙に FLOAT DECIMAL(1) を表すが、値 1e99 は FLOAT DECIMAL(1) が保持できる最大値より大きい。

IBM1180I W Argument to BUILTIN name built-in is not byte aligned.

説明: このメッセージは ADDR、CURRENTSTORAGE/SIZE、および STORAGE/SIZE 組み込み関数に適用される。これらの組み込み関数のいずれかをバイト整合とされていない変数に適用すると、予想どおりの結果が生成されないことがある。

IBM1181I W A WHILE or UNTIL option at the end of a series of DO specifications applies only to the last specification.

説明: 以下のコードの断片では、WHILE 文節は I=5 という最後の DO 指定にのみ適用する。

```plaintext
  do i = 1, 3, 5 while (j < 5);
```

IBM1182I W Invocation of a NONRECURSIVE procedure from within that procedure is invalid. RECURSIVE attribute is assumed.

説明: プロシージャーの中に、再帰呼び出しの原因となるコードが含まれているが、このプロシージャーは RECURSIVE 属性を指定して宣言されていない。

```plaintext
a: proc (n);
  ...
  if n > 0 then call a;
```

IBM1183I W condition-name condition is disabled. Statement is ignored.

説明: SIGNAL ステートメントが発生させる条件が使用不可にされている場合は、その SIGNAL ステートメントは無視される。 SIZE など、一部の条件はデフォルトで使用不可にされる。

```plaintext
(noofl): signal fixedoverflow;
```

IBM1184I W Source with length string-length in INITIAL clause for variable name is longer than target. Source will be truncated.

説明: INITIAL 文節内のストリング (下記の例では 'TooBig') は、ターゲットに合うように切り詰められる (例では 'TooB' になる)。
IBM1185I W Source in RETURN statement has length greater than that in the corresponding
RETURNS attribute.

説明: RETURNS 文節内のストリング (下記の例では 'TooBig') は、ターゲットに合うように切り詰められる (例では 'TooB' になる)。

```
  x: proc returns( char(4) );
  ...
  return( 'TooBig' );
```

IBM1186I W Source in string assignment is longer than target.

説明: 割り当てに指定したソース (下記の例では 'TooBig') は、ターゲット変数に合うように切り詰められる (例では 'TooB' になる)。

```
  dcl x char(4);
  x = 'TooBig';
```

IBM1187I W Argument number argument-number in entry reference entry name is longer than the corresponding parameter.

説明: エントリー呼び出し内のソース (下記の例では 'TooBig') は、パラメーターに合うように切り詰められる (例では 'TooB' になる)。

```
  dcl x entry( char(4) );
  call x( 'TooBig' );
```

IBM1188I W Result of concatenating two strings is too long.

説明: 2 つのストリングを連結した結果のストリングの長さは、派生ストリング型の最大許容長を超えてはならない。

IBM1189I W NODESCRIPTOR attribute conflicts with the NONCONNECTED attribute for the parameter parameter name. CONNECTED is assumed.

説明: プロシージャーについて NODESCRIPTOR が指定されている (または暗黙に選択されている) 場合は、
集合パラメーターに CONNECTED 属性が必要である。
CONNECTED 属性は、明示的にコーディングすることもし、DEFAULT(CONNECTED) コンパイラ・オプショ
ンにより暗黙に指定することもできる。

IBM1190I W The OPTIONS option option-name conflicts with the LANGLVL compiler option. The option will be applied.

説明: 23 31 の場合に、値 FIXED BIN(p1,0) を値
FIXED BIN(p2,0) で除算すると、結果の属性は FIXED
BIN(p1,0) になる。 ANSI 76 では、この属性は FIXED
BIN(31,31-p1) になる。

IBM1191I W Result of FIXED BIN divide will not be scaled.

説明: when clauses contain duplicate values.

説明: 制御下の SELECT ステートメントでは、WHEN
文節に前の WHEN 文節と同じ値がある場合、2 番目の
WHEN 文節のコードは実行されない。このメッセージ
が生成されるのは、その SELECT ステートメントがそ
他の点ではプランチ・テーブルへの変換に適している
場合だけである。

IBM1192I W WHEN clauses contain duplicate values.

説明: 23 31 の場合に、値 FIXED BIN(p1,0) を
FIXED BIN(p2,0) で除算すると、結果の属性は FIXED
BIN(p1,0) になる。 ANSI 76 では、この属性は FIXED
BIN(31,31-p1) になる。

IBM1193I W statement count statements in block block name. Optimization restricted.

説明: 列挙の SELECT ステートメントでは、WHEN
文節に前の WHEN 文節と同じ値がある場合、2 番目の
WHEN 文節のコードは実行されない。このメッセージ
が生成されるのは、その SELECT ステートメントがそ
他の点ではプランチ・テーブルへの変換に適している
場合だけである。

IBM1194I W More than one argument to MAIN procedure.

説明: SYSTEM(CICS) および SYSTEM(IMS) のもとで
使用する場合を除き、MAIN プロシージャーの引数は最
大 1 つでなければならない。

IBM1195I W Argument to MAIN procedure is not CHARACTER VARYING.

説明: SYSTEM(CICS), SYSTEM(TSO), および
SYSTEM(IMS) のもとで使用する場合を除き、MAIN プ
ロシージャーに対する引数は CHARACTER VARYING でなければならない。

IBM1196I W AREA initialized with EMPTY - INITIAL attribute is ignored.

説明: AREA 変数用に指定した INITIAL 属性はすべて無視される。この変数は、代わりに EMPTY 組み込み関数を使用して初期化される。

IBM1197I W file-name assumed as file condition reference.

説明: すべてのファイル条件はファイル参照を使用して修飾しなければならない。ただし、ENDFILE および ENDPAGE は、ファイル参照なしで受け入れられる。この場合、SYSIN および SYSPRINT がそれぞれ想定される。

IBM1198I W A null argument list is assumed for variable name.

説明: ENTRY 参照が、そのエントリーを呼び出した結果を使用すると考えられる状況で、使用されている。

```pli
     dcl e1 entry returns( ptr );
     dcl q ptr based;
     e1->q = null();

     dcl e2 entry returns( bit(1) );
     if e2 then ... 
```

IBM1199I W Syntax of the %LINE directive is incorrect.

説明: %LINE ディレクティブのあとには、(間にプランクを入れるか入れないかは任意) 括弧、行番号、コマンダーファイル名、および右括弧を指定しなければならない。

```pli
%line( 19, test.pli );
```

IBM1200I W Use of DATE built-in function may cause problems.

説明: DATE 組み込み関数は 2 桁の年を戻す。4 桁の年を戻す DATETIME 組み込み関数を使用する方がよい。

IBM1201I W suboption conflicts with a previously specified suboption for the option compiler option.

説明: LANGLVL コンパイラ・オプションのサブオプションに矛盾がある。SAA2 サブオプションと OS サブオプションは同時に使用することはできない。

```pli
*process langlvl(saa2 os);
```

IBM1202I W Syntax of the %OPTION statement is incorrect.

説明: %OPTION ステートメントでサポートされるオプションは LANGLVL オプションだけである。

IBM1203I W Argument to PLITEST built-in subroutine is ignored.

説明: 引数を何も渡さないように、PLITEST の呼び出しを変更する必要がある。

IBM1204I W INTERNAL CONSTANT assumed for initialized STATIC LABEL.

説明: LABEL 変数は、ブロック活動化情報が必要とするため、コンパイル時には初期化できない。INITIAL 属性付きの STATIC LABEL 変数の場合、その変数が構造体または共用体のメンバーであれば、重大メッセージが発行される。それ以外の場合は、ブロック活動化情報が必要であるという要件を取り除くために、属性が INTERNAL CONSTANT に変更される。このような変数は、収容ブロックから LABEL CONSTANT を使用して初期化する必要がある。

IBM1205I W Arguments of the option compiler option must be the same length.

説明: NAMES オプションの2つの引数を指定する場合は、それらの引数の長さが同じでなければならない。2番目の引数は、最初の引数の英大文字値である。最初のストリングの文字に英大文字値がない場合は、その文字自体を英大文字値として使用する。例えば、次のようになる。

```pli
names( '$_10' '$_10' )
```

IBM1206I W BIT operators should be applied only to BIT operands.

説明: 式が x & y, x | y, または x ^ y の式では、x と y どちらも BIT 型でなければならない。
IBM1207I W Operand to LENGTH built-in should have string type.

説明: オペランドが数値型の場合は、結果は、その値がストリングに変換されたあとで弾の長さになる。数値型の長さは、ストレージ要件と同じではない。

IBM1208I W INITIAL list for the array variable name contains only one item.

説明: 配列の初期化は不完全になる。名前付き変数が構造体の一項である場合、この問題が生じた構造体の後続のエレメントは、メッセージ 2603 でフラグを立てられる。アスタリスクは、すべてのエレメントを 1 つの値を用いて初期化するための初期化因数として使用できる。次の場合では、a(1) は値 13 を用いて初期化されるが、エレメント a(2) から a(8) は初期化されない。これに対して、b の中のすべてのエレメントは 13 に初期化される。

    dcl a(8) fixed bin init( 13 );
    dcl b(8) fixed bin init( (*) 13 );

IBM1209I W INDEXED environment option for file file name will be treated as ORGANIZATION(INDEXED).

説明: OS/2 ブラートフォームでは ISAM はシミュレートされないので、ファイルは VSAM KSDS に似た方法で処理される。次に示す例では、最初の宣言に指定されているファイルは、2 番目の宣言の中でファイルと同様方法で処理される。つまり、両方とも ORGANIZATION(INDEXED) として処理される。

    dcl f1 file env(indexed);
    dcl f2 file env(organization(indexed));

IBM1210I W The field width specified in the keyword-format item may be too small for complete output of the data item.

説明: 数値が負の場合、フォーマットの幅が出力には小さすぎる。このフォーマットは、人力用に使用される際は有効である場合がある。

IBM1211I W Source with length string-length is longer than the target variable.

説明: 割り当てに指定したソース（下記の例では 'TooBig'）は、ターゲット変数に合うように切り詰められる（例では 'TooB' になる）。ターゲットが疑似変数の場合は、代わりにメッセージ 1186 が発行される。

    dcl x char(4);
    x = 'TooBig';

IBM1212I W The A format item requires an argument when used in GET statement. An L format item is assumed in its place.

説明: GET メッセージに指定する場合は、A フォーマット項目に値を指定する必要がある。

    get edit(name) (a);

IBM1213I W The procedure proc name is not referenced.

説明: 示されているプロシージャーは、外部プロシージャーではなく、コンパイル単位内のライブラリで参照されることはない。これはエラー（このプロシージャーを呼び出すことになっている場合）またはなんらかの非活動コードを除去する機会を示す。

IBM1214I W A dummy argument will be created for argument number argument-number in entry reference entry name.

説明: BYADDR をエントリーに渡した引数が、エントリー記述の対象するパラメーターに一致しない。その引数のアドレスはエントリーに渡されない。代わりに、引数が、エントリー記述内のパラメーターに一致する属性を持つ一時変数に割り当てられ、その一時変数のアドレスがエントリーに渡される。これは、エントリーがこのパラメーターの値を変更した場合、呼び出しルーチンはその変更を認識できないということを意味している。

    dcl e entry( fixed bin(31 ) );
    dcl i fixed bin(15);
    call e( i );

IBM1215I W The variable variable name is declared without any data attributes.

説明: デフォルトの属性が与えられるが、宣言にエラーがある場合もある。例えば次の例では、括弧が欠落している可能性がある。

    dcl a, b fixed bin;
IBM1216I W The structure member variable name is declared without any data attributes. A level number may be incorrect.

説明: デフォルトの属性が与えられるが、宣言にエラーがある場合もある。例えば次の例では、c および d のレベル番号はおそらく 3 が正しい。

```plaintext
dcl a, b fixed bin;
  1 a,
  2 b,
  2 c,
  2 d;
```

IBM1217I W An unnamed structure member is declared without any data attributes. A level number may be incorrect.

説明: デフォルトの属性が与えられるが、宣言にエラーがある場合もある。例えば次の例では、c および d のレベル番号はおそらく 3 が正しい。

```plaintext
dcl a, b fixed bin;
  1 a,
  2 *,
  2 c,
  2 d;
```

IBM1218I W First argument to BUILTIN name built-in should have string type.

説明: このメッセージが出ないようにするには、CHAR 組み込み関数または BIT 組み込み関数を最初の引数に適用する必要がある。

```plaintext
dcl i fixed bin;
  display( substr(i,4) );
```

IBM1219I W LEAVE will exit noniterative DO-group.

説明: LEAVE ステートメントにラベルが指定されている場合は、このメッセージは生成されない。次のループでは、LEAVE ステートメントが直接閉じている DO グループを終了するだけで、ループは終了されない。

```plaintext
do i = 1 to n;
  if a(i) > 0 then
    do;
      call f;
      leave;
```

IBM1220I W Result of comparison is always constant.

説明: このメッセージは、変数がとる可能性のある最大値または最小値に等しい定数と、その変数を比較する場合に生成される。次のループでは、変数 x は 99 を超えることはできない。したがって、このループにより毎回実行される暗黙の比較では、結果は常に '1b になる。

```plaintext
do x pic'99';
do x = 1 to 99;
end;
```

IBM1221I W Statement uses count bytes for temporaries.

説明: このメッセージは、MAXTEMP コンパイラ・オプションで許容されるバイト数を超えるバイト数をステートメントが一時的に使用した場合に生成される。

IBM1222I W Comparison involving 2-digit year is problematic.

説明: 2 桁の年フィールドを含むデータが関係する比较では、年の 1 つだけが 1999 年より少ないとある年だっただけに、問題が起こることがある。

IBM1223I W Literal in comparison interpreted with DATE attribute.

説明: 比較では、片方の被比較数の属性が DATE であれば、もう一方も同じ属性でなければならず、日付でない方が日付パターンとして有効な値を持つリテラルであれば、日付の被比較数と同じ DATE 属性を持つものと見なされる。したがって、次のコードでは、'670101' は DATE('YYMMDD') 属性が指定されている場合と同じに解釈される。

```plaintext
dcl x char(6) date('YYMMDD');
if x > '670101' then ...
IBM1224I W DATE attribute ignored in comparison with non-date literal.

説明: 比較では、片方の被比較数の属性が DATE であれば、もう一方も同じ属性でなければならない。日付でない方が日付パターンとして無効な値を持つリテラルであれば、DATE 属性は無視される。したがって、次のコードでは、x に DATE 属性がないものとして比較が評価される。

```plaintext
dcl x char(6) date('YYMMDD');
if x > '' then ...
```

IBM1225I W DATE attribute ignored in conversion from literal.

説明: 明示割り当てまたは暗黙割り当てのターゲットの属性が DATE であれば、ソースも同じ属性でなければならぬ。そうでない場合は、DATE 属性は無視される。したがって、次のコードでは、x に DATE 属性がないものとして割り当てが実行される。

```plaintext
dcl x char(6) date('YYMMDD');
x = '';
```

IBM2600I W Compiler backend issued warning messages to STDOUT.

説明: STDOUT を参照して、コンパイラ・バックエンドによって発行されたメッセージを調べること。

IBM2601I W Missing character assumed before character.DECLARE and other nonexecutable statements should not have labels.

説明: 示されている文字が欠落していたため、構文解析プログラムがその文字を挿入してソースを訂正した。

```plaintext
xx: dcl test fixed bin;
```

IBM2602I W Number of items in INITIAL list is count for the array variable name which contains array size elements.

説明: 配列の初期化は不完全になる。名付変数が構造体の一部である場合、この問題が生じた構造体の最初のエレメントは、メッセージ 1138 でフラグを立てられる。これは、おそらくプログラミング・エラー（下記の例では、6 ではなく 7 がおそらく正しい）であり、このプログラムを実行すると例外が発生する可能性がある。

```plaintext
dcl 1 a,
   2 b(8) fixed bin init( 1, (7) 29 ),
   2 c(8) fixed bin init( 1, (6) 29 );
```

IBM2603I W INITIAL list for the array variable name contains only one item.

説明: 配列の初期化は不完全になる。名付変数が構造体の一部である場合、この問題が生じた構造体の最初のエレメントは、メッセージ 1208 でフラグを立てられる。アスタリスクは、すべてのエレメントを 1 つの値を用いて初期化するための初期化タグとして使用できる。次の例では、b(1) および c(1) は値 13 で初期化されるが、エレメント b(2) から b(8), および c(2) から c(8) は未初期化である。これに対して、d の中のすべてのエレメントは 13 に初期化される。

```plaintext
dcl 1 a,
   2 b(8) fixed bin init( 13 ),
   2 c(8) fixed bin init( 13 ),
   2 d(8) fixed bin init( (* 13 );
```

IBM2604I W FIXED DEC(source-precision,source-scale) will be converted to FIXED DEC(target-precision,target-scale).

説明: FIXED DECIMAL への変換のソースが、異なる精度とスケール因数を持つ FIXED DECIMAL または PICTURE 変数である場合、および精度の違いがスケール因数の違いほど大きくなった場合、効数字数が失われることがある。 SIZE 条件が使用可能になっていれば、そのような状況の発生を検出するためのコードが生成され、このメッセージは出されない。

```plaintext
dcl a fixed dec(04) init(1009);
dcl b fixed dec(03);
b = a;
```

IBM2605I W Invalid carriage control character. Blank assumed.

説明: 指定された行に、無効な ANS 印刷形式文字が含
IBM2607I W PICTURE representing FIXED DEC(source-precision,source-scale) will be converted to FIXED DEC(target-precision,target-scale). Significant digits may be lost.

IBM2608I W PICTURE representing FIXED DEC(source-precision,source-scale) will be converted to PICTURE representing FIXED DEC(target-precision,target-scale). Significant digits may be lost.

IBM2609I W Comment contains a semicolon on line line-number, file-number.

IBM2610I W One argument to BUILTIN name built-in is FIXED DEC while the other is FIXED BIN. Compiler will not interpret precision as FIXED DEC.

IBM2611I W The binary value binary value appears in more than one WHEN clause.

IBM2612I W The character string character string appears in more than one WHEN clause.

IBM2613I W Unless it is an output-only parameter, variable may be uninitialized when used.
Both comparands are booleans.

if (a < b) = (c < d) then

DO-loop will always execute exactly once.
A semicolon after the DO may be missing.

if (a < b) = (c < d) then

SIZE of parameter variable will return the current size value since no descriptor is available.

SIZE STG CHAR(*) VARYING (VARYINGZ) οηʔλʔʹদιύɺετϨʔδɺαΠζ]

Passing a LABEL to a non-PL/I routine is very poor coding practice and will cause the compiler to generate less than optimal code.

Passing a LABEL to a non-PL/I routine is very poor coding practice and will cause the compiler to generate less than optimal code.

ENTRY used to set the initial value in a DO loop will be invoked after any TO or BY values are set.

ENTRY used to set the initial value in a DO loop will be invoked after any TO or BY values are set.

The suboption suboption is not valid for the suboption option of the option compiler option.

The suboption suboption is not valid for the suboption option of the option compiler option.

do

dlsaup.tprs = ads162.tprs;
dlsaup.tops = ads162.tops;
end;

ON ERROR block does not start with ON ERROR SYSTEM. An error inside the block may lead to an infinite loop.

ON ERROR block does not start with ON ERROR SYSTEM. An error inside the block may lead to an infinite loop.

dc1
 1 a based(p),
 2 b fixed bin(31),
 2 c fixed bin(31),
 2 d( 10 refer(c) ),
 3 e fixed bin(31),
 3 f fixed bin(31);

a = '';
IBM2623I W Mixing FIXED BIN and FLOAT DEC produces a FLOAT BIN result. Under DFP, this will lead to poor performance.

説明：DFP のもとでは FLOAT DEC から FLOAT BIN への変換に、ローパフォーマンスを引き起こす。効率の低いライブラリ呼び出しが必要となる。これを避けるために、DECIMAL 組み込み関数を FIXED BIN オペラ ンドに適用することができる。例えば、最初の割り当てステートメントを次の 2 番目の形に変更した方がよい。

```
IBM2624I W Mixing BIT and FLOAT DEC produces a FLOAT BIN result. Under DFP, this will lead to poor performance.

説明：DFP のもとでは FLOAT DEC から FLOAT BIN への変換に、ローパフォーマンスを引き起こす。効率の低いライブラリ呼び出しが必要となる。これを避けるために、DECIMAL 組み込み関数を BIT オペラ ンドに適用することができる。例えば、最初の割り当てステートメントを次の 2 番目の形に変更した方がよい。

```

IBM2625I W Mixing FLOAT BIN and FLOAT DEC produces a FLOAT BIN result. Under DFP, this will lead to poor performance.

説明：DFP のもとでは FLOAT DEC から FLOAT BIN への変換に、ローパフォーマンスを引き起こす。効率の低いライブラリ呼び出しが必要となる。

```
IBM2626I W Use of SUBSTR with a third argument equal to 0 is somewhat pointless since the result will always be a null string.

説明：SUBSTR 参照の 3 番目の引数をゼロの定数にす ることは、技術的には有効であるが、コーディング・エラーを示す可能性がある。

```
IBM2627I W No metadata will be generated for the structure identifier since its use of REFER is too complex.

説明：XMI メタデータは、REFER の使用が "simple" である場合に限り、REFER を使用した BASED 構造に対しても生成される。

```
IBM2628I W BYVALUE parameters should ideally be no larger than 32 bytes.

説明：32 バイトより大きい BYVALUE パラメーターは、必要となるオーバーヘッドが大きいとするため、パフ ラーマンスが低下する。

```
IBM2629I W No debug symbol information will be generated for identifier.

説明：名前付き変数に対してデバッグ・シンボル情報は生成されなかったため、したがって、デバッガーを使用したときに名前付き変数を参照できない。

```
IBM2630I W The result in an arithmetic operation has the attributes FIXED base(precision, scale-factor) which means that its scale factor is greater than its precision and that the operation may lead to an overflow.

説明：演算結果のスケール係数が結果の精度を超えた場 合は、予期しない FIXEDOVERFLOW 例外が発生する可能性がある。例えば、この例外は、LIMITS(FIXEDDEC(15)) オプションを指定して 2 つの FIXED DEC(15,8) 変数を乗算した場合に、その乗算の結果の総和が FIXED DEC(15,16) になるため発生す る。このメッセージを除去するには、PRECISION 組み込み関数を使用して、オペラ ンドの 1 つのスケール係数を減らすか、MULTIPLY 組み込み関数を使用して、 結果のデフォルト属性をオーバーライドする。

```
IBM2631I W One argument to BUILTIN name built-in is FIXED DEC while the other is FLOAT BIN. Compiler will not interpret precision as FIXED DEC.

説明：呼び出し元の BS 番目の数値をゼロの数値にす ることは、技術的には有効であるが、コーディング・エラーメッセージを示す可能性がある。
説明: このメッセージは、MULTIPLY、DIVIDE、ADD、およびSUBTRACT の組み込み関数に適用される。これらの関数の 1 つに対する 1 つの引数が FIXED DEC であり、もう 1 つの引数がFLOAT BIN であると、指定された精度が FIXED DEC 精度として解釈されない。これによって、不適切なデータの切り捨てが起こる可能性がある。例えば、以下の演算の結果は、属性 FIXED DEC(15) ではなく、属性 FLOAT BIN(15) を持つことになり、結果が不適切に切り捨てられる原因となることがある。

```plaintext
dcl a float bin(31);
dcl b fixed dec(15);
b = multiply( a, 1000, 15 );
```

IBM2632I W One argument to BUILTIN name built-in is FIXED DEC while the other is FLOAT DEC. Compiler will not interpret precision as FIXED DEC.

説明: このメッセージは、MULTIPLY、DIVIDE、ADD、およびSUBTRACT の組み込み関数に適用される。これらの関数の 1 つに対する 1 つの引数が FIXED DEC であり、もう 1 つの引数が FLOAT DEC であると、指定された精度が FIXED DEC 精度として解釈されない。これによって、不適切なデータの切り捨てが起こる可能性がある。例えば、以下の演算の結果は、属性 FIXED DEC(15) ではなく、属性 FLOAT DEC(15) を持つことになり、結果が不適切に切り捨てられる原因となることがある。

```plaintext
dcl a float dec(15);
dcl b fixed dec(15);
b = multiply( a, 1000, 15 );
```

IBM2633I W Given the support for addressing arithmetic, basing a POINTER or OFFSET on a FIXED BIN is unnecessary, and it will also fail to work properly if the size of a POINTER changes.

説明: このような変数を使用しているコードは、POINTER または OFFSET 変数のサイズが FIXED BIN 変数のサイズと同じである場合にのみ機能する。

```plaintext
dcl e entry;
dcl m entry;
a = e();
a = m();
```

IBM2634I W Given the support for addressing arithmetic, basing a FIXED BIN on a POINTER or OFFSET is unnecessary, and it will also fail to work properly if the size of a POINTER changes.

説明: このメッセージは、MAXGEN コンパイラ・オプションで許容されているより多くの中間言語命令をステートメントが使用した場合に生成される。メッセージは、過剰に複雑なステートメントを指す可能性がある。

IBM2635I W The result in an arithmetic operation has the attributes FIXED base (precision, scale-factor) which means that some significant digits may be lost.

説明: 演算結果のスケール係数が負の場合、1 の位の桁が失われることがある。例えば、このような場合には、FIXED DEC(11,2) 変数を FIXED DEC(31,29) 変数で除算した場合に、除算結果に属性 FIXED DEC(31,7) が有るために発生する。このメッセージが出ないようにするために、PRECISION 組み込み関数を使用して、オペランドの 1 つのスケール係数を減らすか、DIVIDE 組み込み関数を使用して、結果のデフォルト属性をオーバーライドすることができる。

IBM2636I W The ordinal ordinal name appears in more than one WHEN clause.

説明: 制御下の SELECT ステートメントでは、WHEN 文節に前の WHEN 文節と同じ値がある場合、2 番目の WHEN 文節のコードは実行されない。このメッセージが生成されるのは、その SELECT ステートメントがその他の点ではプレーン・テーブルへの変換に適している場合だけである。

IBM2637I W An ENTRY invoked as a function should have the RETURNS attribute.

説明: 関数として ENTRY が使用される場合、RETURNS 属性と共に宣言する必要がある。コンパイラは、以下の例の両方の ENTRY に RETURNS 属性を適用するが、E の場合、コンパイラは FLOAT DEC を戻すものと想定し、M の場合は、FIXED BIN を戻すものと想定する。

```plaintext
dcl a float dec(15);
dcl b fixed dec(15);
b = multiply( a, 1000, 15 );
```

IBM2638I W Statement used count intermediate language instructions.

説明: このような変数を使用しているコードは、POINTER または OFFSET 変数のサイズが FIXED BIN 変数のサイズと同じである場合にのみ機能する。
IBM2639I W Previous statement used count
intermediate language instructions.

IBM2640I W Target is a REFER object. Results are
undefined if an assignment changes a
REFER object.

IBM2641I W The suboption option of the option
compiler option must be followed by a
(possibly empty) parenthesized list.

IBM2642I W If a block has the OPTIONS
(REENTRANT) attribute, then the
DEFAULT(NONASGN) option should be
in force.
第 6 章 コンパイラーエラー・メッセージ (1226 から 1499, 2400 から 2599)

IBM1226I E Area extent is reduced to maximum value.
説明: AREA 変数の最大許容サイズは 16777216 である。

IBM1227I E keyword statement is not allowed where an executable statement is required. A null statement will be inserted before the keyword statement.
説明: 一部のコンテキスト（例えば IF-THEN 文節のあと）では、実行可能ステートメントのみが許される。そのようなコンテキストの 1 つで、DECLARE、DEFINE、DEFAULT、または FORMAT ステートメントが検出された。問題のステートメントの前に、ヌル・ステートメント（セミコロンのみで構成されるステートメント）が挿入される。

IBM1228I E DEFAULT statement is not allowed where an executable statement is required. The DEFAULT statement will be enrolled in the current block, and a null statement will be inserted in its place.
説明: 一部のコンテキスト（例えば IF-THEN 文節のあと）では、実行可能ステートメントのみが許される。そのようなコンテキストの 1 つで、DEFAULT ステートメントが検出された。DEFAULT ステートメントの代わりに、ヌル・ステートメント（セミコロンのみで構成されるステートメント）が挿入される。

IBM1229I E FORMAT statement is not allowed where an executable statement is required. The FORMAT statement will be enrolled in the current block, and a null statement will be inserted in its place.
説明: 一部のコンテキスト（例えば IF-THEN 文節のあと）では、実行可能ステートメントのみが許される。そのようなコンテキストの 1 つで、FORMAT ステートメントが検出された。FORMAT ステートメントの代わりに、ヌル・ステートメント（セミコロンのみで構成されるステートメント）が挿入される。

IBM1230I E Arguments have been specified for the variable variable name, but it is not an entry variable.
説明: 引数リストは ENTRY 参照の場合にのみ有効である。

```c
  dcl a(15) entry returns( fixed bin(31) );
  i = a(3)(4);
```

IBM1231I E Arguments/subscripts have been specified for the variable variable name, but it is neither an entry nor an array variable.
説明: 引数/添字リストは、ENTRY および配列参照の場合にのみ有効である。

```c
  dcl a fixed bin;
  i = a(3);
```

IBM1232I E Extraneous comma at end of statement ignored.
説明: コンマの次に、有効な構文エレメント（ID など）ではなく、セミコロンがある。コンマは無視され、セミコロンが有効になる。RULES(LAXPUNC) ののもとでは、テキストは同じだが重大度の低いメッセージが出される。

```c
  dcl 1 a, 2 b fixed bin, 2 c fixed bin, ;
```

IBM1233I E Missing character assumed.
説明: 指示された文字が欠落しているが、ソースの中でそれ以外の文字がない。構文解析プログラムが、欠落した文字を挿入してソースを訂正した。
RULES(LAXPUNC) ののもとでは、テキストは同じだが重大度の低いメッセージが出される。

IBM1234I E Missing character assumed before character.
説明: 示されている文字が欠落していたため、構文解析
プログラムがその文字を挿入してソースを訂正した。
RULES(LAXPUNC) のもとでは、テキストは同じだが重大度の低いメッセージが出される。

```
display( 'Program starting' );
```

IBM1235I E No data format item in format list.
説明: フォーマット・リスト内でデータ・フォーマット項目が指定されていなければ、データ項目は転送することができない。

```
put edit ( (130)'-' ) ( col(1) );
```

IBM1236I E Subscripts on keyword labels are ignored.
説明: PROCEDURE、PACKAGE、または ENTRY ステートメントに指定するラベルには添え字を付けてはならない。

IBM1237I E EXTERNAL ENTRY attribute is assumed for variable-name.
説明: 宣言されていない変数を引数リストに使用した。したがって、変数は BUILTIN としてコンテキスト宣言されていることになるが、名前は組み込み関数の名前ではない。

```
i = isll( n, 221 );
```

IBM1238I E The second argument to the BUILTIN name built-in is greater than the precision of the result.
説明: ISLL 内のシフトの量は、結果の精度より大きな値であってはならない。

IBM1239I E The attribute attribute is not supported and is ignored.
説明: 示されている属性は、SAA PL/I 言語の一部でなく、このプラットフォームでサポートされているものでもない。

```
dcl f file transient;
```

IBM1240I E The attribute attribute is invalid in a RETURNS descriptor.
説明: RETURNS 記述に構造体、共用体、または配列を指定していない可能性がある。

```
dcl a entry returns( 1 union, 2 ptr, 2 ptr );
```

IBM1241I E Only '=' and '^=' are allowed as operators in comparisons involving complex numbers.
説明: 複素変数には等号および不等号を指定する必要があるが、別の方法で複素変数を関連付けようとしている。

IBM1242I E Only '=' and '^=' are allowed as operators in comparisons involving program control data.
説明: プログラム制御データ間の関係は定義されている。おそらく、変数にミススペルがある。

IBM1243I E REGIONAL( integer specification (2 or 3) ) ENVIRONMENT option is not supported.
説明: REGIONAL(2) および REGIONAL(3) ENVIRONMENT オプションは、コンパイル時に構文検査されるが、実行時にはサポートされていない。

IBM1244I E The variable specified as the option value in an ENVIRONMENT option must be a STATIC scalar with the attributes REAL FIXED BIN(31,0).
説明: これは KEYLENGTH、KEYLOC、および RECSIZE サブオプションに適用される。

IBM1245I E The variable specified as the option value in an ENVIRONMENT option must be a STATIC scalar with the attribute CHARACTER.
説明: これは PASSWORD サブオプションに適用される。

IBM1246I E Argument to BUILTIN name built-in should be CONNECTED.
説明: このメッセージは、例えば ADDR 組み込み関数に適用される。ADDR 関数が戻す値は、引数の最初の
データのアドレスである。このポインターを使用して基
底付き変数を参照すると、変数は、引数が持つストレージ
にマップされずに他の変数が持つストレージにマップされることがある。

IBM1248I E Argument to BUILTIN name built-in
should have arithmetic type.

説明：示されている組み込み関数に対する引数は、算術
型でなければならない。必要な暗黙の変換は実行される
が、プログラミング・エラーがある可能性がある。

IBM1249I E Argument to BUILTIN name built-in
should have CHARACTER type.

説明：示されている組み込み関数に対する引数は、
CHARACTER型でなければならない。必要な暗黙の変
換は実行されるが、プログラミング・エラーがある可能
性がある。

IBM1272I E Argument number argument number to
BUILTIN name built-in is negative. It will
be changed to 0.

説明：COPYおよびREPEATなどの組み込み関数に対
する2番目の引数は、負の値であったわけはない。

x = copy( y, -1 );

IBM1273I E Third argument to BUILTIN name
built-in is negative. It will be changed to 0.

説明：COMPARE、PLIFILL、およびPLIMOVEなどの
組み込み関数に対する3番目の引数は、負の値であっ
てはならない。

call plimove( a, b, -1 );

IBM1274I E RULES(NOLAXIF) requires BIT(1)
expressions in IF, WHILE, etc.

説明：IF、WHILE、UNTIL、および上位構造体のない
WHEN文節の中の式には、属性BIT(1)NONVARYING
を指定しなければならない。これを指定しないと、式は
適切なnull値と比較される。RULES(LAXIF)オプショ
ンを指定してある場合は、このメッセージは出されな
い。

dcl x bit(8) aligned;
...
if x then ...

IBM1281I E OPTIONS(RETCODE) on ATTACH
reference is invalid and will be ignored.

説明：OPTIONS(RETCODE)はATTACH参照ではサ
ポートされない。

IBM1293I E WIDECHAR extent is reduced to
maximum value.

説明：WIDECHAR変数の最大許容長は16383である。

IBM1294I E BIT extent is reduced to maximum value.

説明：BIT変数の最大許容長は32767である。

IBM1295I E Sole bound specified is less than 1. An
upper bound of 1 is assumed.

説明：デフォルトの下限は1であるが、上限は下限よ
り大きい値でなければならない。

dcl x(-5) fixed bin;

IBM1296I E The BYADDR option conflicts with the
SYSTEM option.

説明：SYSTEM(IMS)またはSYSTEM(CICS)が有効な
ときにMAINプロシージャに渡される引数は、
BYADDR属性を持っていてはならない。

*process system(ims);
a: proc( x );
dcl x ptr byaddr;

IBM1297I E Source and target in BY NAME
assignment have no matching base
identifiers.

説明：BY NAMEでは、ソース構造体とターゲット構
造体に一致する基本エレメントIDが1つ以上なけ
ればならない。

第 6 章 コンパイラ・エラー・メッセージ (1226 から 1499、2400 から 2599) 35
dcl 1 a, 2 b, 2 c, 2 d;
dcl 1 w, 2 x, 2 y, 2 z;
a = w, by name;

IBM1298I E Characters in B3 literals must be 0-7.
説明: B3 リテラルでは、各文字は 0 から 7 のいずれかでなければならない。

IBM1299I E CHARACTER extent is reduced to maximum value.
説明: CHARACTER 変数の最大許容長は 32767 である。

IBM1300I E variable name is contextually declared as attribute.
説明: RULES(NOLAXDCL)が指定されているので、これは E レベルのメッセージである。

IBM1301I E A DECIMAL exponent is required.
説明: FLOAT 定数内の E のあとには、1 つ以上の 10 近数 (任意で直前に符号が付けられる) が必要である。

IBM1302I E The limit on the number of DEFAULT predicates in a block has already been reached. This and subsequent DEFAULT predicates in this block will be ignored.
説明: 各ブロックに入れる DEFAULT は 31 個以下でなければならない。

IBM1303I E A second argument to the BUILTIN name built-in must be supplied for arrays with more than one dimension. A value of 1 is assumed.
説明: LBOUND、HBOUND、および DIMENSION 組込み関数を 2 次元以上の配列に適用する場合は、2つの引数が必要である。

IBM1304I E Second argument to BUILTIN name built-in is not positive. A value of 1 is assumed.
説明: DIMENSION、HBOUND、および LBOUND 組込み関数では、2 番目の引数は正の値でなければならない。

IBM1305I E Second argument to BUILTIN name built-in is greater than the number of dimensions for the first argument. A value of dimension count is assumed.
説明: LBOUND、HBOUND、および DIMENSION 組込み関数に対する 2 番目の引数は、その配列引数の次元数以下でなければならない。

dcl a(5,10) fixed bin;
do i = 1 to lbound(a,3);

IBM1306I E Repeated declaration of identifier is invalid and will be ignored.
説明: レベル 1 の変数名は、同じブロック内で繰り返してはならない。

dcl a fixed bin, a float;

IBM1307I E Duplicate specification of arithmetic precision. Subsequent specification ignored.
説明: 精度属性は、1 つの宣言の中で一度だけ指定する必要がある。

dcl a fixed(15) bin(31);

IBM1308I E Repeated declaration of identifier is invalid. The name will be replaced by an asterisk.
説明: 同じ構造体または共用体内部では、特定のサブレベルの変数名は固有でなければならない。

dcl 1 a, 2 b fixed, 2 b float;
Duplicate specification of attribute.
Subsequent specification ignored.

説明: INITIAL などの属性は、同じ DECLARE ステートメントの属性に関して繰り返してはならない。

```plaintext
dcl a fixed init(0) bin init(2);
```

The attribute character conflicts with previous attributes and is ignored.

説明: 属性は整合性のあるものでなければならない。

```plaintext
dcl a fixed real float;
```

EXTERNAL name contains no non-blank characters and is ignored.

説明: 外部名には非プランク文字をいくつか指定しなければならない。

```plaintext
dcl x external( ' ' );
```

WX literals should contain a multiple of 4 hex digits.

説明: WX リテラルは、4 桁の 16 進数の倍数を指定しなければならない。

```plaintext
x = '00'wx;
```

ELSE clause outside of an open IF-THEN statement is ignored.

説明: ELSE 文節が有効なのは、IF-THEN ステートメントの直後ににある場合である。

```plaintext
do; if a > b then; end; else a = 0;
```

END label matches a label on an open group, but that group label is subscripted.

説明: 添え字付けラベルを持つグループのための END ステートメントには、添え字が付いたラベルが必要である。

```plaintext
a(1): do;
... end a;
```

END label is not a label on any open group.

説明: END ステートメントのラベルは、BEGIN、DO、PACKAGE、PROCEDURE、または SELECT を開始するステートメントの LABEL に一致していなければならない。

```plaintext
a: do;
... end b;
```

An END statement may be missing after an OTHERWISE unit. One will be inserted.

説明: SELECT ステートメント内の OTHERWISE ユニットのあとでは、END ステートメントのみが有効である。

```plaintext
select;
  when ( ... )
    do;
  end;
  otherwise
    do;
  end;
  display( .... );
```

The ENVIRONMENT option option-name conflicts with preceding ENVIRONMENT options. This option will be ignored.

説明: ENVIRONMENT オプションの指定の中で矛盾が検出された。ENV(CONSECUTIVE INDEXED)を例にとると、INDEXED オプションは CONSECUTIVE オプションと矛盾する。

```plaintext
```

STRINGSIZE condition raised while evaluating expression. Result is truncated.

説明: コンパイラ時のユーザー式の変換中に、ターゲット・ストリングがソースより短いことが検出され、それが原因で STRINGSIZE 条件が発生した。
IBM1320I E STRINGRANGE condition raised while evaluating expression. Arguments are adjusted to fit.

説明: SUBSTR 参照内のすべての引数が定数または制限付きの式である場合は、参照はコンパイル時に評価される。引数が SUBSTR 组み込み関数用に記述された規則に従っていない場合は、STRINGRANGE 条件が発生する。

   a = substr( 'abcdef', 5, 4 );

IBM1321I E LEAVE/ITERATE label matches a label on an open DO group, but that DO group label is subscripted.

説明: 添え字付きラベルを持つグループのための LEAVE/ITERATE ステートメントには、添え字が付いたラベルが必要である。

   a(1): do;
   ...
   leave a;

IBM1322I E LEAVE/ITERATE label is not a label on any open DO group in its containing block.

説明: LEAVE/ITERATE には、LEAVE/ITERATE ステートメントと同じプロック内の DO ループ開始のラベルを指定しなければならない。

   a: do loop;
   begin;
   leave a;

IBM1323I E ITERATE/LEAVE statement is invalid outside an open DO statement. The statement will be ignored.

説明: ITERATE/LEAVE ステートメントは、DO グループ内部でのみ有効である。

   a: begin;
   ...
   leave a;
   ...
   end a;

IBM1324I E The name name occurs more than once in the EXPORTS clause.

説明: package ステートメントの EXPORTS 文節内では、名前は固有でなければならない。

   a: package exports( a1, a2, a1 );

IBM1325I E The name name occurs in the EXPORTS clause, but is not the name of any level-1 procedure.

説明: package ステートメントの EXPORTS 文節内では、個々の名前はそのパッケージ内のレベル 1 プロシージェーの名前でなければならない。

   a: package exports( a1, a2, a3 );

IBM1326I E Variables declared without a name must be structure members or followed by a substructure list.

説明: アスタリスクが使用できるのは、構造体名、共用体名、または構造体または共用体のメンバーの場合のみである。LIKE 属性を指定したレベル 1 の構造体名には、アスタリスクは使用できない。

   dcl * char(20) static init('who can use me');

IBM1327I E The CHARACTER VARYING parameter to MAIN should be ASCII with the attribute NATIVE.

説明: パラメーターが EBCDIC の場合、またはその属性が NONNATIVE の場合は、予想外の結果が生じることがある。

IBM1328I E The CHARACTER VARYING parameter to MAIN should be EBCDIC with the attribute BIGENDIAN.

説明: パラメーターが ASCII の場合、またはその属性が LITTLEENDIAN の場合は、予想外の結果が生じることがある。このメッセージは SYSTEM(MVS) などの場合にのみ適用される。
IBM1330I E The I in an iSUB token must be bigger than zero. A value of 1 is assumed.

説明: iSUB トークン内の I は、有効な次元数を表しているなければならない。

```plaintext
dcl b(8) fixed bin def(0sub,1);
```

IBM1331I E The I in an iSUB token must have no more than 2 digits. A value of 1 is assumed.

説明: iSUB トークン内の I は、1 個または 2 個の数字でなければならない。

```plaintext
dcl b(8) fixed bin def(001sub,1);
```

IBM1332I E The format-item format item requires an argument when used in GET statement. A value of 1 is assumed.

説明: GET ステートメントに指定する場合は、A、B、および G フォーマット項目に幅を指定する必要がある。

```plaintext
get edit(name) (a);
```

IBM1333I E Non-asterisk array bounds are not permitted in GENERIC descriptions.

説明: 総称記述では、すべての配列境界をアスタリスクにする必要がある。

```plaintext
dcl x generic ( el when( (10) fixed ), ...)
```

IBM1334I E String lengths and area sizes are not permitted in GENERIC descriptions.

説明: 総称記述では、すべてのストリング長および領域サイズをアスタリスクにする必要がある。

```plaintext
dcl f ext entry options( cobol );
dcl 1 a, 2 b bit(8), 2 c bit(8);
call f( a );
```

IBM1335I E Entry description lists are not permitted in GENERIC descriptions.

説明: 総称記述リスト中の ENTRY 属性をエントリー記述リストで修飾してはならない。

```plaintext
IBM1336I E GRAPHIC extent is reduced to maximum value.
```

説明: GRAPHIC 変数の最大許容長は 16383 である。

```plaintext
x = '00'gx;
```

IBM1337I E GX literals should contain a multiple of 4 hex digits.

説明: GX リテラルは漢字ストリングを表すものであり、4 個の 16 進数の倍数を指定しなければならない。

```plaintext
IBM1338I E Upper bound is less than lower bound. Bounds will be reversed.
```

説明: 変数の宣言で、上限が下限より小さい。これを訂正するために、上限と下限を入れ替え処理が行われる。例えば、DECLARE x(3:1) が、DECLARE x(1:3) に変更される。

```plaintext
DECLARE x(3:1)
DECLARE x(1:3)
```

IBM1339I E Identifier is too long. It will be collapsed to identifier.

説明: ID の最大長は、LIMITS コンパイラ・オプションの NAME サブオプションにより設定される。

IBM1340I E Argument number argument-number in ENTRY reference ENTRY name contains BIT data. NOMAP is assumed.

説明: BIT データを含む引数が COBOL ルーチンへの呼び出し内に存在する。このような PL/I と COBOL 間の構造のマッピングはサポートされない。

```plaintext
dcl f ext entry options( cobol );
dcl 1 a, 2 b bit(8), 2 c bit(8);
call f( a );
```

IBM1341I E Argument number argument-number in ENTRY reference ENTRY name is or contains a UNION. NOMAP is assumed.

説明: UNION データを含む引数が COBOL ルーチン
への呼び出し内に存在する。このような PL/I と COBOL 間の構造のマッピングはサポートされない。

```plaintext
dcl f ext entry options( cobol );
dcl 1 a union, 2 b char(4), 2 c fixed bin(31);
call f( a );
```

IBM1342I E Argument number argument-number in ENTRY reference ENTRY name contains non-constant extents. NOMAP is assumed.

説明: 非定数エクステントを含む引数が COBOL ルーチンへの呼び出し内に存在する。このような PL/I と COBOL 間の構造のマッピングはサポートされない。

```plaintext
dcl f ext entry options( cobol );
dcl n static fixed bin init(17);
dcl 1 a, 2 b char(n), 2 c fixed bin(31);
call f( a );
```

IBM1343I E nomap-suboption is invalid as a suboption of option.

説明: “n” が 0 以上の整数である場合、サブオプションは ARGn と指定しなければならない。

```plaintext
dcl f ext entry options( cobol nomap(arg0) );
```

IBM1344I E NOMAP specifications are valid only for ILC routines.

説明: NOMAP、NOMAPIN、および NOMAPOUT は、COBOL、FORTRAN、および ASM プログラムであるに倠え、エントリーにのみ有効である。

IBM1345I E Initial level number in a structure is not 1.

説明: レベル 1 の DECLARE ステートメントが欠落している可能性がある。

```plaintext
dcl
```

IBM1346I E INIT expression should be enclosed in parentheses.

説明: これは、あいまいさを避けるために必要である。例えば、すべてのエレメントを値 4 を用いて初期化するのか、最初のエレメントだけを値 9 を用いて初期化するのかが不明瞭になる。

```plaintext
dcl a(5) fixed bin init( (5)+4 );
```

IBM1347I E B assumed to complete iSUB.

説明: 形式 Isu の言語エレメントがない。

```plaintext
dcl a(10) def b(Isu, Isub );
```

IBM1348I E Digit in BINARY constant is not zero or one.

説明: BINARY 定数では、個々の桁の数字は 0 または 1 でなければならず。

IBM1349I E Characters in BIT literals must be 0 or 1.

説明: BIT リテラルでは、各文字は 0 または 1 でなければならない。

IBM1350I E Character with decimal value n does not belong to the PL/I character set. It will be ignored.

説明: 示されている文字は、PL/I 文字セットの一部ではない。これは、NOT 記号または OR 記号を含むプログラムを別のマシンから移植したときに、それらの記号が PL/I 文字セットに含まれていない文字に変換されたことを示す。NOT および OR コンパイラ・オプションを使用すると、この問題の回避に役立つ。

IBM1351I E Characters in hex literals must be 0-9 or A-F.

説明: 16 進数リテラルでは、各文字は 0 から 9 または A から F のいずれかでなければならない。
IBM1352I E The statement element character is invalid. The statement will be ignored.

説明: 指定されているエレメントが無効なため、入力したステートメントは解析できなかった。

IBM1353I E Use of underscore as initial character in an identifier accepted although invalid under LANGLVL(SAA).

説明: LANGLVL(SAA) のもとでは、ID は英字または特別言語文字で開始されなければならない。この場合、ID は下線で始まっていてはならない。LANGLVL(SAA2) のもとでは、ID は下線で始まっていてもよいが、IBM で始まる名前は IBM で使用するために予約されている。

IBM1354I E Multiple argument lists are valid only with the last identifier in a reference.

説明: 形式 x(1)(2).y.z の参照が無効である。

IBM1355I E Empty argument lists are valid only with the last identifier in a reference.

説明: 形式 x().y.z の参照が無効である。

IBM1356I E Character with decimal value n does not belong to the PL/I character set. It is assumed to be an OR symbol.

説明: 示されている文字は、PL/I 字母セットの一部ではなく、直接同じ文字が続いていた。これは、OR 記号を含むプログラムを別のマシンから移植したときに、この記号が PL/I 字母セットに含まれていない文字に変換されたことを示す。OR コンパイラ・オプションを使用すると、この問題の回避に役立つ。

IBM1357I E Character with decimal value n does not belong to the PL/I character set. It is assumed to be a NOT symbol.

説明: 示されている文字は PL/I 字母セットの一部ではなく、直接に =, <, または > 記号が続いていた。これは、NOT 記号を含むプログラムを別のマシンから移植したときに、この記号が PL/I 字母セットに含まれていない文字に変換されたことを示す。NOT コンパイラ・オプションを使用すると、この問題の回避に役立つ。

IBM1358I E The scale factor specified in BUILTIN name built-in with a floating-point argument must be positive. It will be changed to 1.

説明: これは ROUND 組み込み関数に適用される。正の値以外の値は 1 に変更される。

```
dcl x float bin(53);
x = round( x, -1 );
```

IBM1359I E Names in RANGE(identifier : identifier) are not in ascending order. Order is reversed.

説明: 名前は昇順に指定しなければならない。

```
default range( h : a ) fixed bin;
```

IBM1360I E The name identifier has already been defined as a FORMAT constant.

説明: FORMAT 定数の名前を、LABEL 定数の名前としても使用することはできない。

```
f(1): format( a, x(2), a );
f(2): ;
```

IBM1361I E The name identifier has already been defined as a LABEL constant.

説明: LABEL 定数の名前を、FORMAT 定数の名前としても使用することはできない。

```
f(1): ;
f(2): format( a, x(2), a );
```

IBM1362I E The label label-name has already been declared. The explicit declaration of the label will not be accepted.

説明: ラベル定数配列用の宣言は許されない。

```
dcl a(10) label variable;
```
a(1): ...
a(2): ...

IBM1363I E Structure level greater than 255 specified. It will be replaced by 255.

説明: サポートされる最大構造体レベルは 255 である。

dcl
  1 a,
  256 b,
  2 c,

IBM1364I E Elements with level numbers greater than 1 follow an element without a level number. A level number of 1 is assumed.

説明: 構造体レベルが欠落している可能性がある。

dcl
  a,
  2 b,
  2 c,

IBM1365I E Statement type resolution requires too many lexical units to be examined. The statement will be ignored.

説明: ステートメントが割り当てであるか別の PL/I ステートメントであるかを判別するには、そのステートメン トの多くのエレメントを調べる必要がある。検査するエレメントの数が多すぎると、コンパイラはそのステー トメントにエラーのフラグを立てる。例えば、次のステートメントは、レクサー (lexer: 用語解析プログラム) が等号を検出するまでは DECLARE とみなされる。

dcl ( a, b, c ) = d;

IBM1366I E Level number following LIKE specification is greater than the level number for the LIKE specification. LIKE attribute will be ignored.

説明: LIKE は、親の構造体または共用体では指定できない。

dcl x char(-10);

IBM1367I E Statements inside a SELECT must be preceded by a WHEN or an OTHERWISE clause.

説明: WHEN または OTHERWISE が欠落している可能性がある。

select;
  i = i + 1;
  when ( a > 0 )
    ...

IBM1368I E The attribute character is invalid if it is not followed by an element with a greater logical level.

説明: 示されている属性は、親構造体でのみ有効である。

dcl
  1 a like x,
  2 b,
  2 c,

IBM1369I E MAIN has already been specified in the PACKAGE.

説明: OPTIONS(MAIN) は、PACKAGE 内の 1 つの PROCEDURE にしか指定できない。最初の指定以外はすべて無視される。

dcl x char(31);

IBM1370I E Extent expression is negative. It will be replaced by the constant 1.

説明: エクステントは正の値でなければなららない。

dcl x char(-10);
IBM1371I E Structure element identifier is not dot qualified.

説明: オプション RULES(NOLAXQUAL) のもとでは、すべての構造体構成要素は、1つ以上の親の名前で修飾する必要がある。

IBM1372I E EXTERNAL specified on internal entry point.

説明: EXTERNAL 属性があるのは、外部プロシージャーおよび外部エントリーの場合のみである。例えば、 パッケージ以外の場合は最外部のプロシージャーおよびその中に含まれているエントリー・ステートメントのみ、パッケージの場合は PACKAGE ステートメントの EXPORTS 文節にリストされているプロシージャおよびエントリーのみで、有効である。

```plaintext
a: proc;
b: proc ext('_B');
```

IBM1373I E Variable variable name is implicitly declared.

説明: RULES(NOLAXDCL) オプションのもとでは、組み込み関数 SYSPRINT および SYSIN のコンテキスト宣言の場合を除き、すべての変数を宣言する必要がある。

IBM1374I E Contextual attributes conflicting with PARAMETER will not be applied to variable name.

説明: パラメーターに適用できるコンテキスト属性のみが適用される。例えば、CONSTANT および EXTERNAL は、ファイルのコンテキスト宣言に適用されるが、ファイルのパラメーターには適用されない。

```plaintext
a: proc( f );
  open file( f );
```

IBM1375I E The DEFINED variable variable name does not fit into its base variable.

説明: DEFINED 変数に必要なビット、文字、またはグラフィックスの数は、ベースの変数内のビット、文字、またはグラフィックスの数を超えてはならない。

```plaintext
dcl a char(10);
dcl b char(5) defined(a) pos( 8 );
```

IBM1376I E Factoring of level numbers into declaration lists containing level numbers is invalid. The level numbers in the declaration list will be ignored.

説明: スケール因数として組み込むのは属性だけである。

```plaintext
dcl 1 a, 2 ( b, 3 c, 3 d ) fixed;
```

IBM1377I E A scale factor has been specified as an argument to the BUILTIN name built-in, but the result of that function has type FLOAT. The scale factor will be ignored.

説明: スケール因数は FIXED 値の場合にのみ有効である。

```plaintext
x = binary(1e0,4,2);
```

IBM1378I E An arguments list or subscripts list has been provided for a GENERIC entry reference. It will be ignored.

説明: GENERIC エントリー参照には、引数や添え字リストを含めることはできない。

```plaintext
dcl t generic( sub1(10) when((*)),
  sub2 when((*,*)) );
```

IBM1379I E Locator qualifier for GENERIC reference is ignored.

説明: GENERIC 参照はロケーターで修飾できない。

```plaintext
dcl x generic ( ... );
call p->x;
```
IBM1380E Target structure in assignment contains no elements with the ASSIGNABLE attribute. No assignments will be generated.

説明: 構造体への割り当てを行うには、その構造体のエレメントが、割り当て可能な属性を備えていなければならない。

```pli
dcl a based,
   2 nonasgn fixed bin,
   2 nonasgn fixed bin;
p->a = 0;
```

IBM1381E DEFINED base for a BIT structure should be aligned.

説明: パイト境界で位置合わせされていない変数に BIT 構造体 (または共用体) を定義すると、予想外の結果が生じることがある。特に、DEFINED 変数の副構造体が別のルーチンに渡された場合は、結果は予測できない。

```pli
dcl a(20) bit(8) unaligned;
dcl b bit(8) defined(a(3));
```

IBM1382E INITIAL attribute is invalid for STATIC FORMAT variables. Storage class is changed to AUTOMATIC.

説明: FORMAT 変数は、ブロック活動化情報を必要とするため、コンバイル時には初期化できない。変数が構造体のメンバーの場合は、ストレージ・クラスは AUTOMATIC に変更されず、代わりに重大メッセージが出される。

```pli
a: proc(x) options(nodescriptor);
dcl x char(*);
```

IBM1383E Labels on keyword statements are invalid and ignored.

説明: DECLARE、DEFAULT、DEFINE の各ステートメント、WHEN 文節、OTHERWISE 文節には、ラベルを指定できない。

IBM1384E message

説明: このメッセージは、バックエンド・エラー・メッセージを報告するために使用される。

IBM1385E Invalid DEFINED - string overlay defining attempted.

説明: DEFINED 属性のベース変数は、DEFINED 変数と同じストリング型の UNALIGNED、NONVARYING ストリング変数で構成されていなければならない。

IBM1386E DEFINED base for a BIT variable should not be subscripted.

説明: 2 番目の変数 (ベース) でビット変数を定義する場合、ベースは配列であってもよいが、添え字を付けてはならない。

```pli
dcl a(20) bit(8) unaligned;
dcl b bit(8) defined(a(3));
```

IBM1387E The NODESCRIPTOR attribute is invalid when any parameters have * extents. The NODESCRIPTOR attribute will be ignored.

説明: パラメーターに * エクステントを指定できるのは、記述子と一緒に渡す場合だけである。NODESCRIPTOR 属性は無視され、記述子はすべての配列、構造体、およびストリング引数について渡されたものと思定される。

```pli
a: proc(x) options(nodescriptor);
dcl x(20) fixed bin nonconnected;
```

IBM1388E The NODESCRIPTOR attribute is invalid when any parameters have the NONCONNECTED attribute.

説明: パラメーターに NONCONNECTED 属性を指定できるのは、記述子も一緒に渡す場合だけである。

```pli
a: proc(x) options(nodescriptor);
dcl x(20) fixed bin nonconnected;
```

IBM1389E The identifier identifier is not the name of a built-in function. The BUILTIN attribute will be ignored.

説明: BUILTIN 属性は、組み込み関数または組み込みサブルーチンの名前である ID にのみ適用できる。

IBM1390E note

説明: このメッセージは、%NOTE ステートメントで戻りコード 8 と共に使用される。
IBM1391I E End-of-source has been encountered after an unmatched comment marker.
説明: コメント終了マーカーが欠落している可能性がある。

IBM1392I E End-of-source has been encountered after an unmatched quote.
説明: 右引用符が欠落している可能性がある。

IBM1393I E Item in OPTIONS list conflicts with other attributes in the declaration. option-name is ignored.
説明: オプション・リスト内の示されているエレメントは無効である。

```
dcl a file options( assembler );
```

IBM1394I E Item in OPTIONS list is invalid for BEGIN blocks. option-name is ignored.
説明: オプション・リスト内の示されているエレメントは、BEGINブロックには有効である（PROCEDUREの場合には有効であることもある）。

```
begin options( assembler );
```

IBM1395I E Item in OPTIONS list is invalid for PACKAGES. option-name is ignored.
説明: オプション・リスト内の示されているエレメントは、PACKAGEには有効である（PROCEDUREの場合には有効であることもある）。

```
a: package exports(*) options( assembler );
```

IBM1396I E Item in OPTIONS list is invalid for PROCEDUREs. option-name is ignored.
説明: オプション・リスト内の示されているエレメントは、PROCEDUREには有効である（ENTRYの場合には有効であることもある）。

```
a: procedure options( inter );
```

IBM1397I E Item in OPTIONS list is invalid for nested PROCEDUREs. option-name is ignored.
説明: オプション・リスト内に示されているエレメントは、ネストされたPROCEDUREには無効である（ネストされていないPROCEDUREには有効であることもある）。

```
a: proc;
b: proc options( main );
```

IBM1398I E Invalid item in OPTIONS list. option-name is ignored.
説明: オプション・リスト内の示されているエレメントは、ステートメントまたは宣言でサポートされるオプションではない。

```
a: proc options( unknown );
```

IBM1399I E Item in OPTIONS list is invalid for ENTRY statements. option-name is ignored.
説明: オプション・リスト内の示されているエレメントは、ENTRYステートメントには無効である（PROCEDUREには有効であることもある）。

```
a: entry options( chargraphic );
```

IBM1400I E Item in OPTIONS list conflicts with preceding items. option-name is ignored.
説明: オプション・リストのエレメントには整合性がなければならない。次の例の場合は、BYVALUE と BYADDR が矛盾しているため、整合性がない。

```
a: proc options( byvalue byaddr );
```

IBM1401I E Parameter attributes have been specified for a variable that is not a parameter. The parameter attributes are ignored.
説明: パラメーター属性（BYVALUE または CONNECTED など）は、パラメーターの場合のみ指定できる。
a: proc;
   dcl x byvalue ptr;

IBM1402I E Constant in POSITION attribute is less than 1.
説明: POSITION 属性には正の値を指定しなければならない。

IBM1403I E The end of the source was reached before the logical end of the program.
Null statements and END statements will be inserted as necessary to complete the program.
説明: ソースには、すべての PACKAGE, PROCEDURE, BEGIN ブロック、および SELECT ステートメント用の END ステートメントと、すべての IF-THEN 文節および ELSE 文節用のステートメントが含まれていなければならない。

IBM1404I E The procedure name proc-name has already been declared. The explicit declaration of the procedure name will not be accepted.
説明: 内部プロシージャー用の宣言は許されない。

IBM1405I E Only one description is allowed in a returns descriptor.
説明: 1 つの関数からは 1 つの値しか戻せない。

IBM1406I E The product of the repetition factor repetition-factor and the length of the constant string to which it is applied is greater than the maximum length allowed for a constant. The repetition

factor will be ignored.
説明: 別のストリングに適用される反復因数が表すストリングは、反復因数のないストリングに適用されるものと同じ制限に従っていなければならない。

a = (32767) 'abc';

IBM1407I E Scale factor is bigger than 127. It will be replaced by 127.
説明: スケール因数は、-128 から 127 (両端の値を含む) の範囲内の値でなければならない。

IBM1408I E Scale factor is less than -128. It will be replaced by -128.
説明: スケール因数は、-128 から 127 (両端の値を含む) の範囲内の値でなければならない。

IBM1409I E A SELECT statement may be missing. A SELECT statement, without an expression, will be inserted.
説明: WHEN 文節または OTHERWISE 文節が SELECT ステートメントの外部で見つかった。

IBM1410I E Semicolon inserted after ELSE keyword.
説明: DO または SELECT などのステートメントを囲む END ステートメントが、ELSE のあとに必要なステートメントの前にある。

IBM1411I E Semicolon inserted after ON clause.
説明: DO または SELECT などのステートメントを囲む END ステートメントが、ON 条件のあとに必要なステートメントの前にある。
IBM1412I E Semicolon inserted after OTHERWISE keyword.
説明: END ステートメントの位置が間違っているか、またはセミコロンが欠落している。

IBM1413I E Semicolon inserted after THEN keyword.
説明: END ステートメントの位置が間違っているか、またはセミコロンが欠落している。

IBM1414I E Semicolon inserted after WHEN clause.
説明: END ステートメントの位置が間違っているか、またはセミコロンが欠落している。

IBM1415I E Source file does not end with the logical end of the program.
説明: ソース・ファイルには、最初の PACKAGE または PROCEDURE をクローズしている END ステートメントのあとに、ステートメントが含まれている。これらのステートメントは無視されるが、その存在がプログラミング・エラーを示す場合もある。

IBM1416I E Subscripts have been specified for the variable variable name, but it is not an array variable.
説明: 添え字を指定できるのは、配列のエレメントの場合はでる。

IBM1417I E Second argument in SUBSTR reference is less than 1. It will be replaced by 1.
説明: メッセージのように処理されないと、STRINGRANGE 条件が発生する。

IBM1418I E Second argument in SUBSTR reference is too big. It will be trimmed to fit.
説明: メッセージのように処理されないと、STRINGRANGE 条件が発生する。

IBM1419I E Third argument in SUBSTR reference is less than 0. It will be replaced by 0.
説明: メッセージのように処理されないと、STRINGRANGE 条件が発生する。

IBM1420I E The factor in K/M constant is too large and is replaced by maximum factor.
説明: 最大 K 定数は 2097151K で、最大 M 定数は 2047M である。

IBM1421I E More than 15 dimensions have been specified. Excess will be ignored.
説明: 変数の最大許容次元数は、すべての継承次元も含めて、15 である。

IBM1422I E Maximum of 500 LIKE attributes per block exceeded.
説明: 1 ブロックに入れる LIKE 参照は 500 個以下でなければならない。LANGLEVEL(SAA2) では制限はない。

IBM1423I E UNALIGNED attribute conflicts with AREA attribute.
説明: すべての AREA 変数は ALIGNED でなければならない。

IBM1424I E End of comment marker found when there are no open comments. Marker will be ignored.
説明: コメント開始マーカーがないのに、/* が見つかった。

IBM1425I E There is no compiler directive directive. Input up to the next semicolon will be ignored.
説明: サポートされるコンパイラーディレクティブのリストについては「言語解説書」を参照。

IBM1426I E Structure level of 0 replaced by 1.
説明: 構造体レベル番号は正の値でなければならない。

IBM1427I E Numeric precision of 0 replaced by 1.
説明: 数値精度は正の値でなければならない。

IBM1428I E X literals should contain a multiple of 2 hex digits.
説明: X リテラルには、奇数の桁数が含まれていてはならない。
IBM1429I E INITIAL attribute for REFER object
variable name is invalid.

IBM1430I E UNSIGNED attribute for type type
type name conflicts with negative
INITIAL values and is ignored.

IBM1431I E PRECISION specified for type type
type name is too small to cover its
INITIAL values and is adjusted to fit.

IBM1432I E The type type type name is already
defined. The redefinition is ignored.

IBM1433I E The name name occurs more than once
in the RESERVES clause.

IBM1434I E The name name occurs in the
RESERVES clause, but is not the name of any level-1 STATIC EXTERNAL
variable.

a: package reserves( a1, a2, a1 );

middle = divide( todo, 2, 0 );

f = fixed( i, 15, 130 );

i = signed( n, 63 );

dcl e entry( fixed bin );
call e( 1, 2 );
IBM1439I E Excess arguments for BUILTIN name built-in ignored.

IBM1440I E ENTRY/RETURNS description lists for comparands do not match.

IBM1441I E ENTRY/RETURNS description lists for target variable do not match those of the target variable.

IBM1442I E The ENTRY/RETURNS description lists in the ENTRY to be assigned to target variable do not match those of the target variable.

IBM1443I E An ENTRY/RETURNS description list in an ENTRY in the INITIAL list for target variable do not match those of the target variable.

IBM1444I E The ENTRY/RETURNS description lists in the RETURN statement do not match those in the corresponding RETURNS attribute.

IBM1445I E The ENTRY/RETURNS description lists for argument number argument-number in entry reference entry name do not match those in the corresponding parameter.

IBM1446I E Third argument in SUBSTR reference is too big. It will be trimmed to fit.

IBM1447I E Literals with an X prefix are valid only in EXEC SQL statements.

IBM1448I E Use of nonconstant extents in BASED variables without REFER accepted although invalid under LANGLEVEL(SAA).
IBM1449I E Use of type function accepted although invalid under LANGLVL(SAA).

説明：型関数は SAA レベル 1 言語の一部ではない。

IBM1450I E keyword accepted although invalid under LANGLVL(SAA).

説明：示されているキーワード（下記の例では UNSIGNED）は、SAA レベル 1 言語に定義されていない。

IBM1452I E Use of underscores in constants accepted although invalid under LANGLVL(SAA).

説明：SAA レベル 1 言語の定義では、数値定数および 16進定数の中で下線を使用することは許されない。

IBM1453I E Use of asterisks for names in declares accepted although invalid under LANGLVL(SAA).

説明：SAA レベル 1 言語の定義では、構造体エレメント名にアスタリスクを使用することは許されない。

IBM1454I E Use of XN and XU constants accepted although invalid under LANGLVL(SAA).

説明：SAA レベル 1 言語の定義には、XN 定数および XU 定数が含まれていない。

IBM1455I E Use of arguments with BUILTIN name built-in accepted although invalid under LANGLVL(SAA).

説明：SAA のもとでは、INDEX 組み込み関数は、引数を 2 個だけとるものと見なされる。

IBM1456I E Use of 3 arguments with BUILTIN name built-in accepted although invalid under LANGLVL(SAA).

説明：SAA のもとでは、VERIFY および INDEX 組み込み関数は、引数を 2 個だけとるものと見なされる。

IBM1457I E Use of 1 argument with BUILTIN name built-in accepted although invalid under LANGLVL(SAA).

説明：SAA のもとでは、DIM、LBBOUND、および HBOUND 組み込み関数は 2 個の引数をとるものと見なされる。

IBM1458I E GOTO is not allowed under RULES(NOGOTO).

説明：RULES(NOGOTO(STRICT)) のもとでは、ON ユニットを終了させるものを除き、ソース・プログラム内に GOTO ステートメントがあってはならない。

IBM1459I E Uninitialized AUTOMATIC variables in a block should not be used in the prologue of that block.

説明：ブロック内の AUTOMATIC 変数は、含まれている任意のブロックの宣言ステートメントおよび実行可能ステートメントの中で使用できるが、その変数を宣言するブロックの中では、実行可能ステートメントの中でしか使用できない。

IBM1460I E Under RULES(ANS), nonzero scale factors are not permitted in declarations of FIXED BIN. Declared scale factor will be ignored.

説明：RULES(IBM) ではスケールされた FIXED BIN は許されるが、RULES(ANS) でそれがサポートされるのは FIXED DECIMAL の場合だけである。
RULES(ANS) では、次の宣言のスケール因数は無視されます。

```plaintext
dcl x fixed bin(31,16);
dcl y entry( fixed bin(31,16) );
```

IBM1461I E Under RULES(ANS), nonzero scale factors are not permitted when the result of BUILTIN name has the attributes FIXED BIN. Specified scale factor will be ignored.

説明: RULES(IBM) ではスケールされた FIXED BIN は許されるが、RULES(ANS) でそれがサポートされるのは FIXED DECIMAL の場合だけである。RULES(ANS) では、次の組み込み関数のスケール因数は無視される。

```plaintext
dcl (x,y) fixed bin(15,0);
put list( add(x,y,31,2) );
prompt list( bin(x,31,2) );
prompt list( prec(x,31,2) );
```

IBM1462I E Expression in comparison interpreted with DATE attribute.

説明: 比較では、片方の被比較数の属性が DATE であれば、もう一方も同じ属性でなければならず。日付でない方が日付パターンとして有効な値を取り得る式であれば、日付の被比較数と同じ DATE 属性を持っているものと見なされる。

```plaintext
dcl x char(5) date('YYDDD');
x = date();
```

IBM1463I E Operand with DATE attribute is invalid except in compare or assign. DATE attribute will be ignored.

説明: 比較は、DATE 属性を持つオペラントを使用できる唯一の 2 項演算である。そのようなオペラントを持つ演算を他の演算で使用すると、DATE 属性は無視される。したがって、次のコードでは、加算にフラグが立てられ、DATE 属性は無視される。

```plaintext
dcl x char(5) date('YYDDD');
put list( x + 1 );
```

IBM1464I E DATE attribute ignored in comparison with non-date expression.

説明: 比較では、片方の被比較数の属性が DATE であれば、もう一方も同じ属性でなければならない。日付でない方が日付パターンに無効な値をとれない式であれば、DATE 属性は無視される。

IBM1465I E Source in assignment has the DATE attribute, but target variable does not. The DATE attribute will be ignored.

説明: 割り当ての中のターゲットの属性が DATE であれば、ソースも同じ属性でなければならない。ターゲットに数値型の場合は、代わりにメッセージ 1466 が出される。

```plaintext
dcl x char(6);
x = date();
```

IBM1466I E Source in assignment has the DATE attribute, but target does not. The DATE attribute will be ignored.

説明: 割り当ての中のソースの属性が DATE であれば、ターゲットも同じ属性でなければならない。

IBM1467I E Source in INITIAL clause for variable name has the DATE attribute but the target does not. The DATE attribute will be ignored.

説明: INITIAL 式の属性が DATE であれば、ターゲットも同じ属性でなければならない。

IBM1468I E Argument number argument-number in entry reference entry name has the DATE attribute but the corresponding parameter does not. The DATE attribute will be ignored.

説明: 引数とパラメーターは一致しなければならない。次に示すのは、一致していない例である。

```plaintext
dcl x entry( char(6) );
call x( date() );
```
IBM1469I  E  Source in RETURN statement has the DATE attribute, but the corresponding
RETURNS option does not. The DATE attribute will be ignored.

x: proc returns( char(6) );
... return( date() );

IBM1470I  E  An ID option must be specified for the INCLUDE preprocessor.

x: proc returns( char(6) date('YYMMDD') );
x = '';

IBM1471I  E  The ID option specified for the INCLUDE preprocessor is invalid.

IBM1472I  E  A closing right parenthesis is missing from the ID option specified for the
INCLUDE preprocessor.

IBM1473I  E  The syntax of the preprocessor INCLUDE directive is incorrect.

IBM1474I  E  Source in assignment does not have the DATE attribute, but target variable does.
The DATE attribute will be ignored.

IBM1475I  E  Target in assignment has the DATE attribute, but source does not. The
DATE attribute will be ignored.

IBM1476I  E  Source in INITIAL clause for variable name does not have the DATE attribute
but the target does. The DATE attribute will be ignored.

IBM1477I  E  Argument number argument-number in entry reference entry name does not have
the DATE attribute but the corresponding parameter does. The DATE attribute will be ignored.

IBM1478I  E  Source in RETURN statement does not have the DATE attribute, but the
corresponding RETURNS option does. The DATE attribute will be ignored.

IBM1479I  E  An ID option must be specified for the INCLUDE preprocessor.

IBM1480I  E  Multiple closure of groups is not allowed under RULES(NOMULTICLOSE).

IBM1481I  E  Target in assignment has the DATE attribute, but source does not. The
DATE attribute will be ignored.

IBM1482I  E  Source in INITIAL clause for variable name does not have the DATE attribute
but the target does. The DATE attribute will be ignored.

IBM1483I  E  Argument number argument-number in entry reference entry name does not have
the DATE attribute but the corresponding parameter does. The DATE attribute will be ignored.

IBM1484I  E  Source in assignment does not have the DATE attribute, but target variable does.
The DATE attribute will be ignored.

IBM1485I  E  Target in assignment has the DATE attribute, but source does not. The
DATE attribute will be ignored.

IBM1486I  E  Source in RETURN statement does not have the DATE attribute, but the
corresponding RETURNS option does. The DATE attribute will be ignored.

IBM1487I  E  An ID option must be specified for the INCLUDE preprocessor.

IBM1488I  E  The ID option specified for the INCLUDE preprocessor is invalid.

IBM1489I  E  A closing right parenthesis is missing from the ID option specified for the
INCLUDE preprocessor.

IBM1490I  E  The syntax of the preprocessor INCLUDE directive is incorrect.

IBM1491I  E  Source in assignment does not have the DATE attribute, but target variable does.
The DATE attribute will be ignored.

IBM1492I  E  Target in assignment has the DATE attribute, but source does not. The
DATE attribute will be ignored.

IBM1493I  E  Source in INITIAL clause for variable name does not have the DATE attribute
but the target does. The DATE attribute will be ignored.

IBM1494I  E  Argument number argument-number in entry reference entry name does not have
the DATE attribute but the corresponding parameter does. The DATE attribute will be ignored.

IBM1495I  E  Source in RETURN statement does not have the DATE attribute, but the
corresponding RETURNS option does. The DATE attribute will be ignored.

IBM1496I  E  An ID option must be specified for the INCLUDE preprocessor.

IBM1497I  E  The ID option specified for the INCLUDE preprocessor is invalid.

IBM1498I  E  A closing right parenthesis is missing from the ID option specified for the
INCLUDE preprocessor.

IBM1499I  E  The syntax of the preprocessor INCLUDE directive is incorrect.

IBM1500I  E  Source in assignment does not have the DATE attribute, but target variable does.
The DATE attribute will be ignored.

IBM1501I  E  Target in assignment has the DATE attribute, but source does not. The
DATE attribute will be ignored.

IBM1502I  E  Source in INITIAL clause for variable name does not have the DATE attribute
but the target does. The DATE attribute will be ignored.

IBM1503I  E  Argument number argument-number in entry reference entry name does not have
the DATE attribute but the corresponding parameter does. The DATE attribute will be ignored.

IBM1504I  E  Source in RETURN statement does not have the DATE attribute, but the
corresponding RETURNS option does. The DATE attribute will be ignored.

IBM1505I  E  An ID option must be specified for the INCLUDE preprocessor.

IBM1506I  E  The ID option specified for the INCLUDE preprocessor is invalid.

IBM1507I  E  A closing right parenthesis is missing from the ID option specified for the
INCLUDE preprocessor.

IBM1508I  E  The syntax of the preprocessor INCLUDE directive is incorrect.

IBM1509I  E  Source in assignment does not have the DATE attribute, but target variable does.
The DATE attribute will be ignored.

IBM1510I  E  Target in assignment has the DATE attribute, but source does not. The
DATE attribute will be ignored.

IBM1511I  E  Source in INITIAL clause for variable name does not have the DATE attribute
but the target does. The DATE attribute will be ignored.

IBM1512I  E  Argument number argument-number in entry reference entry name does not have
the DATE attribute but the corresponding parameter does. The DATE attribute will be ignored.

IBM1513I  E  Source in RETURN statement does not have the DATE attribute, but the
corresponding RETURNS option does. The DATE attribute will be ignored.
IBM1481I E BYNAME assignment statements are not allowed under RULES(NOBYNAME).

説明: RULES(NOBYNAME)のときでは、ソース・プログラムの中にBYNAME代入ステートメントがあってはならない。

IBM1482I E The variable variable name is declared without any data attributes.

説明: デフォルトの属性が与えられるが、宣言にエラーがある場合もある。例えば次の例では、括弧が欠落している可能性がある。RULES(LAXDCL)のもとでは、これはW-レベル・メッセージである。

    dcl a, b fixed bin;

IBM1483I E The structure member variable name is declared without any data attributes. A level number may be incorrect.

説明: デフォルトの属性が与えられるが、宣言にエラーがある場合もある。例えば次の例では、cおよびdのレベル番号はおそらく3が正しい。RULES(LAXDCL)のもとでは、これはW-レベル・メッセージである。

    dcl a, b fixed bin;
    1 a,
    2 b,
    2 c,
    2 d;

IBM1484I E An unnamed structure member is declared without any data attributes. A level number may be incorrect.

説明: デフォルトの属性が与えられるが、宣言にエラーがある場合もある。例えば次の例では、cおよびdのレベル番号はおそらく3が正しい。RULES(LAXDCL)のもとでは、これはW-レベル・メッセージである。

    dcl a, b fixed bin;
    1 a,
    2 *,
    2 c,
    2 d;

IBM2400I E Compiler backend issued error messages to STDOUT.

説明:STDOUTを参照して、コンパイラーやバックエンドによって発行されたメッセージを調べること。

IBM2401I E Missing character assumed before character.DECLARE and other nonexecutable statements should not have labels.

説明:示されている文字が欠落していたため、構文解析プログラムがその文字を挿入してソースを訂正した。
RULES(LAXPUNC)のもとでは、テキストは同じだが重大度の低いメッセージが出される。

    xx: dcl test fixed bin;

IBM2402I E variable name is declared as BASED on the ADDR of variable name, but variable name requires more storage than variable name.

説明:BASED変数に必要なストレージの量は、その基本となる変数が提供する量を超えないものでなければならない。

    dcl a char(10);
    dcl b char(15) based(addr(a));

IBM2403I E PROCESS statements are not permitted under the NOPROCESS option.

説明: NOPROCESSオプションが有効な場合、ソースにPROCESSステートメントが含まれていなければならない。

IBM2404I E variable name is declared as BASED on the ADDR of variable name, but variable name requires more storage than remains in the enclosing level 1 structure variable name after the location of variable name.

説明:BASED変数に必要なストレージの量は、その基本となる変数が提供する量を超えないものでなければならない。

    dcl a, b fixed bin;
    1 a,
    2 *,
    2 c,
    2 d;
dcl 1 a, 2 a1 char(10), 2 a2 char(10);

dcl b char(15) based(addr(a2));

IBM2405I E Even decimal precisions are not allowed under RULES(NOEVENDEC).

IBM2406I E Precision outside VALUE clause will be ignored.

IBM2407I E Length outside VALUE clause will be ignored.

IBM2408I E AREA size outside VALUE clause will be ignored.

IBM2409I E RETURN statement without an expression is invalid inside a subprocedure that specified the RETURNS attribute.

a: proc returns( fixed bin );
    return;

IBM2410I E Function function name contains no valid RETURN statement.

IBM2411I E STRINGOFGRAPHIC( CHARACTER ) option is ignored because argument to STRING built-in function is possibly not contiguous.

IBM2412I E Procedure has no RETURNS attribute, but contains a RETURN statement. A RETURNS attribute will be assumed.

IBM2413I E The attribute attribute should be specified only on parameters and descriptors.

IBM2414I E The option option conflicts with the option option. The IBM default of option will be used instead.
IBM2415I E Without APAR number, compiler would generate incorrect code for this statement.

説明: 示されている APAR により、このステートメントのコンパイルエラーが修正される。

IBM2416I E The SEPARATE suboption of TEST is not supported when the LINEDIR option is in effect.

説明: LINEDIR オプションが有効のときは、TEST オプションの NOSEPARATE サブオプションだけがサポートされる。

IBM2417I E In FETCHABLE code compiled with NORENT NOWRITABLE(PRIV), it is invalid to ALLOCATE or FREE a CONTROLLED variable unless it is a PARAMETER.

説明: FETCHABLE コードでは、すべての CONTROLLED 変数がパラメーターであることが必要。

IBM2418I E Variable variable is unreferenced.

説明: RULES(NOUNREF) において、参照されていないすべてのレベル 1 の AUTOMATIC 変数について、コンパイラはこのメッセージを発行する。

IBM2419I E option is invalid and ignored unless the ARCH option is level or greater.

説明: 必要な命令は ARCH(8) でなければなりませんが、ARCH オプションが 8 以上でなければ、RTCHECK オプションは無視される。

IBM2420I E DFP is invalid and ignored unless the ARCH option is 7 or greater.

説明: もし ARCH オプションが 7 より大きくてない場合、必要な命令は ARCH(7) でなければなりませんが、FLOAT(DFP) オプションは無視される。

IBM2421I E A file should not be closed in its ENDFILE block.

説明: あるファイルに対する ENDFILE ブロックで、ENDFILE ブロック内でそのファイルを閉じるのは無効である。

IBM2422I E Under the DFP option, the HEXADEC attribute is not supported for FLOAT DEC.

説明: FLOAT(DFP) オプションを指定した場合、すべての FLOAT DECIMAL は DFP として処理され、HEXADEC として宣言されない可能性がある。属性は FLOAT BIN で有効である。

IBM2423I E Under the DFP option, the IEEE attribute is not supported for FLOAT DEC.

説明: FLOAT(DFP) オプションを指定した場合、すべての FLOAT DECIMAL は DFP として処理され、IEEE として宣言されない可能性がある。属性は FLOAT BIN で有効である。

IBM2424I E Scale factors are not allowed in FLOAT declarations.

説明: スケール係数は、FIXED BIN または Fixed DEC の宣言でのみ有効である。次に最初の宣言は無効で、その後の宣言のいずれかに変更する必要がある。

```plaintext
  dcl a1 float dec(15,2);
  dcl a2 fixed dec(15,2);
  dcl a3 float dec(15);
```

IBM2425I E Statement with ELSE IF should be rewritten using SELECT.

説明: RULES(NOELSEIF) のもとでは、ELSE の直後に IF 文が続くステートメントについて、コンパイラはこのメッセージを発行する。

IBM2426I E Maximum nesting of DO statements has been exceeded.

説明: DO 文のネストが、MAXNEST コンパイラ・オプションの DO サブオプションで指定された値を超える。

IBM2427I E Maximum nesting of IF statements has been exceeded.

説明: IF 文のネストが、MAXNEST コンパイラ・オプションの IF サブオプションで指定された値を超えて
IBM2428I E Maximum nesting of PROC and BEGIN statements has been exceeded.

説明: PROC および BEGIN ステートメントのネットが、MAXNEST コンパイラ・オプションの BLOCK サブオプションで指定された値を超えている。

IBM2429I E CMPAT(V3) requires that 8-byte integers be allowed. The second value in the FIXEDBIN suboption of the LIMITS option will be set to 63.

説明: LIMITS(FIXEDBIN(31,31)) を指定した CMPAT(V3) オプションの使用はサポートされていない。CMPAT(V3) によってさまざまな組み込み関数 (HBOUND など) が FIXED BIN(63) の結果を返すため、LIMITS の FIXEDBIN サブオプションの少なくとも 2 番目の値は 63 にする必要がある (つまり、LIMITS(FIXEDBIN(31,63)) または LIMITS(FIXEDBIN(63,63)) を有効にする必要がある)。

IBM2430I E The LINESIZE value specified in the OPEN of file file name is not compatible with the RECSIZE specified in its declare.

説明: ファイルが F フォーマットで、PRINT ファイルではない場合は、LINESIZE は RECSIZE 以下にする必要がある。ファイルが F フォーマットで、PRINT ファイルである場合は、LINESIZE は RECSIZE 未満にする必要がある。ファイルが V フォーマットで、PRINT ファイルではない場合は、LINESIZE は RECSIZE-4 以下にする必要がある。ファイルが V フォーマットで、PRINT ファイルである場合は、LINESIZE は RECSIZE-4 未満にする必要がある。

IBM2431I E The option option conflicts with the GOFF option. NOGOFF will be used instead.

説明: 指定されたオプションは、GOFF オプションでは使用できない。GOFF オプションはコンパイラを続行するためにオフになる。これは、例えば NOWRITABLE(PRIV) オプションおよび COMMON オプションに適用される。

IBM2432I E The attribute character is invalid with parameters and is ignored.

説明: 例えば、INITIAL 属性は、パラメーターとともに使用すると無効である (ストレージが別の場所に割り振られているため)。

IBM2433I E The attribute character is invalid with DEFINED and is ignored.

説明: 例えば、INITIAL 属性は、DEFINED 変数とともに使用すると無効である (ストレージが別の場所に割り振られているため)。

IBM2434I E Under RULES(NOLAXENTRY), all ENTRY declares must specify a parenthesized parameter list, even if empty.

説明: RULES(NOLAXENTRY) では、すべての ENTRY 宣言をプロトタイプ化する必要がある。ENTRY にパラメーターがない場合は、単に ENTRY としてではなく、ENTRY() として宣言する必要がある。

IBM2435I E Scale factor is less than 0.

説明: RULES(NOLAXSCALE) では、スケール係数は零でなければならな

IBM2436I E Scale factor is larger than the precision.

説明: RULES(NOLAXSCALE) では、スケール係数は精度より大きくなければならない。

IBM2437I E SQL preprocessor invoked more than once without INCONLY.

説明: SQL プリプロセッサーが、INCONLY をサブオプションとせずに複数呼び出されると、コンパイラのために作される DBRM ライブラリー・メンバーが空になる。SQL プリプロセッサーの呼び出しを 1 度だけにするか、1 度は唯一のサブオプションとして INCONLY を指定して呼び出し、それからもう 1 度だけ呼び出すようにするのが良い。
IBM2438I E STOP and EXIT statements are not allowed.

説明:  RULES(NOSTOP) のもとでは、ソース・プログラムの中に STOP および EXIT ステートメントがあってはならない。

IBM2439I E END statement for a PROCEDURE must include the name of the PROCEDURE.

説明:  RULES(NOPROCENDONLY) のもとでは、PROCEDURE の END ステートメントの内容が、単に END キーワードとセミコロンだけであってはならない。クローズする PROCEDURE の名前も含まれていないければならない。

IBM2440I E Structure element identifier is not qualified with the name of its containing level-1 structure.

説明:  オプション RULES(NOLAXQUAL) のもとでは、すべての構造体エレメントは、その最外部の親の名前で修飾する必要がある。

IBM2441I E GOTO exits the current block.

説明:  RULES(NOOGOTO(LOOSE)) のもとでは、ON ユニットを終了させるものと現行ブロック内のラベルにジャンプするものを除き、ソース・プログラムの中に GOTO ステートメントがあってはならない。

IBM2442I E Structure contains padding.

説明:  RULES(NOPADDING) のもとでは、構造体に埋め込みが含まれてはならない。

IBM2443I E Control variable in DO statement belongs to a parent block.

説明:  RULES(NOGLOBALDO) のもとでは、DO x = .. の形式の DO ループにおいて、x は DO ループと同じブロック内で宣言されているければならない。

IBM2444I E The BUILTIN function builtin has been deprecated.

説明:  示された組み込み関数が DEPRECATED オプションの BUILTIN サブオプションで指定されたため、その明示宣言またはコンテキスト宣言にはいずれもフラグが立てられる。

IBM2445I E The INCLUDE file filename has been deprecated.

説明:  示された INCLUDE ファイルは、DEPRECATED オプションの INCLUDE サブオプションで指定されたため、このファイルのインクルード試行にはすべてフラグが立てられる。

IBM2446I E The ENTRY named variable has been deprecated.

説明:  示された ENTRY が DEPRECATED オプションの ENTRY サブオプションで指定されたため、その明示宣言またはコンテキスト宣言にはいずれもフラグが立てられる。

IBM2447I E The VARIABLE named variable has been deprecated.

説明:  示された VARIABLE が DEPRECATED オプションの VARIABLE サブオプションで指定されたため、その明示宣言またはコンテキスト宣言にはいずれもフラグが立てられる。

IBM2448I E CICS preprocessor invoked more than once.

説明:  CICS プリプロセッサーが複数回起動された場合、2 回目の起動により、重複する宣言が最外部のプロシージャーに挿入される可能性がある。CICS プリプロセッサーは 1 回のみ起動するようにしなければならない。コンパイラーや、余分な起動はすべて無視される。

IBM2449I E Source and target in assignment are identical.

説明:  RULES(NOSELFASSIGN) では、割り当てのソースおよびターゲットが異なっていなければならない。
第 7 章 コンパイラー重大メッセージ (1500 から 2399)

IBM1500I S Argument number argument-number in
ENTRY reference ENTRY name has type
source type, which is invalid for a
parameter with type target type.

説明: 引数の型は、対応するパラメーターの型に変換で
できる型でなければならな。

IBM1501I S Argument number argument-number in
ENTRY reference ENTRY name has a
different strong type than the
corresponding parameter.

説明: パラメーターが強力に型付けされている場合、そ
れに渡す引数も同じ型でなければならない。

IBM1502I S Argument number argument-number in
ENTRY reference ENTRY name has type
source type, which is invalid for a
parameter with type target type. If the
ENTRY should be invoked, an argument
list must be provided.

説明: 引数の型は、対応するパラメーターの型に変換で
できる型でなければならな。

IBM1503I S Argument number argument-number in
ENTRY reference ENTRY name has type
source type, which is invalid for a
parameter with type LIMITED ENTRY.

説明: LIMITED ENTRY パラメーターに渡すことができ
るのは、EXTERNAL ENTRY CONSTANT、ネスト
されていない PROCEDURE を表す ENTRY
CONSTANT、または LIMITED 属性を持つ ENTRY
VARIABLE だけである。

IBM1504I S Argument number argument-number in
ENTRY reference ENTRY name has type
POINTER, which is invalid for an
OFFSET parameter without an AREA
qualifier.

説明: POINTER 式は、OFFSET が AREA 修飾子と共
に宣言されている場合にのみ、OFFSET に変換できる。

IBM1505I S Argument number argument-number in
ENTRY reference ENTRY name has type
POINTER, which is invalid for a
POINTER parameter since the OFFSET
argument is not an OFFSET variable
declared with an AREA qualifier.

説明: OFFSET 変数は、OFFSET が AREA 修飾子と共
に宣言されている場合にのみ、POINTER に変換でき
る。

IBM1506I S Argument number argument-number in
ENTRY reference ENTRY name has a
different ORDINAL type than the
corresponding parameter.

説明: ORDINAL は、異なる ORDINAL 型の他の
ORDINAL に渡すことはできない。

IBM1507I S Arrays of label constants may not be
passed as arguments.

説明: 配列を LABEL 変数の配列に割り当て、その配
列を渡すことができる。

\[ \text{l}(1) : \ldots ; \\
\text{l}(2) : \ldots ; \\
call \text{x}(\text{l}) ; \]

IBM1508I S Too few arguments have been specified
for the ENTRY ENTRY name.

説明: 引数の数は、ENTRY 宣言内のパラメーターの数
に一致しなければならない。

IBM1509I S Argument to variable name
pseudovariable must be ASSIGNABLE.

説明: 疑似変数を用いて行う割り当てのターゲットは、
NONASSIGNABLE 属性を持っているわけではない。

\[ \text{dcl a static nonasgn char(7) init('example')}; \\
\text{unspec(a) = '"b;} \]

© Copyright IBM Corp. 1999, 2011
IBM1510I S First argument to variable name pseudovariable must be ASSIGNABLE.

説明: 仮数変数を用いて行う割り当てのターゲットは、NONASSIGNABLE 属性を持っていてはならない。

```pli
  dcl a static nonasgn char(7) init('example');
  substr(a,1,2) = 'tr';
```

IBM1511I S Argument number argument-number in ENTRY reference ENTRY name is an aggregate, but the parameter description specifies a scalar.

説明: スカラーを集約に変換することはできない。

```pli
  dcl a entry( fixed bin ), b(10) fixed bin;
  call a( b );
```

IBM1512I S Argument number argument-number in ENTRY reference ENTRY name is a scalar, but the parameter description specifies an aggregate to which it cannot be passed.

説明: 非 AREA スカラーを非 CONTROLLED スカラー配列に渡す場合以外は、ダミー集約引数はサポートされておらず、配列には * として指定された境界が有ってならない。スカラーを集約に割り当て、その集約を渡すことはできる。

```pli
  dcl a entry( 1, 2 fixed bin, 2 fixed bin );
  call a( 0 );
```

IBM1513I S Argument number argument-number in ENTRY reference ENTRY name is an aggregate that does not exactly match the corresponding parameter description.

説明: ダミー集約引数はサポートされていない。エントリー記述に集合バラメータが記述されている場合は、渡される引数はそのバラメーターの記述に一致していなければならない。

```pli
  dcl a entry( *,* fixed bin ),
```
b (10) fixed bin;
call a( b );

IBM1519I S  The upper and lower bounds for
argument number argument-number in
ENTRY reference ENTRY name and in
its corresponding parameter description
do not match.

説明: 配列の引数とパラメーターは、上限と下限がそれ
ぞれ同じでなければならない。

dcl a entry( (0:10) fixed bin ),
  b (10) fixed bin;
call a( b );

IBM1520I S  Charset 48 is not supported.

説明: 文字セット 48 は現在ではもはやサポートされて
いない。ソース・コードは文字セット 60 に変換する必
要がある。

IBM1521I S  Not enough virtual memory is available
to continue the compile.

説明: コンパイルには使用可能な量より多くの仮想メモ
リが必要である。コンパイラ・オプション
NOTEST, NOXREF, NOATTRIBUTES, NOAGGREGATE のうちの 1 つ以上を指定するとき役立
つことがある。

IBM1522I S  variable cannot be SET unless an IN
clause is specified.

説明: オフセット変数が AREA 参照なしで宣言されて
いる場合は、IN 文節が AREA 参照を指定しない限
り、そのオフセット変数をALLOCATE ステートメント
または LOCATE ステートメントに設定することはでき
ない。

IBM1523I S  Argument to BUILTIN name built-in must
be an AREA reference.

説明: 組み込み関数 AVAILABLEAREA は AREA 用
にのみ定義される。

IBM1524I S  BUILTIN name (x) is undefined if ABS(x)>
1.

説明: 式に、制限付きの式で適用される組み込み関数
ASIN または ACOS が含まれているが、その制限付き
式の評価結果がその関数の定義域外の数値になった。

IBM1525I S  ATANH(x) is undefined if x is REAL
and ABS(x) >= 1.

説明: 式に、制限付きの式で適用される組み込み関数
ATANH が含まれているが、その制限付き式の評価結果
がその関数の定義域外の数値になった。

IBM1526I S  Argument to BUILTIN name must have
derived mode REAL.

説明: 式には、示されている組み込み関数が含まれてい
るが、その引数に COMPLEX モードが指定されてい
る。

IBM1527I S  First argument to BUILTIN name built-in
must have locator type.

説明: 式には、示されている組み込み関数が含まれてい
るが、その最初の引数が POINTER 型でも OFFSET 型
でもない。

IBM1528I S  First argument to BUILTIN name built-in
must have derived mode REAL.

説明: 式には、示されている組み込み関数が含まれてい
るが、その最初の引数に COMPLEX モードが指定され
ている。このメッセージは、例えば、2 つの引数を指定
する ATAN および ATAND 組み込み関数に適用され
る。

IBM1530I S  Second argument to BUILTIN name
built-in must have derived mode REAL.

説明: 式に示されている組み込み関数が含まれている
が、その 2 番目の引数に COMPLEX モードが指定され
ている。このメッセージは、例えば、2 つの引数を指定
する ATAN および ATAND 組み込み関数に適用され
る。

IBM1531I S  BUILTIN name argument has invalid
type.

説明: 式に参照 BINARYVALUE(x) が含まれている
が、x の型が POINTER、OFFSET、ORDINAL 以外の
型である。
IBM1532I S E35 sort exit routines must use a 32-bit linkage.

説明: 他のリンクージはすべて無効である。

dcl a float;
    a = sqrt(*);

IBM1533I S BUILTIN name argument must have computational type.

説明: 式には、示されている組込み関数が含まれているが、その引数がストリング型でも数値型でもない。

IBM1534I S BUILTIN name result would be too long.

説明: REPEAT または COPY 組込み関数の結果は、ベースのストリング型の最大許容長を超えてはならない。

IBM1535I S BUILTIN name argument must have type REAL FLOAT.

説明: 式には、示されている組込み関数が含まれているが、その引数の型が REAL FLOAT 以外の型である。このメッセージは、例えば、HUGE や RADIX などの浮動小数点照会組込み関数、および EXPONENT や SUCCE などの浮動小数点操作組込み関数に適用される。

IBM1536I S BUILTIN name argument must be a reference.

説明: 式には、示されている組込み関数が含まれているが、その引数が参照ではない。

IBM1537I S BUILTIN name argument must be an array expression.

説明: 式には、示されている組込み関数が含まれているが、その引数が配列式ではない。このメッセージは、例えば、組込み関数 ALL、ANY、SUM、および PROD に適用される。

IBM1538I S BUILTIN name argument must be a FILE reference.

説明: 式には、示されている組込み関数が含まれているが、その引数が FILE ではなく。このメッセージは、例えば、LINENO および PAGENO などの I/O 組込み関数に適用される。

IBM1539I S * is invalid as a BUILTIN function argument.

説明: 引数がオプショナルである場合を除き、BUILTIN 関数の引数として値を指定する必要がある。

IBM1540I S Argument number argument number to BUILTIN name built-in must have derived mode REAL.

説明: 式には、示されている組込み関数が含まれているが、その引数に COMPLEX モードが指定されている。このメッセージは MAX および MIN 組込み関数に適用される。

IBM1541I S Argument number argument number to BUILTIN name built-in must have computational type.

説明: 式には、示されている組込み関数が含まれているが、そこに指定されている引数が非計算型である。このメッセージは MAX および MIN 組込み関数に適用される。

IBM1542I S First argument to BUILTIN name built-in must have computational type.

説明: 式には、示されている組込み関数が含まれているが、その最初の引数がストリング型でも数値型でもない。

IBM1543I S Argument to BUILTIN name built-in must have type CHARACTER(1) NONVARYING.

説明: これは RANK 組込み関数に適用される。

IBM1544I S First argument to BUILTIN name built-in must be an array.

説明: 式には、示されている組込み関数が含まれているが、その最初の引数が配列ではない。このメッセージは、例えば DIMENSION、HBOUND、および LBOUND 組込み関数に適用される。

IBM1545I S Second argument to BUILTIN name built-in must have type CHARACTER(1) NONVARYING.

説明: これは PLIFILL 組込みサブルーチンに適用される。
IBM1547I S Second argument to BUILTIN name built-in must have computational type.

説明: 式には、示されている組込み関数が含まれているが、2 番目の引数がストリング型でも数値型でもない。

IBM1548I S BUILTIN function may not be used inside a BEGIN block.

説明: PLISTSIZE 組込み関数はプロシージャー内でのみ使用できる。

IBM1549I S BUILTIN function may be used only in procedures with LINKAGE(SYSTEM).

説明: PLISTSIZE 組込み関数は、OPTLINK、PASCAL などのリンケージが指定されたプロシージャー内では使用できない。

IBM1550I S Argument to the BUILTIN name pseudovariable must be an EVENT variable.

説明: このメッセージは COMPLETION および STATUS 疑似変数に適用される。

IBM1551I S Argument to the BUILTIN name pseudovariable must be a TASK variable.

説明: このメッセージは PRIORITY 疑似変数に適用される。

IBM1552I S Third argument to BUILTIN name built-in must have computational type.

説明: 式には、示されている組込み関数が含まれているが、3 番目の引数がストリング型でも数値型でもない。このメッセージは、例えば SUBSTR および CENTER 組込み関数に適用される。

IBM1553I S Argument to BUILTIN name built-in must be either a NONVARYING BIT array reference or else an array expression with known length.

説明: ALL および ANY 組込み関数は、2 つの型の配列式に制限されている。NONVARYING BIT 配列参照の配列式、あるいは既知の長さを持つ配列式である。次に示す例のうち、最初の 5 つはこれらの制限を満たしているが、その他の例は制限を満たしていない。

dcl a(10) bit(16) varying;
dcl b(10) bit(16);
if all( b ) then ...
if any( a ^= ''b ) then ...
if all( a = b & a ) then ...
if any( ''b ^= b ) then ...
if any( a ) then ...
if all( substr(b,1,n) ) then ...

IBM1554I S Argument to VALID built-in must have the attributes FIXED DECIMAL or PICTURE.

説明: VALID 組込み関数の引数には、示されている属性そのものが指定されていなければならず、これらの属性に変更可能なだけでは不十分である。

IBM1555I S Second argument to BUILTIN name built-in must have computational type.

説明: 式には、示されている組込み関数が含まれているが、2 番目の引数がストリング型でも数値型でもない。

IBM1556I S Third argument to BUILTIN name built-in would force STRINGRANGE.

説明: 組込み関数 INDEX、SEARCH、または VERIFY のいずれに 3 番目の引数を指定する場合、その引数は正の値でなければならない。SEARCHR および VERIFY の場合は、負の値でなければならな

IBM1557I S Second argument to BUILTIN name built-in must be positive.

説明: 組込み関数 CENTER、LEFT、および RIGHT の 2 番目の引数は 0 または負の値であってはならない。

IBM1558I S SQRT(x) is undefined if x is REAL and x < 0.

説明: 式には、制限付きの式に適用される BUILTIN 関数 SQRT が含まれているが、その制限付き式の評価結果がその関数の定義域外の数値になった。
IBM1560I S BUILTIN function (x) is undefined if x is REAL and x <= 0.

説明：式には、制限付きの式に適用される組込み関数が含まれているが、その制限付き式の評価結果がその関数の定義域外の数値になった。このメッセージは、例えば LOG、LOG2、および LOG10 組込み関数に適用される。

IBM1561I S RULES(ANS) does not allow ROUND to be applied to FIXED BIN.

説明：RULES(ANS) では FIXED BIN の非ゼロ・スケール因数は許されない。したがって、ROUND を FIXED BIN (または BIT) 引数に適用することはできない。

IBM1562I S Argument to BUILTIN name built-in has invalid type.

説明：HANDLE 組込み関数の引数は構造体型でなければならず、逆に、TYPE 組込み関数の引数はハンドルでなければならいない。

IBM1563I S Second argument to BUILTIN name built-in must be nonnegative.

説明：組込み関数 CHARACTER, BIT, および GRAPHIC の 2 番目の引数は 0 以上でなければならない。

IBM1564I S Too few arguments have been specified for the BUILTIN name built-in.

説明：必要最少数の引数を指定する必要がある。

IBM1565I S BUILTIN name (x) is undefined for x outside the supported domain.

説明：式には、制限付きの式に適用される組込み関数が含まれているが、その制限付き式の評価結果がその関数のサポートされる定義域外の数値になった。

IBM1566I S BUILTIN function (x,y) is undefined if x=0 and y=0.

説明：式には、制限付きの式に適用される組込み関数 ATAN または ATAND が含まれているが、その制限付き式の評価結果がその関数の定義域外の数値になった。

IBM1567I S BUILTIN name argument must be a CONNECTED reference.

説明：示されている組込み関数の引数は、(例えば式またはリテラルでなく) 参照でなければならず、かつその参照は CONNECTED でなければならない。

IBM1570I S BUILTIN name argument must be a reference to a level 1 CONTROLLED variable.

説明：ALLOCATION 組込み関数は、構造体メンバーまたは非 CONTROLLED 変数と共に使用することはできない。

IBM1571I S BUILTIN name argument must be a reference to a level 1 BYADDR parameter.

説明：OMITTED 組込み関数は、BYVALUE パラメーター、構造体メンバー、または非パラメーターと共に使用することはできない。

IBM1573I S The use of * as an argument is permitted only for parameters declared with the OPTIONAL attribute.

説明：エントリー宣言に OPTIONAL 属性を追加するか、* を実引数に置き換える必要がある。

IBM1575I S Argument number argument number to BUILTIN name built-in must have type POINTER or OFFSET.

説明：PLMOVE およびCOMPARE などの組込み関数の示されている引数はロケーターでなければならない。

IBM1576I S Third argument to BUILTIN name built-in must have type CHARACTER(1) NONVARYING.

説明：これは HEXIMAGE 組込みサブルーチンに適用される。

IBM1577I S First argument to BUILTIN name built-in must have type POINTER.

説明：これは OFFSET 組込み関数に適用される。
IBM1578I S First argument to BUILTIN name built-in must have type OFFSET.
説明: これは POINTER 組込み関数に適用される。

IBM1579I S Second argument to BUILTIN name built-in must have type AREA.
説明: これは OFFSET および POINTER 組込み関数に適用される。

IBM1580I S First argument to BUILTIN name built-in is an OFFSET value.
説明: PLIMOVE および COMPARE などの組込み関数の最初の引数の属性が OFFSET の場合、それは OFFSET 値でなく、OFFSET 参照でなければならな

IBM1581I S First argument to BUILTIN name built-in is an OFFSET variable declared without an AREA qualifier.
説明: PLIMOVE および COMPARE などの組込み関数の最初の引数の属性が OFFSET の場合、それは OFFSET 値でなく、OFFSET 参照でなければならな

IBM1582I S Argument number argument number to BUILTIN name built-in is an OFFSET value.
説明: PLIMOVE および COMPARE などの組込み関数の最初の引数の属性が OFFSET の場合、それは OFFSET 値でなく、OFFSET 参照でなければならな

IBM1583I S Argument number argument number to BUILTIN name built-in is an OFFSET variable declared without an AREA qualifier.
説明: PLIMOVE および COMPARE などの組込み関数の最初の引数の属性が OFFSET の場合、それは OFFSET 値でなく、OFFSET 参照でなければならな

IBM1584I S Second argument to BUILTIN name built-in must have type OFFSET.
説明: これは OFFSETDIFF 組込み関数に適用される。

IBM1585I S Second argument to BUILTIN name built-in must have type POINTER.
説明: これは POINTERDIFF 組込み関数に適用される。

IBM1586I S Argument to STRING built-in function/pseudovariable must be CONNECTED.
説明: STRING 組込み関数および疑似変数は、非連続配列クソセクションや、CONNECTED 属性を用いて宣言されていない配列パラメーターには適用できない。

IBM1587I S Argument number argument number to BUILTIN name built-in must have the ENTRY attribute.
説明: それは他の引数型はすべて無効である。このメッセージは、PLISRTx 組込み関数に適用される。

IBM1588I S First argument to BUILTIN name built-in must have type GRAPHIC.
説明: これは CHARGRAPHIC 組込み関数に適用される。例えば次の例では、g を char でなく graphic として宣言するのが正しい。

```
dcl c char(10);
dcl g char(5);
c = charg( g );
```
インスタント接続文法の変更に対する注意事項

IBM1591I S All members of an argument to the STRING built-in function/pseudovariable must have the UNALIGNED attribute.

説明：STRING型の引数および擬似変数は、UNALIGNED属性を持つエレメントを含む構造体または配列には適用できない。

IBM1592I S All members of an argument to the STRING built-in function/pseudovariable must have the NONVARYING attribute.

説明：STRING型の引数および擬似変数は、VARYINGスリットを含む構造体または配列には適用できない。

IBM1593I S All members of an argument to the STRING built-in function/pseudovariable must have string type.

説明：STRING型の引数および擬似変数は、非計算型、またはビクチャー以外の算術型を含む構造体または配列には適用できない。

IBM1594I S All members of an argument to the STRING built-in function/pseudovariable must have the same string type.

説明：STRING型の引数および擬似変数は、異なるストリング型（例えばBITストリングとCHARACTERストリング）を含む構造体または配列には適用できない。

IBM1595I S First argument to BUILTIN name built-in must have type REAL FLOAT.

説明：これは、HUGEおよびEXONENTなどの浮動小数点数および操作組込み関数に適用される。

IBM1596I S Second argument to BUILTIN name built-in must have type CHARACTER.

説明：これはEDIT組込み関数に適用される。

IBM1597I S BUILTIN name argument must have type TASK.

説明：これはPRIORITY組込み関数に適用される。

IBM1598I S BUILTIN name argument must have type EVENT.

説明：このメッセージはCOMPLETIONおよびSTATUS組込み関数に適用される。

IBM1599I S The BUILTIN function variable name may not be used as a pseudovariable.

説明：示されている組込み関数は擬似変数ではなく、擬似変数として使用することもできない。

IBM1600I S Source to BUILTIN name pseudovariable must be scalar.

説明：配列、構造体、または共用体を組込み関数ONCHAR、ONSOURCE、またはONGSOURCEに割り当てるのは無効である。

IBM1601I S The identifier identifier is not the name of a built-in function. Any use of it is unsupported.

説明：BUILTIN属性は、組込み関数または組込みサブルーチンの名前であるIDにのみ適用できる。

IBM1602I S Fourth argument to BUILTIN name built-in must have the attributes REAL FIXED BIN(31,0).

説明：これはPLISRTx組込み関数に適用される。例えば次の例では、rcをfixed bin(15)でなくfixed bin(31)として宣言するのが正しい。

```
dcl rc fixed bin(15);
call plisrta( 'SORT FIELDS=(1,80,CH,A) ', 
'RECORD TYPE=F,LENGTH=(80) ', 
256000, 
rc );
```

IBM1603I S BUILTIN name argument must not have the CONSTANT attribute.

説明：これはADDRおよび似似の組込み関数に適用される。例えば、ADDR組込み関数をラベル定数に適用するのは無効である。

IBM1604I S BUILTIN function argument must be nonnegative.

説明：組込み関数LOWおよびHIGHの引数は0以上でなければならない。

IBM1605I S Argument to ENTRYADDR built-in must be an ENTRY variable or an EXTERNAL ENTRY constant.

説明：ENTRYADDR組込み関数は、ENTRY以外の
IBM1606I S Argument to variable name pseudovariable must be a reference.
説明: 疑似変数は式には適用できない。

    unspec( 12 ) = '00'b4;

IBM1607I S First argument to variable name pseudovariable must be a reference.
説明: SUBSTR 疑似変数は式には適用できない。

    substr( 'nope', 1, 1 ) = 'd';

IBM1608I S Argument to variable name pseudovariable must be a scalar.
説明: コンパイラでは、配列、構造体、または共用体に適用される、示されている疑似変数をサポートしていない。

IBM1609I S First argument to variable name pseudovariable must be a scalar.
説明: コンパイラでは、配列、構造体、または共用体に適用される、示されている疑似変数をサポートしていない。

IBM1610I S Argument to variable name pseudovariable must be COMPLEX.
説明: REAL および IMAG 疑似変数は、COMPLEX算術変数に対してのみ適用できる。

IBM1611I S First argument to SUBSTR pseudovariable must have string type.
説明: SUBSTR 疑似変数は、数値型変数や非計算型値には適用できない。

IBM1612I S Argument to the ENTRYADDR pseudovariable must be an ENTRY variable.
説明: ENTRYADDR 疑似変数は ENTRY 変数に対してのみ適用できる。

IBM1613I S Argument to BUILTIN name built-in has attributes that conflict with file attribute.
説明: 宣言されている組み込み関数は、示されている属性と矛盾する属性を持つファイル定数には適用できない。

IBM1614I S Argument to BUILTIN name built-in has attributes that conflict with STREAM.
説明: 宣言されている組み込み関数は、非 STREAM ファイルには適用できない。

IBM1615I S Argument to BUILTIN name built-in has attributes that conflict with PRINT.
説明: 宣言されている組み込み関数は、非 PRINT ファイルには適用できない。

IBM1616I S Attributes and ENVIRONMENT options for file file name conflict.
説明: 宣言ステートメント上の指定されているファイル属性と ENVIRONMENT オプションが矛盾している。次の DECLARE ステートメントに従う例である。

    dcl file f1 direct env(consecutive);

IBM1617I S DIRECT attribute for file file name needs ENVIRONMENT option specification of INDEXED, REGIONAL, RELATIVE, or VSAM.
説明: DIRECT ファイル属性を使用するには、ENVIRONMENT オプションに INDEXED、REGIONAL、RELATIVE、または VSAM を指定する必要がある。

    dcl file f1 direct env(relative);

IBM1618I S Syntax of the %INCLUDE statement is incorrect.
説明: %INCLUDE のあとには、名前とセミコロンか、または括弧で囲んだ 2 番目の名前とセミコロンを指定する必要がある。

IBM1619I S File specification after %INCLUDE is too long.
説明: ファイル指定の最大長は 8 文字である。

第 7 章 コンパイラ重大メッセージ (1500 から 2399)  67
IBM1620I S File specification missing after %INCLUDE.
説明: %INCLUDE のあとにはファイル名が必要である。セミコロンだけを指定することはできない。

IBM1621I S NODESCRIPTOR attribute is invalid if any parameters have bit alignment.
説明: パラメーターが、位置合わせされていないビット・ストリング、または、全体が位置合わせされていないビット・ストリングからなる配列または構造体である場合は、OPTIONS(NODESCRIPTOR)を指定することも暗黙に指定することもできない。

IBM1622I S The number of elements and dimension specifications in an aggregate must not exceed 131071.
説明: エレメントおよび次元数の数が131071を超えなる場合、記述子用に必要となるストレージが大きくなりすぎる。

IBM1623I S The dot-qualified reference reference name is unknown.
説明: 表されている参照は、それが参照されているブロックの中で宣言されている構造体または共用体のメンバーでも、そのブロックを含むブロックの中で宣言されている構造体または共用体のメンバーでもない。

IBM1624I S Extent must be a scalar.
説明: 配列境界、ストリング長、または AREA サイズを指定する式は、配列、構造体、または共用体への参照であってはならない。

IBM1625I S Extent must have computational type.
説明: 配列境界、ストリング長、または AREA サイズを指定する式は、数値型またはストリング型でなければならな

IBM1626I S Subscript expressions must be scalars.
説明: 添え字として使用する式は、配列、構造体、または共用体参照であってはならない。

IBM1627I S Index number index number into the array variable name must have computational type.
説明: 添え字として使用できるのは、数値型またはストリング型の式のみである。

IBM1628I S Extents for STATIC variable are not constant.
説明: STATIC 変数の配列境界、ストリング長、および AREA サイズは、コンパイル時に評価結果が定数にならないなければならない。

IBM1629I S Number of dimensions in arrays do not match.
説明: 配列を別の配列に割り当てるときは、2つの配列の次元数が同じでなければならない。

IBM1630I S Upper and lower bounds in arrays do not match.
説明: 配列を別の配列に割り当てるときは、2つの配列間で、各次元の上限および下限が同じでなければならない。

IBM1631I S Index number index number into the variable variable name is less than the lower bound for that dimension.
説明: このようなプログラムを実行すると、ほとんどの場合、記憶保護例外が発生する。

```plaintext
dcl a(5:10) fixed bin(31);
a(1) = 0;
```

IBM1632I S Index number index number into the variable variable name is greater than the upper bound for that dimension.
説明: このようなプログラムを実行すると、ほとんどの場合、記憶保護例外が発生する。

```plaintext
dcl a(5:10) fixed bin(31);
a(20) = 0;
```

IBM1633I S Number of dimensions in subelements of structures do not match.
説明: 構造体割り当ておよび構造体式の中では、配列であるサブエレメントはすべて次元数が同じでなければならない。

```plaintext
dcl a,
```
2 b(8) fixed bin,
2 c char(10);
dcl
1 x,
2 y(8,9) fixed bin,
2 z char(10);
a = x;

IBM1635I S Upper and lower bounds in subelements of structures do not match.

説明: 構造体分割を含む構造体中のサブアセンブリの各要素の境界が一致しなければならない。

IBM1636I S Substructuring in subelements of structures do not match.

説明: 構造体分割を含む構造体中のサブアセンブリの各要素の境界が一致しなければならない。

IBM1637I S Number of subelements in structures do not match.

説明: 構造体分割を含む構造体中のサブアセンブリの各要素の境界が一致しなければならない。

IBM1638I S Structures and unions are not permitted in GENERIC descriptions.

説明: GENERIC記述で使用できるのは、スカラーおよびスカラーの配列だけである。

IBM1639I S The aggregate aggregate-name contains only noncomputational values. The aggregate will be ignored.

説明: PUT または GET ステートメントの中では、スカラーまたは算術変数を含まない集合は使用できない。

IBM1640I S The aggregate aggregate-name contains one or more unions and cannot be used in stream I/O.

説明: PUT または GET ステートメントの中では、1つ以上の UNION ステートメントを含む集合は使用できない。

IBM1641I S References to slices of the array of structures structure-name are not permitted.

説明: 構造体の配列は、その全体を参照するか、またはエレメント単位で参照しなければならない。

IBM1642I S References to slices of the array of unions union-name are not permitted.

説明: 共用体の配列は、その全体を参照するか、またはエレメント単位で参照しなければならない。

IBM1643I S Each dimension of an array must contain no more than 2147483647 elements.

説明: 配列用の DIMENSION 組み込み関数の値を計算できることは必要である。DECLARE x(y:z) で、(y-x+1) が 214748648 未満でなければならな

IBM1644I S Aggregate contains more than 15 logical levels.

説明: 可能な最大物理レベルは 255 であるが、最大論理レベルは 15 である。
IBM1645I S Data aggregate exceeds the maximum length.

説明: 位置合わせされていないビットを含む集合のサイズは2**28 バイト未満で、その他の集合は2**31未満でなければならない。

IBM1646I S SIZE would be raised in assigning TO value to control variable.

説明: TO の値が、FIXED 変数または PICTURE 変数の保持できる最大値より大きい場合、その変数によって制御されるループが原因となり、SIZE が発生する可能性がある。例えば、以下に示す 1 つのコード・フラグメントでは、x に 99 より大きな値が割り当てられることはない。例えば、以下に示す 2 つのコード・フラグメントでは、y に 32767 より大きな値が割り当てられることはない。

```pli
  dcl x pic'99';
  do x = 1 to 100;
    put skip list( x );
  end;

  dcl y fixed bin(15);
  do y = 1 to 32768;
    put skip list( y );
  end;
```

IBM1647I S Too few subscripts specified for the variable variable name.

説明: 変数に与えられる添え字の数は、その変数の次元数と同じでなければならない。

IBM1648I S Too many subscripts specified for the variable variable name.

説明: 変数に与えられる添え字の数は、その変数の次元数と同じでなければならない。

IBM1649I S The number of inherited dimensions plus the number of member dimensions exceeds 15.

説明: 次元数が 15 を超える配列はサポートされていない。

```pli
  dcl 1 dim7(2,3,4,5,6,7,8),
      2 dimmore(2,3,4,5,6,7,8)
```

IBM1650I S The LIKE reference is neither a structure nor a union.

説明: LIKE 参照は、スカラーまたはスカラーの配列であってはならない。

```pli
  dcl a fixed bin,
      1 b like a;
```

IBM1651I S The LIKE reference is ambiguous.

説明: LIKE 参照には、それを固有にするための十分な修飾が必要である。

```pli
  dcl 1 a like b,
      1c ,
      2 d fixed bin,
      2 e fixed bin;

  dcl 1 x like a;
```

IBM1652I S Neither the LIKE reference nor any of its substructures can be declared with the LIKE attribute.

説明: LIKE から LIKE を宣言することはサポートされていない。

```pli
  dcl 1 a,
      2 b1 like c,
      2 b2 like c,
      1 c,
      2 d fixed bin,
      2 e fixed bin;

  dcl 1 x like a;
```
IBM1653I S The LIKE reference must not be a member of a structure or union declared with the LIKE attribute.

説明: LIKE から LIKE を宣言することはサポートされていない。

```
dcl a,
  2 b1 like c,
  2 b2 like c,
  1 c,
  2 d fixed bin,
  2 e fixed bin;
dcl 1 x like a.b1;
```

IBM1654I S The LIKE reference is unknown.

説明: LIKE 参照は、LIKE 属性を含むブロック内で既知のものでなければならない。

```
dcl c char(20);
call a(c);
a: proc( b );
dcl b controlled char(*);
```

IBM1655I S Only CONTROLLED variables can be passed to CONTROLLED parameters.

説明: パラメーターが controlled として宣言されている場合は、制御外部変数および演算子付きの式をそのパラメーターに渡することはできない。

```
dcl datei file record output
  env( fb recsize (80) total );
dcl satzaus char (100);
write file(datei) from(satzaus);
```

IBM1656I S A CONTROLLED variable passed to a CONTROLLED parameter must have the same attributes as that parameter.

説明: 算術属性の相違は許されない。次の例のような場合はこのメッセージが出される。

```
dcl x fixed bin(15) controlled;
call a(x);
a: proc( b );
dcl b controlled fixed bin(31);
```

IBM1657I S A subscript has been specified for the non-array variable variable name.

説明: 添え字は配列エレメント参照の中でのみ使用できる。

IBM1658I S Argument number argument-number in ENTRY reference ENTRY name is an array expression requiring a temporary array with strings of unknown length.

説明: ストリングの一時配列は、ストリング長が判明している場合のみサポートされる。

```
dcl a entry, (b(10),c(10)) char(20) var;
call a( b || c );
```

IBM1659I S After LIKE expansion, aggregate would contain more than 15 logical levels.

説明: LIKE 拡張後の論理レベルの合計数が 15 を超えてはならない。

IBM1660I S The size (record-size) of the record conflicts with the RECSIZE (recsize) specified in the ENVIRONMENT attribute.

説明: ステートメントを実行すると、RECORD 条件が発生する。

```
dcl datei file record output
  env( fb recsize (80) total );
dcl satzaus char (100);
write file(datei) from(satzaus);
```

IBM1661I S Aggregates cannot be assigned to scalars.

説明: スカラーにはスカラーのみを割り当てることができる。

IBM1662I S Unsupported use of union or structure containing a union.

説明: 共用体および共用体を含む構造体は、ADDR または UNSPEC などの組込み関数への引数として使用する場合以外は、式の中では使用できない。

IBM1663I S Unsupported or invalid use of structure expression.

説明: 構造体式は、スカラーの配列などに割り当てることはできない。

第 7 章 コンパイラーエラーメッセージ (1500 から 2399) 71
IBM1664I S Array expressions cannot be assigned to non-arrays.

説明：配列式は、構造体やスカラーなどに割り当てることはできない。

IBM1665I S E15 sort exit routines must have the RETURNS attribute.

説明：E15 ソート出口に RETURNS 属性が必要なので、この出口がソート・ライブラリー・ルーチンから関数として呼び出されるからである。

IBM1666I S E15 sort exit routines must return a CHARACTER string.

説明：E15 ソート出口は、NONVARYING。
VARYING、または VARYINGZ CHARACTER ストリーミングを戻すことができるが、これは文字ストリングでなければならない。

IBM1667I S Target in assignment is NONASSIGNABLE.

説明：代入ステートメント内のターゲットは、NONASSIGNABLE 属性を持つものであってはならない。

IBM1668I S Target in assignment is a function reference.

説明：代入ステートメントのターゲットは、配列、構造体、共用体、またはスカラー参照でなければならないうちと、関数参照は割り当てのターゲットにはできない。

IBM1669I S Target in assignment is a UNION.

説明：UNION への割り当てはサポートされていない。

IBM1670I S A PROCEDURE containing ENTRY statements with differing RETURNS attributes must return values BYADDR.

説明：ENTRY ステートメントを含む PROCEDURE で、PROCEDURE ステートメントと ENTRY ステートメントがすべて同じ RETURNS 属性を持っていない場合、すべての値に対し BYADDR を戻さなければならない。DFT(REturns(BYADDR)) でコンパイルしてこれを強制実行するか、RETURNS 属性の各セットに BYADDR 属性を追加することができる。例えば、次のプログラムを DFT(REturns(BYADDR)) でコンパイルするか、 “fixed bin” を “fixed bin byaddr” に変更する必要がある。

```pli
a: proc;
  return;
b: entry returns( fixed bin );
  return( 1729 );
end;
```

IBM1671I S The source in a structure assignment must be a scalar expression or a matching structure.

説明：構造体割り当てのソースは、スカラーの配列や、ターゲットに一致しない構造体であってはならない。

IBM1672I S In multiple BY NAME assignments, if one target is an array of structures, then all must be.

説明：BY NAME 割り当ては、配列と非配列の混合をターゲットにすることはできない。

```pli
dcl 1 a, 2 a1 fixed bin, 2 a2 fixed bin;
dcl 1 b(3), 2 a1 fixed bin, 2 a2 fixed bin;
dcl 1 c, 2 a1 fixed bin, 2 a2 fixed bin;
a,b = c, by name;
```

IBM1673I S The target in a compound concatenate and assign must be a VARYING or VARYINGZ string.

説明：NONVARYING ストリーミングへの割り当てに使用できるのは、単純変数演算子だけである。

IBM1674I S Target in assignment contains UNIONS.

説明：割り当てのターゲットに UNION が含まれていない。

IBM1675I S FROMALIEN option cannot be used with MAIN.

説明：この 2 つのオプションは同時に指定することはできない。

IBM1676I S Source in assignment to LIMITED ENTRY must be either a non-nested ENTRY constant or another LIMITED ENTRY.

説明：ネストされたプロシージャーを表す ENTRY 定数、および LIMITED 属性を持つものとして宣言されて
IBM1677I S Assignment of ENTRY to target type is invalid. If the ENTRY should be invoked, an argument list must be provided.

説明: 引数リストのない ENTRY 定数または変数は呼び出されないので、ENTRY 変数にしか割り当たることはできない。

IBM1678I S Assignment of source type to target type is invalid.

説明: ターゲットの属性がソースの属性と矛盾している。

IBM1679I S Assignment of POINTER to OFFSET is invalid unless the OFFSET is declared with an AREA qualifier.

説明: POINTER 式は、OFFSET が AREA 修飾子と共に宣言されている場合にのみ、OFFSET に変換できる。

IBM1680I S Assignment of OFFSET to POINTER is invalid unless the OFFSET is declared with an AREA qualifier.

説明: OFFSET 変数は、OFFSET が AREA 修飾子と共に宣言されている場合にのみ、POINTER に変換できる。

IBM1681I S The number of preprocessor invocations specified exceeds the maximum number (25) allowed.

説明: PP オプションの中または MACRO オプションと組み合わせて指定できるプリプロセッサー呼び出しは、25 回までである。

IBM1682I S The target in a BY NAME assignment must be a structure.

説明: BY NAME 割り当てのターゲットの構造体には、どのような UNION も含まれてはならない。ソース内の名前に一致する名前が含まれていない UNION も除外ではない。ソース式に、共用体または共用体を含む構造体が含まれていなければならない。

IBM1683I S Set of matching names in the expansion of BY NAME assignment must contain either all structures or no structures.

説明: 例えば、名前による割り当て x = y において、x と y の両方にメンバー z が直接含まれている場合、x.z と y.z の両方が構造体であるか、x.z と y.z のどちらも構造体ではない。

IBM1684I S Number of dimensions in the BY NAME corresponding elements variable name and variable name do not match.

説明: BY NAME 割り当てにおいて、一致する名前を持つ配列は次元数が同じでなければならない。

IBM1685I S Upper and lower bounds in BY NAME corresponding elements variable name and variable name do not match.

説明: BY NAME 割り当てにおいて、一致する名前を持つ配列は下限と上限がそれぞれ同じでなければならない。

IBM1686I S BY NAME assignment contains UNIONs.

説明: BY NAME 割り当てのターゲットの構造体には、どのような UNION も含まれてはならない。ソース内の名前に一致する名前が含まれていない UNION も除外ではない。ソース式に、共用体または共用体を含む構造体が含まれていなければならない。

IBM1687I S reserved name cannot be declared with OPTIONS other than ASM.

説明: DLI コンパイラ・オプションを指定する場合は、OPTIONS(ASM) 以外の OPTIONS を指定して PLITDLI を宣言することはできない。
IBM1688I S reserved name cannot be declared with an entry description list.

説明: DLI コンバイラー・オプションを指定する場合 は、エントリー記述リストを伴う PLITDLI 宣言することはできない。

IBM1689I S reserved name cannot be declared as a function.

説明: DLI コンバイラー・オプションを指定する場合 は、PLITDLI を関数として宣言することはできない。

IBM1690I S OPTIONS( language-name ) is not supported for functions.

説明: 関数 (つまり RETURNS 属性を伴って宣言する エントリー) は、OPTIONS(ASM) または OPTIONS(COBOL) を指定して宣言することはできな い。

IBM1691I S Extents in ENTRY descriptors must be asterisks or restricted expressions with computational type.

説明: ENTRY 記述子中の個々の配列境界、ストリング長、および AREA サイズは、アスタリスクで指定す るか、計算型の制限付き式を用いて指定しなければならな い。

IBM1692I S An ENTRY invoked as a function must have the RETURNS attribute.

説明: デフォルトの RETURNS 属性はない。

```pli
dcl e entry;
  a = e();
```

IBM1693I S call-option option repeated in CALL statement.

説明: TASK、EVENT、および PRIORITY オプション は、CALL ステートメントの中で 1 回ずつしか指定で きない。

IBM1694I S Reference in CALL statement must not be a built-in function.

説明: x が組込みサブルーチン、ENTRY 定数、また は ENTRY 变数である場合以外は、CALL x は無効で ある。組込み関数は組込み参照ではない。例えば、「Call SQRT(x)」は無効である。

IBM1695I S Reference in CALL statement must either be a built-in subroutine or have type ENTRY.

説明: x が組込みサブルーチン、ENTRY 定数、また は ENTRY 変数である場合以外は、CALL x は無効で ある。

IBM1696I S RETURN statement without an expression is invalid inside a subprocedure that specified the RETURNS attribute.

説明: 関数内のすべての RETURN ステートメントに は、戻される値を指定しなければならない。

```pli
  a: proc returns( fixed bin );
    return;
```

IBM1697I S RETURN statement is invalid inside a PROCEDURE that did not specify the RETURNS attribute.

説明: RETURN(x) の形式のステートメントが有効な のは、RETURNS 属性と共に定義されている PROCEDURE の中で使用する場合のみである。

IBM1698I S RETURN statement with an expression is invalid inside a BEGIN in a PROCEDURE that does not have the RETURNS(BYADDR) attribute.

説明: BEGIN ブロック内で RETURN(x) の形式のステ ートメントが有効ならば、その BEGIN ブロックを開む PROCEDURE が、明示指定またはデフォルトにより RETURNS(BYADDR) 属性を持つ場合のみである。

IBM1699I S Argument number argument-number in ENTRY reference ENTRY name is an aggregate. This conflicts with the BYVALUE option.

説明: 配列、構造体、および共用体には BYVALUE を 渡すことはできない。

IBM1700I S Argument number argument-number in ENTRY reference ENTRY name is an AREA reference with unknown size. This conflicts with the BYVALUE option.

説明: BYVALUE を渡すことができる相手は固定サイ
IBM1701I S Argument number argument-number in
ENTRY reference ENTRY name is a
string with unknown size. This conflicts
with the BYVALUE option.
説明: BYVALUE を渡すことができる相手は固定サイズのストリングに限られる。

IBM1702I S The attribute keyword attribute is invalid
as a RETURNS subattribute.
説明: 構造体および共用体を戻すことはできない。

IBM1703I S Reference in CALL statement must not
be an aggregate reference.
説明: CALL 参照はスカラーでなければならない。

dcl ea(10) entry;
call ea;

IBM1704I S Too many argument lists have been
specified for the variable variable name.
説明: 1 つの関数に付随する引数リストは 1 つだけで
なければならない。ただし、ENTRY を戻す関数の場合
は、戻された ENTRY がさらに ENTRY を戻す場合を
除き、2 つの引数リストを持つことができる。
a: proc returns( pointer )
dcl f entry returns( pointer );
return( f );
end;

IBM1705I S RETURN expression with attribute
source type is invalid for RETURNS
options specifying the attribute target
type.
説明: RETURN 式の型は、RETURNS オプションに指
示されている型に変換できるものでなければならない。

IBM1706I S RETURN expression with attribute
source type is invalid for RETURNS
options specifying the attribute target
type. If the ENTRY should be invoked,
an argument list must be provided.
説明: RETURN 式の型は、RETURNS オプションに指

IBM1707I S RETURN expression with attribute
source type is invalid for RETURNS
options specifying the attribute LIMITED
ENTRY.
説明: LIMITED ENTRY を戻す関数内で RETURNS 式
として指定できるのは、EXTERNAL ENTRY
CONSTANT、ネットされていない PROCEDURE を表す
ENTRY CONSTANT、または LIMITED 属性を持つ
ENTRY VARIABLE でなければならない。

IBM1708I S RETURN expression with attribute
POINTER is invalid for RETURNS
options specifying the attribute OFFSET
since the OFFSET attribute is not
declared with an AREA qualifier.
説明: POINTER 式は、OFFSET が AREA 修飾子と共
に宣言されている場合にのみ、OFFSET に変換できる。

IBM1709I S RETURN expression with attribute
OFFSET is invalid for RETURNS
options specifying the attribute POINTER
since the OFFSET expression
is not an OFFSET variable declared
with an AREA qualifier.
説明: OFFSET 変数は、OFFSET が AREA 修飾子と共
に宣言されている場合にのみ、POINTER に変換でき
る。

IBM1710I S ORDINAL type in RETURN expression
and RETURNS option must match.
説明: 序番を戻す関数では、RETURN 式の中での
ORDINAL の型は、この関数が戻すものと同じでなければ
ならない。

a: proc returns( ordinal color );
dcl i ordinal intensity;
return( i );
end;
IBM1711I S Expression in RETURN statement must be scalar.
説明：RETURN ステートメントの中の式は、配列、構造体、共用体であってはならない。

IBM1712I S External name specification must be a non-null string.
説明：EXTERNAL(”) は無効である。

IBM1713I S Function function name contains no RETURN statement.
説明：関数には RETURN ステートメントが少なくとも 1 つは含まれていなければならない。

IBM1714I S Extents in RETURNS descriptors must be constants.
説明：RETURNS 記述子中の個々の配列境界、ストリング長、および AREA サイズは、計算型の制限付き式を用いて指定しなければならない。ENTRY 記述子の場合と異なり、アスタリスクは使用できない。

IBM1715I S Exit from an ON-unit via RETURN is invalid.
説明：ON ユニットまたはそれに含まれている BEGIN ブロックのもの、RETURN ステートメントは使用できない。ただし、その含まれているブロックが、さらに、その ON ユニット内部に定義されているプロシージャーに含まれている場合を除く。

IBM1716I S FORMAT expression must be a scalar value.
説明：FORMAT リストの中の式は、SKIP 文節も含めて、スカラー値を表すものでなければならない。

IBM1717I S FORMAT expression must have computational type.
説明：FORMAT リストの中の式は、SKIP 文節も含めて、FIXED BIN(31) に変換できるように計算型のものでなければならない。

IBM1718I S source type is invalid as a boolean expression.
説明：IF、WHILE、UNTIL、SELECT、または WHEN 文節の中の式は、BIT(1) に変換できるように計算型のものでなければならない。

IBM1719I S ENTRY is invalid as a boolean expression. If an ENTRY should be invoked, an argument list must be provided.
説明：変数のサイズ計算で使用する式は、他の変数が持つ可能性がある値に依存するものであってはならない。これは、その変数用のストレージを割り振るようになるまではこの種の値は存在しないからである。

IBM1720I S Expression contains too many nested subexpressions.
説明：コンバイラーが式を評価するために使用するスペースを使い果たした、式をもっと単純な式に書き直す必要がある。

IBM1721I S Expression for calculating size of variable with adjustable extents is too complicated. Variable may be defined in terms of itself.
説明：変数のサイズ計算で使用する式は、その変数が持つ可能性がある値に依存するものであってはならない。これは、その変数用のストレージを割り振るようになるまではこの種の値は存在しないからである。

IBM1722I S The number of error messages allowed by the MAXMSG option has been exceeded.
説明：メッセージ数が MAXMSG コンバイラー・オプションで設定されている制限を超過すると、コンパイルは終了する。

IBM1723I S Result of concatenating two literals is too long.
説明：2 つのストリング・リテラルを連結した結果のストリング・リテラルの長さは、派生ストリング型のリテラルの最大許容長を超えてはならない。

IBM1724I S Addition of source type and target type is invalid.
説明：算術に使用するオペランドの一方は計算型であり、もう一方は計算型またはロケーターでなければならない。
IBM1725I S Addition of source type and target type is invalid. If an ENTRY should be invoked, an argument list must be provided.

説明: ENTRY を算術オペランドとして使用することはできない。ENTRY が、呼び出すべき関数である場合は、引数リスト（左括弧と右括弧のものであってもよい）を指定しなければならない。

IBM1726I S Subtraction of target type from source type is invalid.

説明: 減算の第 1 オペランドは、計算型またはロケータでなければならない。第 2 オペランドは、第 1 オペランドがロケータである場合にのみ、ロケータとすることができる。そうでない場合は、第 2 オペランドは計算型でなければならない。

IBM1727I S Subtraction of target type from source type is invalid. If an ENTRY should be invoked, an argument list must be provided.

説明: ENTRY を算術オペランドとして使用することはできない。ENTRY が、呼び出すべき関数である場合は、引数リスト（左括弧と右括弧のものであってもよい）を指定しなければならない。

IBM1728I S Multiplication of source type by target type is invalid.

説明: 乗算のオペランドはどちらも計算型でなければなりません。

IBM1729I S Multiplication of source type by target type is invalid. If an ENTRY should be invoked, an argument list must be provided.

説明: ENTRY を算術オペランドとして使用することはできない。ENTRY が、呼び出すべき関数である場合は、引数リスト（左括弧と右括弧のものであってもよい）を指定しなければならない。

IBM1730I S Division of source type by target type is invalid.

説明: 除算のオペランドはどちらも計算型でなければならない。

IBM1731I S Division of source type by target type is invalid. If an ENTRY should be invoked, an argument list must be provided.

説明: ENTRY を算術オペランドとして使用することはできない。ENTRY が、呼び出すべき関数である場合は、引数リスト（左括弧と右括弧のものであってもよい）を指定しなければならない。

IBM1732I S Unsupported use of aggregate expression.

説明: 集合型は、代入ステートメント中のソースとしてのみ使用できる。また、制限付きで、組み込み関数 ANY または ALL への引数としても使用できる。

IBM1733I S Concatenate operands must have computational type.

説明: 連結できるのは、ストリング型または数字型の式だけである。

IBM1734I S Operand in a prefix expression is not computational.

説明: 接頭演算子（正符号、負符号、および論理否定）は、ストリング型または数字型の式のみにのみ適用できる。

IBM1735I S AREA variables may not be compared.

説明: AREA 変数については関係演算は定義できない。

IBM1736I S Comparison of source type to target type is invalid.

説明: 計算型は他の計算型のみ比較できる。非計算型は同様な非計算型とのみ比較できる。

IBM1737I S Comparison of ENTRY to target type is invalid. If the ENTRY should be invoked, an argument list must be provided.

説明: ENTRY は他の ENTRY とのみ比較できる。ENTRY が、呼び出すべき関数である場合は、引数リスト（左括弧と右括弧のものであってもよい）を指定しなければならない。

IBM1738I S Comparison of source type to ENTRY is invalid. If the ENTRY should be invoked, an argument list must be provided.

説明: ENTRY は他の ENTRY とのみ比較できる。
ENTRY が、呼び出すべき関数である場合は、引数リスト（左括弧と右括弧のみのものであってもよい）を指定しなければならない。

IBM1739I S TASK variables may not be compared.
説明: TASK 変数について関係演算が定義されていない。

IBM1740I S Comparison of an OFFSET to a POINTER is invalid since the OFFSET comparand is not an OFFSET variable declared with an AREA qualifier.
説明: OFFSET と POINTER と比較できるのは、OFFSET を POINTER に変換できる場合に限られる。そのためには、OFFSET を AREA 修飾子付きで宣言する必要がある。

IBM1741I S Operands in comparison have differing strong types.
説明: ストロング型の変数の比較は、両方の型が同じでない限り無効である。

dcl hp handle point;
dcl hr handle rectangle;
if hp = hr then
  ...

IBM1742I S Compared ORDINALs must have the same ORDINAL type.
説明: ORDINAL は ORDINAL 型が異なる他の ORDINAL と比較することはできない。

IBM1743I S Source and target in assignment have differing strong types.
説明: ストロング型の変数の割り当ては、両方の型が同じでない限り無効である。

IBM1744I S Conversion of ORDINALs is invalid unless both have the same ORDINAL type.
説明: ORDINAL は、ORDINAL 型が異なる他の ORDINAL に割り当てることはできない。

IBM1745I S In a function that returns a strong type, the type in any RETURN expression must be the same as that returned by the function.
説明: 例えば、型付き構造体を返す関数の中RETURN 式は同じ構造体型のものでなければならな

IBM1746I S VALUE and STATIC INITIAL expressions must be constant.
説明: これらの式は、コンパイル時に定数に挿入できるものでなければならない。

IBM1747I S Function cannot be used before the function's descriptor list has been scanned.
説明: これはコンパイラの制約である。プログラム内の宣言およびブロックの順序を変える必要がある。例えば、次の宣言は逆の順序にする必要がある。

dcl a fixed bin static nonassignable init(0);
dcl m fixed bin value( a );
dcl n fixed bin static init( a );

IBM1748I S Extents of automatic variables must not depend on the extents of automatic variables declared later in the same block.
説明: プログラム内の宣言の順序を変えなければならない。例えば、次の宣言は逆の順序にする必要がある。

IBM1749I S VALUE and INITIAL expressions must be scalars.
説明: 集合式は、INITIAL 式および VALUE 式としては無効である。
IBM1750I S INITIAL attribute is invalid for the STATIC LABEL variable variable-name since it has the MEMBER attribute.

説明: LABEL 変数はblocks活動化情報が必要であるため、コンパイル時には初期化できない。この変数が構造体のメンバーでなかったとすれば、ストレージ・クラスはAUTOMATICに変更され、Eレベルのメッセージが代わりに出される。

IBM1751I S INITIAL attribute is valid for the STATIC ENTRY variable variable-name only if it has the LIMITED attribute.

説明: LIMITED属性を持たないENTRY変数にはblocks活動化情報が必要であるため、コンパイル時には初期化できない。

IBM1752I S INITIAL attribute is invalid for the STATIC FORMAT variable variable-name.

説明: FORMAT変数にはblocks活動化情報が必要であるため、コンパイル時には初期化できない。この変数が構造体のメンバーでない場合、ストレージ・クラスはAUTOMATICに変更され、代わりにエラー・メッセージが出される。

IBM1753I S An asterisk iteration factor can be applied only to the last expression in the INITIAL item list for variable-name.

説明: アスタリスク反復因数で変数の初期化が完了するので、その後はさらに初期値を続けることはできない。

```plaintext
dcl a(10) fixed bin init( 1, 2, (*) 0, 8 );
```

IBM1754I S An asterisk iteration factor cannot be used in the nested INITIAL item list for variable-name.

説明: アスタリスク反復因数は、ネストされていないINITIAL項目リストの中でのみ使用できる。次の例は無効である。

```plaintext
dcl a(20) fixed bin init( (2) ( 1, (*) 2 ) );
```

IBM1755I S The scalar variable variable-name has an INITIAL list with more than one item.

説明: 複数のエレメントから成るINITIALリストを持つことができるのは配列のみである。

```plaintext
dcl a fixed bin init( 1, 2 );
```

IBM1756I S LABEL constant in STATIC INITIAL for the variable variable-name must be in the same block as the LABEL being initialized.

説明: ストレージ・クラスをAUTOMATICに変更する必要がある。

```plaintext
lx::*;
subproc: proc;
   dcl la static label init( lx );
end;
```

IBM1757I S Only one element in the STATIC UNION variable-name may have the INITIAL attribute.

説明: STATICUNIONの複数のエレメントにINITIAL値があると、どれを優先させるかの判別ができない。

```plaintext
dcl 1 a union static,
    2 b fixed bin(31) init( 17 ),
    2 c fixed bin(15) init( 19 );
```

IBM1758I S The scalar variable variable-name has an INITIAL list with more than one item.

説明: 複数のエレメントから成るINITIALリストを持つことができるのは配列のみである。

```plaintext
dcl a(10,2) static,
    2 b1 bit(1) init( (20) '1'b ),
    2 b2 bit(1) init( (20) '0'b );
```

IBM1759I S Non-null INITIAL values are not supported for the STATIC NONCONNECTED array variable-name since it has the attributes UNALIGNED BIT.

説明: 隠れ次元を持つSTATICUNALIGNEDBIT変数の場合にサポートされるINITIAL値は、“b”に等しいビットストリングだけである。

```plaintext
dcl 1 a(10,2) static,
    2 b1 bit(1) init( (20) '1'b ),
    2 b2 bit(1) init( (20) '0'b );
```
IBM1760I S LABEL constant in the STATIC INITIAL list for variable-name must not be an element of a LABEL CONSTANT array.

説明: 添え字付き LABEL を添え字なしの LABEL で置き換えるか、ストレージ・クラスを AUTOMATIC に変更する必要がある。

```pli
lx(1);  
lx(2);  
dcl la(2) static label init( lx(2), lx(1) );
```

IBM1761I S ENTRY reference in INITIAL clause for the STATIC ENTRY variable variable-name must not be FETCHABLE.

説明: DCL x ENTRY LIMITED INIT(y) の中の変数 y は FETCHABLE であってはならない。y は FETCH や RELEASE ステートメントで使用してはならない。y は OPTIONS(FETCHABLE) 属性を持ってはならない。

```pli
dcl a fixed bin automatic;  
dcl s char(a) value('variable length');
```

IBM1762I S INITIAL iteration factor must have computational type.

説明: INITIAL リストの中の反復因数は、数字型またはストリング型でなければならない。

IBM1763I S INITIAL iteration factor must be a scalar.

説明: INITIAL リスト内の反復因数は、配列、構造体、または共用体であってはならない。

IBM1764I S The BYVALUE attribute is invalid for strings of nonconstant length.

説明: 非固定長のストリングはアドレスにより受け渡ししなければならない。

```pli
a: proc( x );  
dcl x char(*) byvalue;
```

IBM1765I S Length of string with the VALUE attribute must be a constant or an asterisk.

説明: 示されているストリングは、固定長か、またはそれぞれの VALUE により決定される長さのものでなければならない。

```pli
lx(1);  
lx(2);  
dcl la(2) static label init( lx(2), lx(1) );
```

IBM1766I S VALUE for variable-name must be evaluated before its first use.

説明: 名前付き定数は、使用の前に評価されなければならない。宣言の順序を変えて、個々の名前付き定数が、それぞれの最初の使用の前に宣言されるようにする。

```pli
dcl a char(n) static init( 'tooSoon' );  
dcl n fixed bin value( 7 );
```

IBM1767I S Control variable in DO statement must not be a named constant.

説明: 名前付き定数は、DO ループ内の制御変数として使用することはできない。

```pli
dcl n fixed bin value( 7 );  
do n = 1 to 5;
```

IBM1768I S Control variable in DO statement must have VARIABLE attribute.

説明: 定数は、DO ループ内の制御変数として使用することはできない。

```pli
dcl ex external entry, (ev1, ev2) entry;  
do ex = ev1, ev2;
```

IBM1769I S Control variable has type POINTER, but TO expression does not.

説明: DO ループ内の制御変数が POINTER 型である場合は、TO 式は POINTER 型でなければならない。このコンテキストでは、OFFSET から POINTER への暗黙の変換はサポートされない。

IBM1770I S Control variable in loop with TO clause must have computational or locator type.

説明: TO 文節を伴う DO ループの中では、制御変数は、「より小」または「より大」の比較が可能な型のものでなければならない。これが可能なのは、計算型とロケーター型だけである。
IBM1771I S The variable name BUILTIN function may be used as a pseudovariable in a DO-loop only if the length of the pseudovariable reference is known at compile time.

説明: SUBSTR および UNSPEC を DO ループ内の仮想変数として使用する場合は、コンパイラ時にそれぞれの派生長が判明している場合に限られる。

IBM1772I S Source in DO loop initialization must be scalar.

説明: DO a = b TO c の形式の DO ループでは、b はスカラーでなければならない。

IBM1773I S Control variable in DO statement must be a scalar.

説明: DO x = . の形式の DO ループでは、x はスカラーでなければならない。

IBM1774I S Compiler restriction: control variable in DO statement must not be a BASED or CONTROLLED string or area that has non-constant extent.

説明: DO x = . の形式の DO ループでは、x がストリングまたはエリアである場合は、x は固定サイズであるか、静的、自動、または定義済みでなければならない。

IBM1775I S BY expression must have computational type.

説明: DO ループの BY 文節内の式は、ストリング型または数値型でなければならぬ。この式はゼロと比較できるものでなければならないので、ロケーター型でぱつてはなければならない。

IBM1776I S BY expression must not be COMPLEX.

説明: DO ループの BY 文節内の式は、REAL でなければならない。

IBM1777I S TO expression must not be COMPLEX.

説明: DO ループの TO 文節内の式は、REAL でなければならない。

IBM1778I S Control variable in loop with TO clause must not be COMPLEX.

説明: TO 文節を伴う DO ループの中では、制御変数は、「より小」または「より大」の比較が可能な型のものでなければならない。数値型の場合、これが可能なのはその数値型が REAL の場合に限られる。

IBM1779I S TO expression must have computational type.

説明: DO ループの TO 文節内の式は、ストリング型または数値型でなければならない。

IBM1780I S SIGNAL ANYCONDITION is invalid.

説明: ON ANYCONDITION は、他の方法でトラップされない条件をトラップするために使用できるが、ANYCONDITION シグナルは送信できない。

IBM1781I S And, or and exclusive-or of source type and target type is invalid.

説明: ビット単位オペランドは計算型のものでなければならぬ。

IBM1782I S And, or and exclusive-or of source type and target type is invalid. If an ENTRY should be invoked, an argument list must be provided.

説明: ENTRY をビット単位オペランドとして使用することはできない。ENTRY が、呼び出すべき関数である場合は、引数リスト (左括弧と右括弧のみのものであってもよい) を指定しなければならない。

IBM1783I S BASED variable without an implicit qualifier must be explicitly qualified.

説明: BASED( reference ) ではなく BASED として宣言される変数は、常に明示的に修飾されていなければならない。変数が STORAGE などの組み込み関数への引数である場合も、この条件が満たされていなければならない。

dcl z cplx float;
do jx = 1 to 10 by z;
IBM1784I S The ENTRY variable-name may not be used as a locator qualifier since it does not have the RETURNS attribute.

説明: 関数は、ロケーター修飾子として（そして、ロケーターを戻す場合に限り）使用できるが、サブプロシージャーはロケーター修飾子としては使用できない。

IBM1785I S The variable variable-name is used as a locator qualifier, but it is not a scalar.

説明: ロケーター修飾子として使用できるのはスカラーだけである。

IBM1786I S BUILTIN name built-in may not be used as a locator qualifier.

説明: 示されている組込み関数は、POINTER を戻さないので、ロケーター修飾子としては使用できない。

IBM1787I S The ENTRY variable-name may not be used as a locator qualifier.

説明: x(...)->y は、修飾 AREA を伴って宣言された POINTER か OFFSET を戻す場合以外は無効である。

IBM1789I S The qualifier variable-name does not have locator type.

説明: ロケーター修飾子として使用できるのは、修飾 AREA を伴って宣言された POINTER および OFFSET だけである。

IBM1790I S Locator qualification is invalid for variable-name.

説明: ロケーター修飾子は BASED 変数の場合のみ有効である。

IBM1791I S The locator qualified reference reference name is ambiguous.

説明: 参照はすべてあいまいでないものでなければなららない。

IBM1792I S The locator qualified reference reference name is unknown.

説明: ロケーターで修飾された参照は明示宣言しておかなければならない。BASED 変数は暗黙的には宣言できない。

IBM1793I S The variable name BUILTIN function may not be used as a pseudovariable in a DO-loop.

説明: DO ループ内で疑似変数として使用できるのは、IMAG、REAL、SUBSTR、および UNSPEC だけである。

IBM1794I S Too many implicit locators are needed to resolve the qualification for a variable. Variable may be based on itself.

説明: 暗黙的に修飾される変数は、完全に修飾するために 15 個を超える修飾子を必要とするものであってはならない。15 個を超える修飾子が必要な場合は、修飾子間の相互依存関係が強すぎることを意味する。

IBM1795I S The OFFSET variable variable-name may not be used as a locator qualifier since it was not declared with an AREA specification.

説明: OFFSET 変数をロケーター修飾子として使用できるのは、ポインタ値に変換できる場合に限られる。そのためには、OFFSET を AREA 修飾付きで宣言する必要がある。

IBM1796I S Qualifier must be a scalar.

説明: 配列、構造体、および共用体は、ロケーター修飾子として使用することはできない。

IBM1797I S BASED variables may not contain extents with nonconstant values if other extents use the REFER option.

説明: REFER オプションは、同じく非定数式により設定されるエクステントを持つ BASED 変数の中で使用することはできない。

IBM1798I S Invalid scale factor in PICTURE specification.

説明: ピックチャー文字 F は、固定小数点 10 進数のピックチャー・スケール因子を指定する。V ピックチャー文 字の後に続く数字の数から、F に指定されている整数を引いた値は、-128 から 127 の範囲内になければならない。
IBM1799I S Invalid characters in PICTURE specification.
説明: ピクチャー文字 F は、固定小数点 10 近数のピクチャー・スケール因数を指定する。フォーマットは F(n) で、n は -128 から 127 の範囲の任意の符号付き整数である。

IBM1800I S Invalid characters in the F scaling factor.
説明: ピクチャー文字 F は、固定小数点 10 近数のピクチャー・スケール因数を指定する。フォーマットは F(n) で、n は -128 から 127 の範囲の任意の符号付き整数である。

IBM1801I S A character PICTURE string may have only A, X, or 9.
説明: ピクチャー文字 F は、固定小数点 10 近数のピクチャー・スケール因数を指定する。フォーマットは F(n) で、n は -128 から 127 の範囲の任意の符号付き整数である。

IBM1802I S Invalid precision in PICTURE fixed decimal precision.
説明: 数値データ・ピクチャー指定の中の精度フィールドの桁数は、1 から、LIMITS(FIXEDDEC) オプションで指定されている最大値までの範囲内でなければならない。

IBM1803I S Exponent in FLOAT PICTURE is too long. Exponent will be truncated to fit.
説明: 浮動小数点数ピクチャー指定の中の指数の桁数は 4 に制限されている。

IBM1804I S Exponent in FLOAT PICTURE has no digits.
説明: 浮動小数点数ピクチャー指定の中の指数が欠落している。ゼロの場合でも入力しなければならない。

IBM1805I S Exponent in PICTURE specification cannot contain V.
説明: V は暗黙の小数点を指定する。したがって、指数フィールドの中では使用できない。

IBM1806I S FLOAT PICTURE cannot contain CR, DB or F.
説明: クレジット (CR)、デビット (DB)、およびスケール因数 (F) は FIXED ピクチャー指定の中でのみ使用できる。

IBM1807I S Precision in FLOAT DECIMAL PICTURE is too big.
説明: 固定小数点数ピクチャー指定の中の精度は、LIMITS コンパイラー・オプションに指定されている数を超えてはならない。

IBM1808I S PICTURE string is empty.
説明: ヌル・ピクチャー・ストリング ("P") は無効である。

IBM1809I S Exponent in FLOAT PICTURE is too long. Exponent will be truncated to fit.
説明: 浮動小数点数ピクチャー指定の中の指数の桁数は 4 に制限されている。

IBM1810I S Exponent in FLOAT PICTURE has no digits.
説明: 浮動小数点数ピクチャー指定の中の指数が欠落している。ゼロの場合でも入力しなければならない。

IBM1811I S PICTURE specification is too long. Excess characters are truncated on the right.
説明: PICTURE 指定が长すぎない、Excess characters are truncated on the right.

IBM1812I S The precision in FIXED DECIMAL PICTURE is too big.
説明: 固定小数点数ピクチャー指定中の精度は、LIMITS コンパイラー・オプションに指定されている数を超えてはならない。

IBM1813I S PICTURE specification is too long. Excess characters are truncated on the right.
説明: PICTURE 指定が長すぎない、Excess characters are truncated on the right.

IBM1814I S The precision in numeric PICTURE must NOT be less than 1.
説明: 数値データ・ピクチャー指定の中の精度フィールドには、少なくとも 1 個の数字が含まれていなければならない。

IBM1815I S FIXED PICTURE cannot contain F.
説明: 固定小数点数ピクチャー指定の中のコンディション (F) は、固定小数点数ピクチャー指定の中では使用できない。

IBM1816I S FLOAT PICTURE cannot contain CR, DB or F.
説明: 浮動小数点数ピクチャー指定の中のコンディション (CR, DB, F) は、浮動小数点数ピクチャー指定の中では使用できない。

IBM1817I S PICTURE specification is too long. Excess characters are truncated on the right.
説明: PICTURE 指定が長すぎない、Excess characters are truncated on the right.

IBM1818I S The precision in numeric PICTURE must NOT be less than 1.
説明: 数値データ・ピクチャー指定の中の精度フィールドには、少なくとも 1 個の数字が含まれていなければならない。

IBM1819I S FIXED PICTURE cannot contain V.
説明: 固定小数点数ピクチャー指定中の V を含む。したがって、指数フィールドの中では使用できない。

IBM1820I S FLOAT PICTURE cannot contain CR, DB or F.
説明: 浮動小数点数ピクチャー指定中の CR, DB, F を含む。したがって、指数フィールドの中では使用できない。

IBM1821I S PICTURE specification is too long. Excess characters are truncated on the right.
説明: PICTURE 指定が長すぎない、Excess characters are truncated on the right.

IBM1822I S The precision in numeric PICTURE must NOT be less than 1.
説明: 数値データ・ピクチャー指定の中の精度フィールドには、少なくとも 1 個の数字が含まれていなければならない。

IBM1823I S FIXED PICTURE cannot contain F.
説明: 固定小数点数ピクチャー指定中の F を含む。したがって、指数フィールドの中では使用できない。

IBM1824I S FLOAT PICTURE cannot contain CR, DB or F.
説明: 浮動小数点数ピクチャー指定中の CR, DB, F を含む。したがって、指数フィールドの中では使用できない。

IBM1825I S PICTURE specification is too long. Excess characters are truncated on the right.
説明: PICTURE 指定が長すぎない、Excess characters are truncated on the right.

IBM1826I S The precision in numeric PICTURE must NOT be less than 1.
説明: 数値データ・ピクチャー指定の中の精度フィールドには、少なくとも 1 個の数字が含まれていなければならない。

IBM1827I S FIXED PICTURE cannot contain V.
説明: 固定小数点数ピクチャー指定中の V を含む。したがって、指数フィールドの中では使用できない。

IBM1828I S FLOAT PICTURE cannot contain CR, DB or F.
説明: 浮動小数点数ピクチャー指定中の CR, DB, F を含む。したがって、指数フィールドの中では使用できない。

IBM1829I S PICTURE specification is too long. Excess characters are truncated on the right.
説明: PICTURE 指定が長すぎない、Excess characters are truncated on the right.

IBM1830I S The precision in numeric PICTURE must NOT be less than 1.
説明: 数値データ・ピクチャー指定の中の精度フィールドには、少なくとも 1 個の数字が含まれていなければならない。

IBM1831I S FIXED PICTURE cannot contain F.
説明: 固定小数点数ピクチャー指定中の F を含む。したがって、指数フィールドの中では使用できない。

IBM1832I S FLOAT PICTURE cannot contain CR, DB or F.
説明: 浮動小数点数ピクチャー指定中の CR, DB, F を含む。したがって、指数フィールドの中では使用できない。

IBM1833I S PICTURE specification is too long. Excess characters are truncated on the right.
説明: PICTURE 指定が長すぎない、Excess characters are truncated on the right.

IBM1834I S The precision in numeric PICTURE must NOT be less than 1.
説明: 数値データ・ピクチャー指定の中の精度フィールドには、少なくとも 1 個の数字が含まれていなければならない。

IBM1835I S FIXED PICTURE cannot contain V.
説明: 固定小数点数ピクチャー指定中の V を含む。したがって、指数フィールドの中では使用できない。

IBM1836I S FLOAT PICTURE cannot contain CR, DB or F.
説明: 浮動小数点数ピクチャー指定中の CR, DB, F を含む。したがって、指数フィールドの中では使用できない。

IBM1837I S PICTURE specification is too long. Excess characters are truncated on the right.
説明: PICTURE 指定が長すぎない、Excess characters are truncated on the right.
IBM1814I S  PICTURE string has an invalid floating
insertion character string.

説明: 浮動小数点ストリングは < > で区切られる。浮動
は > 文字により行われる。ストリングには、区切り文
字自体を除くどの文字でも含めることができる。浮動小
数点ストリングに < および > の文字を含めるには、これ
らの不等号括弧はエスケープ・フォーマットで使用しな
ければならない。文字 < を指定するには << を使用し、文
字 > を指定するには >> を使用しなければなら
ない。したがって、例えば、<aaa<<bbb>>ccc> は挿入ス
トリング aaa<<bbb>>ccc を表す。

IBM1815I S  BUILTIN name is a built-in subroutine. It
should be used only in CALL statements
and not as a function.

説明: 組み込みサブルーチンを関数として使用できな
い。呼び出することしかできない。例えば、次のコードは
無効である。

    dcl pliretc builtin;
    rc = pliretc( 16 );

IBM1816I S  keyword item variable name is not
computational.

説明: 式は算術またはストリングでなければならない。

    dcl x label variable;
    put list( x );

IBM1817I S  The KEYTO reference must be of type
CHARACTER or GRAPHIC.

説明: KEYTO 参照のデータ型は文字またはグラフィッ
クでなければならない。参照は、非数値ビクチャ・ス
トリング指定を持つ変数でもよい。

IBM1818I S  I/O-option conflicts with previous options
on the I/O-stmt statement.

説明: 入出力ステーミント上のオプションの 1 つが
前のオプションと矛盾している。

    open file(f1) input output;
    read file(f) into(x) set(p);

IBM1819I S  The I/O-option option is multiply
specified on the I/O-stmt statement.

説明: 各オプションはそれぞれ 1 回だけ指定できる。

    read file(f1) ignore(1) ignore(2);
IBM1825I S The reference in the keyword clause cannot be a built-in function reference.

説明: レコード入出力オプション KEYTO、FROM、INTO、および SET に対する参照は、組み込み関数であると定められている。このメッセージは、例えば次のような場合に出される。

```c
       dcl f1 file;
       dcl x char(10);
       read file(f1) into(hex(x));
```

IBM1826I S The reference in the keyword clause cannot be a function invocation.

説明: レコード入出力オプション KEYTO、FROM、INTO、および SET に対する参照は、エントリーであってはならない。

IBM1827I S The reference in the keyword clause must have CHARACTER type.

説明: 指定された参照は無効である。これは文字型のものでなければならない。このメッセージは、例えば次のような場合に出される。

```c
       dcl p pointer;
       display ('what is your name?') reply(p);
```

IBM1828I S The reference in the keyword clause must be a scalar variable.

説明: 指定された参照は無効である。これはスカラーでなければならない。このメッセージは、例えば次のような場合に出される。

```c
       dcl z(10) char(10);
       display ('what is your name?') reply(z);
```

IBM1829I S The attributes of the argument in the clause clause conflict with its usage.

説明: 宣言された属性は、ステートメント内での用途と矛盾している。

```c
       dcl f file stream;
       read file(f) into(x);
```

IBM1830I S keyword expression is not computational.

説明: 式は算術またはストリングでなければならない。

```c
       dcl p pointer;
       put list( ptradd(p,2) );
```

IBM1831I S The LOCATE reference variable-name is not implicitly qualified and is invalid without a SET clause.

説明: LOCATE ステートメントの中に SET 文節を指定する必要がある。

```c
       dcl f file;
       dcl x char(10) based;
       locate x file(f1);
```

IBM1832I S SET reference must have POINTER type.

説明: FETCH ステートメントの SET 文節内の参照は POINTER 型でなければならない。このコンテキストでは OFFSET 型はサポートされていない。

IBM1833I S The aggregate reference in the from-into clause clause must be CONNECTED.

説明: レコード入出力ステートメント オプション FROM または INTO で指定されている参照が無効である。参照は接続していかなければならず、このメッセージは、例えば次のような場合に出される。

```c
       dcl f1 file;
       dcl 1 a(3),
           2 b(4) char(4),
           2 c(4) char(4);
       read file(f1) into(b);
```

IBM1834I S The expression in IGNORE must be computational.

説明: READ ステートメントの IGNORE オプション内で指定される式は計算型でなければならない。このメッセージは、例えば次のような場合に出される。

```c
       dcl a area;
       read file(f1) ignore(a);
```

IBM1835I S The LOCATE reference variable-name is not a level-1 BASED variable.

説明: LOCATE 参照は構造体メンバーであってはならず、ストレージ属性 BASED を持っていかなければならない。
IBM1836I S INITIAL attribute is invalid for structures.

IBM1837I S The reference in the keyword clause cannot be a named constant.

IBM1838I S The attributes of argument-number conflict with its usage in data directed I/O.

IBM1839I S DATA-directed I/O does not support references with locators.

IBM1840I S Subscripted references are not allowed in GET DATA.

IBM1841I S The first argument in the keyword -format item is invalid.

IBM1842I S The field width specified in the keyword -format item is too small for complete input or output of the data item.

IBM1843I S The fractional digits specified in the keyword -format item is invalid.

IBM1844I S The argument in the R-format item is not a format constant or format variable.

IBM1845I S The significant digits specified in E-format item is invalid.

IBM1846I S The format-item format item is invalid with GET/PUT STRING.

IBM1847I S GOTO target is inside a (different) DO loop.

IBM1848I S The INCLUDE file for include-stmt-arg could not be found.

IBM1849I S Under CMPAT(V1), bounds must not be greater than 32767.

IBM1850I S The reference in the keyword clause cannot be a named constant.

IBM1851I S DATA-directed I/O does not support references with locators.

IBM1852I S Subscripted references are not allowed in GET DATA.

IBM1853I S The first argument in the keyword -format item is invalid.

IBM1854I S The field width specified in the keyword -format item is too small for complete input or output of the data item.

IBM1855I S The fractional digits specified in the keyword -format item is invalid.

IBM1856I S The argument in the R-format item is not a format constant or format variable.

IBM1857I S The significant digits specified in E-format item is invalid.

IBM1858I S The format-item format item is invalid with GET/PUT STRING.

IBM1859I S GOTO target is inside a (different) DO loop.

IBM1860I S The INCLUDE file for include-stmt-arg could not be found.

IBM1861I S Under CMPAT(V1), bounds must not be greater than 32767.
IBM1850I S Under CMPAT(V1), bounds must not be less than -32768.

説明: CMPAT(V1) のもとでは、境界は -32768 から 32767 の範囲内になければならない。この範囲外の境界を使用するには、別の CMPAT オプションを指定する。

IBM1851I S The INCLUDE file include-file-name could not be opened.

説明: インクルード・ソース・ファイルをオープンしようとしたときに予期しないエラーが起きた。

IBM1852I S The preprocessor preprocessor is not known to the compiler.

説明: PP コンバイラー・オプションで不明なプリプロセッサが指定されている。

IBM1853I S Variable in statement statement must be a FETCHABLE entry constant.

説明: FETCH および RELEASE ステートメント内の引数は、FETCHABLE 入口定数でなければならない。

IBM1854I S Fetch of the PP name preprocessor failed with ONCODE= oncode.

説明: コンバイラは、プリプロセッサ用の PP-DEF インストール・オプションで指定されているモジュールをロードしようとした。

IBM1855I S Preprocessor PP name terminated abnormally with ONCODE= oncode-value.

説明: コンバイラが呼び出したプリプロセッサの中で終了エラーが検出された。

IBM1856I S Fetch of the user exit initialization routine failed with ONCODE= oncode.

説明: コンバイラは、ユーザー出口をロードできなかった。

IBM1857I S User exit routine terminated abnormally with ONCODE= oncode-value.

説明: コンバイラは、ユーザー出口の中に終了エラーを検出した。

IBM1858I S Compile aborted by user exit.

説明: ユーザー出口でコンパイルが打ち切られ、戻りコードが 16 に設定された。

IBM1859I S The first statement must be a PROCEDURE or PACKAGE statement.

説明: 他のすべてのステートメントは、PACKAGE または PROCEDURE ステートメントに閉まれていなければならない。

IBM1860I S PACKAGE statement must be the first statement in the program.

説明: PACKAGE ステートメントをプログラム内の他 のステートメントのあとに置くことはできない。

IBM1861I S All statements other than DECLARE, DEFAULT and PROCEDURE statements must be contained inside a PROCEDURE.

説明: このメッセージが生じるのは、例えば、最初の PROCEDURE ステートメントが無効な場合や、PROCEDURE に含まれている END ステートメントが多すぎる場合である。

IBM1862I S Statements are nested too deep.

説明: PROCEDURE、DO、SELECT、および類似のステートメントのネスト数が、コンバイラーでサポートされている数よりも多い。もっと単純になるようにプログラムを書き直す必要がある。

IBM1863I S Variables declared in a PACKAGE outside of any PROCEDURE must have the storage class STATIC, BASED or CONTROLLED or must be DEFINED on STATIC.

説明: AUTOMATIC 変数は PROCEDURE の中で宣言されていなければならないが、PROCEDURE の外部で宣言される DEFINED 変数は STATIC 上で定義されていないければならない。

IBM1864I S The function name built-in is not supported.

説明: 示されている組み込み関数に対するサポートは中止された。
IBM1865I S The only BASED variables supported in
data-directed i/o are those that have
constant extents and that are implicitly
qualified by simple variables.

説明: BASED 変数を暗黙に修飾する変数は、配列、構造体、または共用体の一部ではないスカラーでなければ
ならず、AUTOMATIC または STATIC ストレージ属
性的いずれかを持つ POINTER なければならない。

IBM1866I S The keyword statement is not supported.

説明: 示されているステートメントに対するサポートは
中止された。

IBM1867I S The pseudovariable variable name is not
supported.

説明: 示されている疑似変数に対するサポートは
中止された。

IBM1868I S Invalid use of iSUB.

説明: iSUB 参照は DEFINED 文節内で許される。

IBM1869I S ALLOCATE with attribute lists is not
supported.

説明: 例えば、下記はどちらもサポートされていない。

    allocate x(5);
    allocate y char(10);

IBM1870I S ON statement cannot specify both
SYSTEM and an ON-unit.

説明: ON ステートメントで SYSTEM 処置が指定され
ている場合は、同時に ON ユニットも指定することは
できない。

    on error system stop;

IBM1871I S The reference in the condition-name
condition must have type CONDITION.

説明: CONDITION(x) の x が、CONDITION 型を持た
ない変数を参照している。

IBM1872I S The reference in the condition-name
condition must have type FILE.

説明: 示されている FILE 条件内の参照の型が FILE
ではない。

IBM1873I S Nesting of DO statements exceeds the
maximum.

説明: DO ステートメントの最大ネスト深度は 50 であ
る。プログラムを単純化する必要がある。

IBM1874I S Nesting of IF statements exceeds the
maximum.

説明: IF ステートメントの最大ネスト深度は 50 であ
る。プログラムを単純化する必要がある。

IBM1875I S Nesting of SELECT statements exceeds
the maximum.

説明: SELECT ステートメントの最大ネスト深度は 50 であ
る。プログラムを単純化する必要がある。

IBM1876I S Nesting of blocks exceeds the maximum.

説明: ブロックの最大ネスト深度は 30 である。

IBM1878I S The reference in the EVENT clause must
have type EVENT.

説明: 他の型の参照は無効である。

IBM1879I S The reference in the TASK clause must
have type TASK.

説明: 他の型の参照は無効である。

IBM1880I S Reference must have FILE type.

説明: ファイル変数または定数が必要である。

    dcl x format variable;
    open file(x);

IBM1881I S The reference reference name is
ambiguous.

説明: 参照を固有なものにするには十分な修飾を与えな
ければならない。
IBM1882I S The ALLOCATE reference variable-name is not a level-1 BASED or CONTROLLED variable.

説明: ALLOCATE ステートメントの中の参照はレベル 1 の変数名でなければならず、これらの変数は BASED または CONTROLLED 属性を持っていないならばならない。

IBM1883I S The ALLOCATE reference variable-name is not implicitly qualified and is invalid without a SET clause.

説明: ALLOCATE ステートメント内で SET 文節を指定する必要がある。

```plaintext
dcl a based;
allocate a;
```

IBM1884I S The reference variable-name in the GENERIC attribute list is not a scalar ENTRY reference.

説明: 他の型の参照は無効である。

```plaintext
dcl 1 a based, 2 b, 3 c pointer, 3 d char(10), 2 e( n refer(c)) char(10);
```

IBM1885I S IN option reference must have AREA type.

説明: 他の型の参照は無効である。

```plaintext
dcl 1 a based, 2 b(8), 3 c fixed bin, 3 d char(10), 2 e( n refer(c)) char(10);
```

IBM1886I S The REFER object reference name is ambiguous.

説明: 名前を固定するために、十分な修飾を与える必要がある。

```plaintext
dcl 1 a based, 2 b1, 3 c bit(8) aligned, 3 d char(10), 2 b2, 3 c bit(8) aligned, 3 d char(10), 2 e( n refer(c)) char(10);
```

IBM1887I S The REFER object reference name must be an element of the same structure where it is used, and must precede its first usage in that structure.

説明: 示されている REFER オブジェクトは、別の構造内で宣言することはできず、また、最初の使用の後は同じ構造内でも宣言できない。

```plaintext
dcl 1 a based, 2 b, 3 c pointer, 3 d char(10), 2 e( n refer(c)) char(10);
```

IBM1888I S The REFER object reference name must have computational type.

説明: REFER オブジェクトを REAL FIXED BIN(31,0) に、またその逆に、安全に変換できることが必要である。

```plaintext
dcl 1 a based, 2 b, 3 c pointer, 3 d char(10), 2 e( n refer(c)) char(10);
```

IBM1889I S The REFER object reference name must be a scalar.

説明: REFER オブジェクトは、自身の宣言の中にも、その先にも次元を持つことはできない。

```plaintext
dcl 1 a based, 2 b, 3 c pointer, 3 d char(10), 2 e( n refer(c)) char(10);
```

IBM1890I S The REFER object reference name must precede the first level-2 element containing a REFER.

説明: 宣言中のエレメントの順序を変更して、すべての REFER オブジェクトが、REFER を含む最初のレベル 2 のエレメントより前にくるようにする必要がある。

```plaintext
dcl 1 a based, 2 b, 3 c char( n refer(b) ), 2 d fixed bin, 2 e char( n refer(d) );
```

IBM1891I S REFER is not allowed on non-BASED variables.

説明: REFER は BASED 変数の宣言の中でのみ使用できる。

```plaintext
dcl 1 a based, 2 b, 3 c char( n refer(b) ), 2 d fixed bin, 2 e char( n refer(d) );
```
<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM1892I S</th>
<th>The REFER object reference name must have constant length.</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>설명: REFER 오브젝트가 스토리지 있는 경우는, 고정된 길이를 가져야 한다.</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM1893I S</th>
<th>REFER is allowed only on members of structures and unions.</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>설명: REFER는 구조나 합유의 멤버들만 사용할 수 있다.</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM1894I S</th>
<th>FREE references must not be subscripted.</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>설명: FREE 참조는 인덱스를 써서 사용할 수 없다.</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM1895I S</th>
<th>Operations involving OPTIONS( language-name ) routines are not supported if the DIRECTED option applies.</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>설명: DIRECTED(ASM) 옵션을 사용하는 경우는, OPTIONS(ASM)을 사용하는 ENTRY에서는 지원되지 않는다.</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM1896I S</th>
<th>OPTIONS( language-name ) is not supported for ENTRY VARIABLES if the DIRECTED option applies.</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>설명: DIRECTED(ASM) 옵션을 사용하는 경우는, OPTIONS(ASM)을 사용하는 ENTRY VARIABLES는 지원되지 않는다.</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM1897I S</th>
<th>Simple defining is supported only for scalars, for structures with constant extents matching those in the base variable, and for arrays of such scalars and structures as long as the array is not based on a controlled variable.</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>설명: 단순 정의를 사용할 수 있는 경우는, POSITION(1)를 사용하여 지정한 정량의 스토리지 정의를 할 수 있다.</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM1898I S</th>
<th>The base reference in the DEFINED attribute cannot be a built-in or type function.</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>설명: base 참조의 정의는 빌트인 또는 타입 기능을 포함할 수 없다.</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM1899I S</th>
<th>The base variable in the DEFINED attribute cannot be BASED, DEFINED or CONSTANT.</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>설명: DEFINED의 base 변수는 BASED, DEFINED, CONSTANT로 할 수 없다.</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM1900I S</th>
<th>Extents for DEFINED bit structures must be constant.</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>설명: DEFINED의 비트구조의 영역은 고정되어야 한다.</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM1901I S</th>
<th>POSITION attribute is invalid without the DEFINED attribute.</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>설명: DEFINED의 없으면 POSITION은 유효하지 않다.</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM1902I S</th>
<th>The expression in the POSITION attribute must have computational type.</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>설명: POSITION의 표현식은 계산형으로 표현되어야 한다.</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM1903I S</th>
<th>The expression in the POSITION attribute for bit string-overlay defining must be an integer constant.</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>설명: POSITION의 표현식은 비트 문자열 오버레이 정의는 정수 상수로 해야 한다.</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM1904I S</th>
<th>Variable following the free clause clause must be level-1 and either BASED or CONTROLLED.</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>설명: FREE 클AUSE의 직후에는 레벨-1이어야 하며 BASED나 CONTROLLED 중 하나여야 한다.</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM1905I S</th>
<th>IN or SET option option invalid after the CONTROLLED variable in the ALLOCATE or FREE clause clause.</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>설명: CONTROLLED의 변수 뒤에는 ALLOCATE나 FREE의 클AUSE가 유효하지 않는다.</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
IBM1906I S The reference qualifying an OFFSET attribute must be a scalar AREA reference。
説明：示されている AREA 参照を使用して OFFSET 変数を修飾するのは無効である。参照はスカラーでなければならない。次の例のような場合はこのメッセージが出される。

dcl a(10) area;
dcl o offset(a);

IBM1907I S Extents for CONTROLLED variables cannot be specified using asterisks or REFER。
説明：制御変数について指定されているエクステントが無効である。次の例のような場合はこのメッセージが出される。

dcl c(*) char(10) controlled;

IBM1908I S Extents for attribute variables cannot be specified using asterisks or REFER。
説明：AUTOMATIC 変数および DEFINED 変数のエクステントは、式により指定しなければならない。

IBM1909I S The attribute attribute conflicts with the attribute attribute。
説明：示されている属性（例えば PARAMETER および INITIAL）は、同時に指定できない。

IBM1910I S The attributes given in the declaration for identifier conflict with its use as a parameter。
説明：パラメーターは CONTROLLED 以外のストレージ属性を持つことはできない。また、パラメーターは、BUILTIN、CONDITION、CONSTANT、EXTERNAL、および GENERIC のいずれの属性も持つことはできない。

IBM1911I S Repeated specifications of the unsubscripted statement label character are in error。
説明：ブロック内ではすべてのステートメント・ラベルは、固有のものでなければならない。

IBM1912I S Indices specified for the LABEL character have already been specified。
説明：ブロック内ではすべてのステートメント・ラベルは、固有のものでなければならない。

IBM1913I S ON-units may not be labeled. All such labels will be ignored。
説明：ON 文節に関連した BEGIN ブロックまたはステートメントは、ラベルを持つことはできない。

IBM1914I S GOTO target must be a LABEL reference。
説明：GOTO x の x は LABEL 型でなければならない。x の型は FORMAT であってはならない。

IBM1915I S GOTO target must be a scalar。
説明：GOTO x の x は配列であってはならない。

IBM1916I S The procedure/entry proc-name has already been defined。
説明：姉妹プローシャーは、同じ名前を持つことはできない。

IBM1917I S Program contains no valid source lines。
説明：ソースにまったくステートメントが含まれていないうち、または含まれているステートメントがすべて無効である。

IBM1918I S All the names in the ORDINAL ordinal-name have been previously declared。
説明：ORDINAL 内のどの名前も別のところで宣言されてはならない。既に宣言されている場合は、ORDINAL 定義が誤って反復されたものと考えられる。
IBM1919I S The EXTERNAL name string is specified for the differing internal names name and name.

説明：各 EXTERNAL 名はそれぞれ INTERNAL 名を 1 つだけ持っているべきではない。したがって、例えば次の宣言は、2 つの異なる内部名 X および Y について外部名 Z を指定しているので、無効である。

```
dcl X fixed bin(31) ext('Z');
dcl Y fixed bin(31) ext('Z');
```

IBM1920I S FIXED BINARY constant contains too many digits.

説明：FIXED BINARY 定数の最大精度は、LIMITS コンバイラー・オプションの FIXEDBIN サブオプションで設定する。

```
dcl x fixed bin(15);
x = 172900;
```

IBM1921I S FIXED DECIMAL constant contains too many significant digits.

説明：FIXED DECIMAL 定数の最大精度は、LIMITS コンバイラー・オプションの FIXEDDEC サブオプションで設定する。

IBM1922I S Exponent in FLOAT BINARY constant contains more digits than the implementation maximum.

説明：FLOAT BINARY 定数の指数に 5 桁を超える値を含めることはできない。

IBM1923I S Mantissa in FLOAT BINARY constant contains more significant digits than the implementation maximum.

説明：FLOAT BINARY 定数の仮数に 64 桁を超える値を含めることはできない。

IBM1924I S Exponent in FLOAT DECIMAL constant contains more digits than the implementation maximum.

説明：FLOAT DECIMAL 定数の指数に 4 桁を超える値を含めることはできない。

IBM1925I S Mantissa in FLOAT DECIMAL constant contains more significant digits than the implementation maximum.

説明：FLOAT DECIMAL 定数の小数部に、プラットフォームで許可されている桁の最大数を超える値を含めることはできない。

IBM1926I S Constants must not exceed 8192 bytes.

説明：プログラム内で定数を表すために使用するバイト数は、8192 を超えてはならない。この制限は、内部表記が外部表記の 8 分の 1 のバイト数しか消費しないビット・ストリングにも適用される。

IBM1927I S SIZE condition raised by attempt to convert source-value to target-attributes

説明：ソース値がターゲットのドメイン内にない。

```
dcl x fixed bin(31);
```

IBM1928I S ERROR raised while building CEEUOPT from PLIXOPT.

説明：コンバイラーが PLIXOPT から CEEUOPT を作成する際に、ERROR 条件が発生した。コンバイラーによって使用されている LE API にエラーが生じた可能性がある。IBM サービスに連絡してください。

IBM1929I S Unable to open file file-name in routine proc-name (line-number).

説明：コンバイラーは、コード生成モジュールとの通信に使用する、示されている一時ファイルをオープンできなかった。TMP 環境変数の値を検査する必要がある。

IBM1930I S Unable to write to file file-name. Disk may be full.

説明：コンバイラーは、コード生成モジュールとの通信に使用する一時ファイルに書き込むことができなかった。TMP 環境変数が指しているディスクがいっぱいになっている可能性がある。

IBM1932I S Unable to close file file-name in routine proc-name (line-number).

説明：コンバイラーは、コード生成モジュールとの通信に使用する一時ファイルをクローズできなかった。TMP 環境変数の値を検査する必要がある。
IBM1933I S Unable to open temporary files because the path and filename are too long.
説明: TMP 変数が指定ソース・ファイルまたはディレクトリの名前を短くする必要がある。

IBM1934I S If a parameter is a structure with nonconstant extents, only matching structures are supported as arguments.
説明: 構造体を一時変数に割り当ててその一時変数を渡すか、エントリー宣言内のパラメーター記述を省略する。

IBM1935I S Structure expressions as arguments are not supported for undescribed parameters.
説明: 構造体を一時変数に割り当ててその一時変数を渡すか、エントリー宣言内でパラメーターを記述する。

IBM1936I S Invocation of compiler backend ended abnormally.
説明: コンパイラのバックエンドが見つからなかったか、回復不能のエラーを検出した。後者の問題は、Intel の場合はディスクのフリー・スペース不足、 zSeries の場合はジョブの領域サイズ不足が原因で生じることがある。そうでない場合は、IBM に問題を報告してください。

IBM1937I S Extents for parameters must be asterisks or restricted expressions with computational type.
説明: パラメーターについては、各配列境界、ストリング長、および AREA サイズは、アスタリスクで指定するか、または計算型の制限付きで指定しなければならない。

IBM1938I S Message file file name not found.
説明: メッセージは、現在ディレクトリの中、または、DPATH 環境変数が指定ディレクトリのどれかの中になければならない。

IBM1939I S Exponentiation operands must have computational type.
説明: 指数のオペランドは数値型またはストリング型でなければならない。

IBM1940I S note
説明: このメッセージは、%NOTE ステートメントで戻りコード 12 と共に使用される。

IBM1941I U note
説明: このメッセージは、%NOTE ステートメントで戻りコード 16 と共に使用される。

IBM1942I S The scale factor specified in BUILTIN name built-in must be a restricted expression with integer type.
説明: これは、すべての精度処理組込み関数に適用される。

IBM1943I S The number of error messages allowed by the FLAG option has been exceeded.
説明: メッセージ数が FLAG コンパイラー・オプションで設定されている制限を超過すると、コンパイルは終了する。

IBM1944I S The precision specified in BUILTIN name built-in must be a restricted expression with integer type.
説明: これは、すべての精度処理組込み関数に適用される。

IBM1945I S Extents for BASED variable may not contain asterisks.
説明: BASED 変数内のエクステントは、定数か、または、REFER オプションで指定されているものでなければならない。

IBM1946I S Reference must be an AREA variable.
説明: 指定された参照は無効である。 AREA 変数が必要である。

IBM1947I S The reference to the GENERIC variable GENERIC variable name cannot be resolved.
説明: GENERIC 参照の中の引数リストは、その GENERIC の WHEN 文節のどれかの中の総称記述子に一致していなければならない。 OTHERWISE 文節が指定されている場合は、引数リストのエレメント数は、OTHERWISE エントリー参照と同じでなければならない。
IBM1948I[layer 1] S  condition-name condition with ONCODE= oncode-value raised while evaluating restricted expression.

説明: 制限付き式のコンパイル時評価により条件が発生した。

```pli
display( 1/0 );
```

IBM1949I S Parameter name identifier appears more than once in parameter list.

説明: パラメーター・リスト内の ID はどれも固有のものでなければならない。

```pli
a: proc( b, c, b );
```

IBM1951I S STORAGE class variables must be named.

説明: CONTROLL ED 属性を持つ変数は名前が付いていなければならず、EXTERNAL 属性を持つ変数は、その EXTERNAL 属性自体により名前が与えられる場合以外は、名前の代わりに * をとることはできない。

```pli
dcl e event;
dcl p pointer;
wait (e) (p);
```

IBM1952I S INITIAL CALL cannot be used to initialize STATIC data.

説明: INITIAL CALL は実行時に評価されなければならない。これを使用して初期化できるのは STATIC以外のデータだけである。

```pli
dcl e entry;
wait (e);
```

IBM1953I S The attributes of the EXTERNAL variable variable name do not match those in its previous declaration.

説明: EXTERNAL 変数は 1 つのコンパイル単位内の複数のプロシージャーの中で宣言できるが、それらの宣言間で属性が一致していなければならない。

IBM1954I S The base reference in the DEFINED attribute must be CONNECTED.

説明: 変数は NONCONNECTED 参照上の DEFINEDであってはならない。

IBM1955I S Repeated declarations of the EXTERNAL attribute variable name are not supported.

説明: EXTERNAL FILE 定数および CONDITION は、1 つのコンパイル単位の中で 1 回だけ宣言できる。最外部の 1 つを除くすべての宣言を削除する。

IBM1956I S ITERATE is valid only for iterative DO-groups.

説明: ITERATE は型 1 の DO グループの中では使用できない。

IBM1957I S The WAIT event number specification must be computational.

説明: WAIT ステートメント内で待機項目数を表す式を使用するのは無効である。式は計算型のものでなければならない。次の例のような場合はこのメッセージが出される。

```pli
dcl e event;
dcl p pointer:
wait (e) (p);
```

IBM1958I S References in the WAIT statement must be of type EVENT.

説明: WAIT ステートメント内のイベント参照が無効である。これは EVENT 型のものでなければならない。次の例のような場合はこのメッセージが出される。

```pli
dcl e entry;
wait (e);
```

IBM1959I S Invalid aggregate expression specified in WAIT statement.

説明: WAIT ステートメント内の参照にはスカラーを使用できる。有効な集合参照は、イベントの単純配列だけである。構造体、共用体、および、構造体または共用体の配列には、エラーとしてフラグが立てられる。

IBM1960I S type type type name is not defined.

説明: 宣言の中で ORDINAL x を使用する場合、x は定義済みの ORDINAL 型でなければならない。

IBM1961I S INITIAL values for type type type name must be in increasing order.

説明: ORDINAL 定義内の INITIAL 文節に指定されている値は、厳密に昇順になっているなければならない。

IBM1962I S INITIAL values for type type type name must be less than 2G.

説明: ORDINAL 値は、FIXED BIN(31) 変数の範囲内に収まっていなければならない。
IBM1963I S BUILTIN name argument must have ORDINAL type.

説明: ORDINAL ではない引数を伴う組み込み関数が式に含まれている。このメッセージは、例えば、ORDINALNAME、ORDINALPRED、および ORDINALSUCC 組み込み関数に適用される。

IBM1964I S The attributes derived from the PROCEDURE statement for the ENTRY constant variable name do not match those in its explicit declaration.

説明: PROCEDURE ステートメントのラベルは、その名前が付いた ENTRY 定数の宣言を構成する要素の 1つとなる。この名前は DECLARE 宣言にも現れているが、この 2つの宣言の間で属性が一致しない。

IBM1965I S There is more than one element named reference name in the class structure name.

説明: 参照はすべてあいまいでないのでなければならな

IBM1966I S There is no element named reference name in the class structure name.

説明: HANDLE 修飾参照は明示宣言されていなければならない。

IBM1967I S The ENTRY variable-name may not be used as a handle since it does not have the RETURNS attribute.

説明: 関数は、ハンドルとして（そしてハンドルを戻す場合のみ）使用できるが、サブプロシージャーはハンドルとしては使用できない。

IBM1968I S The ENTRY variable-name may not be used as a handle.

説明: x(...)=y は、x が HANDLE を戻す場合以外は無効である。

IBM1969I S The variable variable-name is used as a handle, but it is not a scalar.

説明: ハンドルとして使用できるのはスカラーだけである。
IBM1985I S  File filename could not be opened.
C-library-message
説明:  正しいファイル名が指定されていない。
ファイルが存在し、正しい属性を持っていたり、それにアクセスするために必要な許可があることを確認する必要がある。付随する C ライブラリ・メッセージを参照すれば、問題の特定に役立つ可能性がある。

IBM1986I S  A system or user abend has occurred.
説明:  このエラーが発生するのは、例えば、MDECK を SYSPUNCH データ・セットに書き込んだが、そのデータ・セットが小さすぎる場合、または、他のコンパイラ出力データ・セットの 1 つに書き込んだが、そのデータ・セットが小さすぎる場合である。JES ログを調べると有用と思われる。

IBM1987I S  File filename could not be opened because too many files have been opened.
説明:  オープン・ファイルの最大数に達した。プラットフォームによっては、オープン・ファイルの数にシステムの限界があるが、コンパイラに 2047 個のインクルード・ファイルという限界がある。

IBM1988I S  File filename could not be opened due to an access violation.
説明:  ファイルが使用中か、または、必要な権限を持っていないファイルをオープンしようとした。

IBM1989I S  File name or extension for filename is too long.
説明:  ファイル名または拡張子の長さが上限を超えている。

IBM1990I S  File name filename has invalid format.
説明:  z/OS UNIX の場合を除き、ファイル名に引用符を含めてはならない。z/OS UNIX では、ファイル名に引用符が含まれている場合、そのファイル名を PDS メンバーを指定する。

IBM1991I S  The load of the SQL preprocessor failed with ONCODE= oncode. DB2/2 must be properly installed before the SQL preprocessor can be loaded.
説明:  コンパイラは、SQL プリプロセッサをロードしようとしたができなかった。DB2/2 が正しくインストールしていないことを確認する必要がある。

IBM1992I S  A file name must be specified.
説明:  コマンド構文は次のとおりである。

PLI {d:}{path}filename{.ext} {{ options}

IBM1993I S  Compilation terminated by ATTENTION condition.
説明:  コンパイル中に CTL-BRK を押すと、コンパイルは停止する。

IBM1994I S  Internal compiler error: storage header has been overwritten.
説明:  このメッセージは、コンパイラのフロントエンドにエラーがあることを示している。IBM に問題を報告してください。

IBM1995I S  Internal compiler error: storage tail has been overwritten.
説明:  このメッセージは、コンパイラのフロントエンドにエラーがあることを示している。IBM に問題を報告してください。

IBM1996I S  Internal compiler error: free amount free request size does not match allocated size allocated size.
説明:  このメッセージは、コンパイラのフロントエンドにエラーがあることを示している。IBM に問題を報告してください。

IBM1997I S  Internal compiler error: no WHEN clause satisfied within module name.
説明:  このメッセージは、コンパイラのフロントエンドにエラーがあることを示している。IBM に問題を報告してください。

IBM1998I S  Internal compiler error: protection exception in module name.
説明:  このメッセージは、コンパイラのフロントエンドにエラーがあることを示している。IBM に問題を報告してください。
IBM1999I S note
説明: このメッセージは、コンパイラのバックエンドにエラーがあることを示している。IBMに問題を報告してください。

IBM2001I S A LICENSE REQUEST WAS DENIED FOR PL/I, PID 5655-B22. THE REQUEST ENDED WITH STATUS CODE STATUS CODE AND RETURN CODE RETURN CODE. THE COMPILATION WILL BE TERMINATED.
説明: システムに IBM ライセンス・マネージャーがインストールされているが、PL/Iコンパイラの使用ライセンスをユーザーが所有しているかどうかの検査要求が失敗した。

IBM2002I S Close of file filename failed. There may be a space problem.
説明: ファイルを開じようとしたときにエラーが起きた。

IBM2003I S Write to file filename failed. There may be a space problem.
説明: ファイルに書き込むときにエラーが起きた。

IBM2004I S ATTACH reference must be declared with either a null argument list or with an argument list specifying only one argument.
説明: ATTACH 参照を引数リストなしで宣言してある場合は、宣言を変更して、ヌル引数リストを表す一対の括弧を追加する必要がある。

IBM2005I S ATTACH reference must be an ENTRY reference.
説明: GENERIC 参照および組み込みサブルーチンは付加できない。

IBM2006I S ATTACH reference cannot be a function reference.
説明: ATTACH 参照は、戻される値が ENTRY である場合でも、RETURNS 属性を持っていてはならない。

IBM2007I S ATTACH reference must use LINKAGE(SYSTEM).
説明: デフォルトのリンクージがオーバーライドされた場合を除き、ATTACH参照の宣言ではOPTIONS(LINKAGE(SYSTEM))を指定しなければならない。

IBM2008I S ATTACH reference cannot be FETCHABLE.
説明: FETCHステートメントまたはRELEASEステートメント内ではATTACH参照は使用できない。

IBM2009I S ATTACH reference cannot be a nested procedure.
説明: ATTACH参照は、外部参照であることが必要となるが、レベル1のプロシージャーでなければならない。

IBM2010I S ATTACH reference, if an ENTRY variable, must be a LIMITED ENTRY.
説明: ENTRY VARIABLEの宣言内でLIMITED属性を指定する必要がある。

IBM2011I S ATTACH reference, if it has an argument, must declare that argument as POINTER BYVALUE.
説明: ATTACHステートメントでは他の引数型はサポートされていない。

IBM2012I S The attribute keyword attribute is invalid in an ALIAS descriptor.
説明: RETURNS記述子と同様に、STRUCTURE、UNION、およびDIMENSION属性は使用できない。したがって次の例は無効である。

IBM2013I S Only one description is allowed in an ALIAS definition.
説明: 構文では、別名定義の名前の後に記述リストを続けることが許されているが、その記述リストはただ1つの記述のみからなるものでなければならない。次の例は無効である。
define alias x fixed bin, float bin;

IBM2014I S Extents in type descriptors must be constant.

IBM2015I S VALUE attribute conflicts with data type.

IBM2016I S The VALUE attribute is not allowed with typed structures.

IBM2017I S INITIAL TO is valid only for NATIVE POINTER.

IBM2018I S INITIAL TO is supported only for STATIC variables.

IBM2019I S Unsupported LINKAGE used with the LIST attribute.

IBM2020I S There is more than one element named reference name in the structure structure name.

IBM2021I S There is no element named reference name in the typed structure structure name.

IBM2022I S The ENTRY variable-name may not be used as a typed structure qualifier since it does not have the RETURNS attribute.

IBM2023I S The ENTRY variable-name may not be used as a typed structure qualifier.

IBM2024I S The array variable variable-name may be used as a typed structure qualifier only if it is completely subscripted before its dot qualification.

IBM2025I S BUILTIN name built-in may not be used as a typed structure qualifier.

IBM2026I S The GENERIC variable variable-name may not be used as a typed structure qualifier.

IBM2027I S variable-name may not be used as a structure qualifier.

IBM2028I S TYPEs must be defined before their use.
IBM2029I S DEFINE STRUCTURE must specify a structure or union type.
説明: DEFINE STRUCTURE ステートメントでは、レベル番号付きの構造体または共用体型を指定しなければならない。

define structure int fixed bin;

IBM2030I S INITIAL attribute is invalid in structure definitions.
説明: 定義済みの構造体は、割り当てを介して初期化されなければならない。

IBM2031I S Storage attributes are invalid in structure definition.
説明: AUTOMATIC や BYADDR などのストレージ属性は、構造体型と共に宣言された変数により指定されなければならない。

IBM2032I S DEFINE STRUCTURE may not specify an array of structures.
説明: 構造体定義内のレベル 1 の名前は DIMENSION 属性を持つことはできない。

IBM2033I S Only one description is allowed in a structure definition.
説明: 構文では、構造体定義の中の名前の後に記述リストを続けることが許されているが、その記述リストはただ 1 つの構造体記述のみからなるものでなければならな。次の例は無効である。

define structure
  1 point
  2 x fixed bin(31),
  2 y fixed bin(31),

IBM2034I S The argument to the type function type function must be an ordinal type name.
説明: 型関数 FIRST および LAST への引数は型名で、その型はシーケンスタイプでなければならない。

IBM2035I S The argument to the type function type function must be a structure type name.
説明: 型関数 NEW への引数は型名で、その型は構造体型でなければならない。

IBM2036I S The second argument to the type function type function must have locator type.
説明: BIND 型関数への第 2 引数は、第 1 引数に指定されている構造体型へのハンドルに変換されるポインタまたはオフセット値でなければならない。

IBM2037I S The first argument to the type function type function must be a structure type name.
説明: 型関数 BIND への最初の引数は型名で、その型は構造体型でなければならない。

IBM2038I S BUILTIN name argument must have HANDLE type.
説明: HANDLE ではない引数を伴う組み込み関数が式に含まれている。

IBM2039I S Argument to variable name pseudovariable must be a HANDLE.
説明: TYPE 疑似変数は HANDLE に対してのみ適用できる。

IBM2040I S The argument to the type function type function must be a defined type.
説明: 型関数 SIZE への最初の引数は、定義される型の名称でなければならない。

IBM2041I S The first argument to the type function type function must be a defined type.
説明: 型関数 CAST への最初の引数は、定義される型の名称でなければならない。

第 7 章 コンバイラー重複メッセージ (1500 から 2399)
IBM2042I S The second argument to the type function must be a scalar.

説明: 型変換 CAST への 2 番目の引数はスカラーでなければならな

IBM2043I S The second argument to the type function must have the same size as the first argument.

説明: 型変換 CAST への 2 番目の引数のサイズは、最初の引数である型のサイズと同じでなければならな

IBM2044I S The get storage function to BUILTIN name must be a LIMITED ENTRY with LINKAGE(OPTLINK) and an appropriate entry description list.

説明: この関数は次のように宣言する必要がある。

```
dcl get entry( pointer byvalue, 
    fixed bin(31) byaddr, 
    fixed bin(31) byaddr ) 
returns( pointer );
```

IBM2045I S The free storage function to BUILTIN name must be a LIMITED ENTRY with LINKAGE(OPTLINK) and an appropriate entry description list.

説明: この関数は次のように宣言する必要がある。

```
dcl free entry( pointer byvalue, 
    pointer byvalue, 
    fixed bin(31) byvalue );
```

IBM2046I S OPTIONS(NODESCRIPTOR) is required if the last parameter to an ENTRY or PROC has the LIST attribute.

説明: エントリーまたはプロシージャーが (C のよう に) 可変数の引数を持つ場合、つまり、その最終パラメータに LIST 属性がある場合は、
OPTIONS(NODESCRIPTOR) が指定されている (かつ有効である) ことが必要である。

IBM2047I S The VARGLIST built-in function may be used only inside procedures whose last parameter had the LIST attribute.

説明: VARGLIST 組み込み関数は、最後のパラメータが LIST 属性を持っているプロシージャーに渡された可変引数リストのアドレスを取得する。この種のルーチンのサブプロシージャーの中、または、まったくパラメ

IBM2048I S The LIST attribute may be specified only on non-nested procedures, external entry constants, and limited entry variables.

説明: LIST 属性を使用すると可変引数リストが作成されるが、ネストされたプロシージャー、または
LIMITED 属性なしで宣言されたエントリー変数では、
この種の引数リストは使用できない。

IBM2049I S The LIST attribute may be specified only on the last element of an entry description list.

説明: LIST 属性は、そのあとに 0 個以上のパラメー ターを指定できることを示しているが、これらのパラメータは記述できない。

IBM2050I S Descriptors are supported for Fortran only for scalar character strings.

説明: OPTIONS( FORTRAN DESCRIPTOR ) が適用さ れる場合は、文字ストリングを除くすべてのパラメータ は、固定エクステントを持っていないければならない。

IBM2051I S Descriptors are not supported for Fortran for routines defined by or containing ENTRY statements.

説明: ENTRY ステートメントまたは ENTRY ステー トメントを含むプロシージャーに OPTIONS( FORTRAN DESCRIPTOR ) が適用される場合は、すべてのパラメータが固定エクステントを持っていなければならない。

IBM2052I S A function defined by a PROCEDURE containing ENTRY statements must return aggregate values BYADDR.

説明: PROCEDURE ステートメントの RETURNS オプ ションで BYADDR が指定されているか、DEFAULT ス テートメントの RETURNS(BYADDR) サブオプション が有効な状態になっていなければならな

IBM2053I S A function defined by an ENTRY statement must return aggregate values BYADDR.

説明: ENTRY ステートメントの RETURNS オプショ ンで BYADDR が指定されているか、DEFAULT ステー
IBM2054I S A PROCEDURE containing ENTRY statements must receive all non-pointer parameters BYADDR.

説明: パラメーターの宣言の中で BYADDR が指定されているか、DEFAULT ステートメントの BYADDR サブオプションが有効な状態になっていなければならない。

IBM2055I S An ENTRY statement must receive all parameters BYADDR.

説明: パラメーターの宣言の中で BYADDR が指定されているか、DEFAULT ステートメントの BYADDR サブオプションが有効な状態になっていなければならない。

IBM2056I S ENTRY statement is not allowed in DO loops.

説明: ENTRY ステートメントは、非反復 DO グループ内では使用できるが、反復 DO ループ内では使用できない。

IBM2057I S RETURN statement is invalid inside a BEGIN in a PROCEDURE that contains ENTRY statements.

説明: RETURN ステートメントが BEGIN ブロック内で有効なのは、その BEGIN ブロックを囲むPROCEDURE に ENTRY ステートメントが含まれている場合のみである。

IBM2058I S In a PROCEDURE without the RETURNS option, any ENTRY statement must use BYADDR for its RETURNS value.

説明: ENTRY ステートメントの RETURNS オプションで BYADDR が指定されているか、DEFAULT ステートメントの RETURNS(BYADDR) サブオプションが有効になっていなければならない。

IBM2059I S OPTIONS(FORTRAN) is invalid if any parameters are UNALIGNED BIT.

説明: OPTIONS(FORTRAN) の場合、固定長の ALIGNED BIT ストリングのみが有効である。

IBM2060I S OPTIONS(FORTRAN) is invalid if any parameters are UNALIGNED BIT.

説明: OPTIONS(FORTRAN) の場合、固定長の ALIGNED BIT ストリングのみが有効である。

IBM2061I S Attributes may not be specified in ALLOCATEs of BASED variables.

説明: 属性は、CONTROLLED 変数のALLOCATE の中でのみ指定できる。

IBM2061I S Attributes specified for variable-name in ALLOCATE statement do not match those in its declaration.

説明: CHARACTER などの属性をALLOCATE ステートメント内で指定できるのは、割り振られる変数の宣言の中でもその属性が指定されている場合に限られる。

IBM2062I S Structuring specified in ALLOCATE of variable-name does not match that in its declaration.

説明: 構造体に関するALLOCATE ステートメントでは、宣言の中で指定されているすべてのレベルを指定しなければならず、新しいレベルは指定できない。

IBM2063I S Specification of extent for variable-name in ALLOCATE statement is invalid since it was declared with a constant extent.

説明: CHARACTER などの属性をALLOCATE ステートメント内で指定できるのは、アスタリスクまたは非定数式により割り振られる変数の宣言の中でもその属性が指定されている場合に限られる。

IBM2064I S The extent specified for the lower bound for dimension dimension-value of variable-name in ALLOCATE statement is invalid since that variable was declared with a different constant extent.

説明: CONTROLLED 変数の境界が定数として宣言されている場合は、その変数に関するどのALLOCATE ステートメントでも同じ定数値としてその境界を指定しなければならない。

IBM2065I S The extent specified for the upper bound for dimension dimension-value of variable-name in ALLOCATE statement is invalid since that variable was declared with a different constant extent.

説明: CONTROLLED 変数の境界が定数として宣言されている場合は、その変数に関するどのALLOCATE ステートメントでも同じ定数値としてその境界を指定しなければならない。
IBM2075I S ENTRY types and arguments in type function must be LIMITED.
説明: 型間数 CAST と組み合わせて使用される ENTRY 型または引数には、属性 LIMITED を指定する必要がある。

IBM2076I S FLOAT types and arguments in type function must be NATIVE REAL.
説明: 型間数 CAST と組み合わせて使用される FLOAT 型または引数には、属性 NATIVE REAL を指定する必要がある。

IBM2077I S FIXED BIN types and arguments in type function must be REAL with scale factor zero.
説明: 型間数 CAST と組み合わせて使用される FIXED BIN 型または引数には、属性 REAL PRECISION(p,0) を指定する必要がある。

IBM2078I S Types with the attributes attributes are not supported as the target of the type function function.
説明: 型間数 CAST への最初の引数は、属性 REAL FIXED BIN(p,0) または NATIVE REAL FLOAT のどちらかを指定した型でなければならない。

IBM2079I S Arguments with the attributes attributes are not supported as the source in the type function function.
説明: 型間数 CAST への 2 番目の引数には、属性 REAL FIXED BIN(p,0) または NATIVE REAL FLOAT のどちらかを指定する必要がある。

IBM2080I S DATE pattern is invalid.
説明: サポートされる DATE パターンのリストについては、「言語解説書」を参照のこと。

IBM2081I S DATE attribute conflicts with non-zero scale factor.
説明: DATE 属性を数値に対して使用できるのは、数値のスケール因子が 0 の場合だけである。

IBM2082I S DATE attribute conflicts with COMPLEX attribute.
説明: DATE 属性を数値に対して使用できるのは、数値が REAL の場合だけである。

IBM2083I S DATE attribute conflicts with PICTURE string containing characters other than 9.
説明: DATE 属性を PICTURE に対して使用できるのは、PICTURE がすべて 9 で構成されている場合だけである。

IBM2084I S Length of DATE pattern and base precision do not match.
説明: DATE 属性を数値に対して使用できるのは、数値の精度が DATE パターンの長さと等しい場合だけである。

IBM2085I S Length of DATE pattern and base length do not match.
説明: DATE 属性をストリングに対して使用できるのは、ストリングの長さが DATE パターンの長さと等しい場合だけである。

IBM2086I S DATE attribute conflicts with adjustable length.
説明: DATE 属性をストリングに対して使用できるのは、ストリングが定数長を使用して宣言されている場合だけである。

IBM2087I S Response file is too large. Excess will be ignored.
説明: 応答ファイルから作成されるオプション・ストリングは、長さが 32767 文字未満でなければならない。

IBM2088I S Line in response file is longer than 100 characters. That line and rest of file will be ignored.
説明: 応答ファイル内の各行の文字数は、100 文字を超えてはならない。
IBM2090I S  The *keyword* statement cannot be used under SYSTEM(CICS).

説明: 示されているステートメントは、CICS 環境では使用できない。

IBM2091I S  DISPLAY with REPLY cannot be used under SYSTEM(CICS).

説明:  REPLY を指定した DISPLAY は、CICS 環境では使用できない。

IBM2092I S  The *BUILTIN* name built-in function cannot be used under SYSTEM(CICS).

説明:  示されている組み込み関数は、CICS 環境では使用できない。

IBM2093I S  The *keyword* statement cannot be used under SYSTEM(CICS) except with SYSPRINT.

説明:  示されている出力ステートメントは、ステートメントで使用されているファイルが SYSPRINT でない限り、CICS 環境では使用できない。

IBM2094I S  Source in CAST to FLOAT must be FLOAT, FIXED or ORDINAL.

説明:  FLOAT への CAST のソースは、 FLOAT、 FIXED、または ORDINAL でなければならな

IBM2095I S  Target in CAST from FLOAT must be FLOAT, FIXED BIN or ORDINAL.

説明:  FLOAT からの CAST のターゲットは、 FLOAT、 FIXED BIN、または ORDINAL でなければならな

IBM2096I S  Target in CAST from FIXED DEC must be FLOAT, FIXED BIN or ORDINAL.

説明:  FIXED DEC からの CAST のターゲットは、 FLOAT、 FIXED BIN、または ORDINAL でなければなら

IBM2097I S  FIXED DEC types and arguments in *type function* must be REAL with non-negative scale factor.

説明:  型関数 CAST と組み合わせて使用される FIXED DEC 型または引数には、 p >= q かつ q >= 0 の属性 REAL PRECISION(p,q) を指定する必要がある。

IBM2098I S  Source in CAST to FIXED DEC must be FLOAT, FIXED or ORDINAL.

説明:  FIXED DEC への CAST のソースは、 FLOAT、 FIXED、または ORDINAL でなければならな

IBM2099I S  CASEX strings must have the same length.

説明:  CASEX オプション内の 2 つのストリングの長さは同じでなければならない。 2 番目の引数は、最初の引数の英大文字値である。最初のストリングの文字に英大文字値がない場合は、その文字自体を英大文字値として使用する。

IBM2100I S  The ORDINAL types do not match.

説明:  このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

IBM2101I S  The HANDLE types do not match.

説明:  このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

IBM2102I S  The STRUCTURE types do not match.

説明:  このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

IBM2103I S  Alignment does not match.

説明:  このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

IBM2104I S  Number and attributes of structure members do not match.

説明:  このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

IBM2105I S  Number of dimensions do not match.

説明:  このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

IBM2106I S  Lower bounds do not match.

説明:  このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。
IBM2107I S Upper bounds do not match.

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

IBM2108I S RETURNS attributes do not match.

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

IBM2109I S BYVALUE/BYADDR attributes in RETURNS do not match.

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

IBM2110I S LINKAGE values do not match.

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

IBM2111I S OPTIONS values do not match.

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

IBM2112I S Parameter counts do not match.

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

IBM2113I S BYVALUE/BYADDR attributes in parameter parameter-number do not match.

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

IBM2114I S Number of dimensions for parameter parameter-number do not match.

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

IBM2115I S Lower bounds for parameter parameter-number do not match.

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

IBM2116I S Upper bounds for parameter parameter-number do not match.

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

IBM2117I S Alignment of parameter parameter-number does not match.

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

IBM2118I S Number and attributes of structure members in parameter parameter-number do not match.

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

IBM2119I S Attributes of parameter parameter-number do not match.

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

IBM2127I S The ENTRY named ENTRY variable name matches the reference to the GENERIC variable GENERIC variable name, but while the GENERIC reference is used as a function, the matching ENTRY does not have the RETURNS attribute.

説明: GENERIC参照の一致が見つかったが、GENERIC参照は関数として使用されているのに、一致するENTRYは関数ではないので、この一致は適切ではない。例えば、下記の1つのGENERIC参照は無効だが、2つ目は有効である。

```pli
  dcl e1 entry( fixed bin );
  dcl e2 entry( fixed bin, fixed bin )
     returns( fixed bin );
  dcl gp generic( e1 when( * ),
                  e2 when( *, * ) );
  rc = gp( 0 );
  rc = gp( 0, 0 );
```
The ENTRY named ENTRY name matches the reference to the GENERIC variable GENERIC name, but while the GENERIC reference is used as a function acting as a locator qualifier, the matching ENTRY does not return a POINTER.

説明: GENERIC 参照の一致が見つかったが、GENERIC 参照はロケーターとして使用されているのに、一致する ENTRY は POINTER を戻す関数ではないので、この一致は適切ではない。例えば、下記の 1つ目の GENERIC 参照は無効だが、2つ目は有効である。

```
dcl f1 entry( fixed bin )
  returns( fixed bin );
dcl f2 entry( fixed bin, fixed bin )
  returns( pointer );
dcl bx based fixed bin;
dcl gf generic( f1 when( * ),
               f2 when( *, * ) );
rc = gf( 0 )->bx;
rc = gf( 0, 0 )->bx;
```

The ENTRY named ENTRY name matches the reference to the GENERIC variable GENERIC name, but while the GENERIC reference is used as a repeating function reference, the matching ENTRY cannot be so used.

説明: GENERIC 参照の一致が見つかったが、GENERIC 参照はその戻り値が呼び出される（引数リストの数が示すように、順に呼び出される）関数である関数として使用されているのに、一致する ENTRY はそのように使用できないので、この一致は適切ではない。例えば、下記の 1つ目の GENERIC 参照は無効だが、2つ目は有効である。

```
dcl x1 entry( fixed bin )
  returns( entry );
dcl x2 entry( fixed bin, fixed bin )
  returns( entry returns( fixed bin ) );
dcl gx generic( x1 when( * ),
                x2 when( *, * ) );
rc = gx( 0 )();
rc = gx( 0, 0 )();
```

iSUB defining is not valid with the POSITION attribute.

説明: POSITION 属性は、ストリング・オーバーレイ定義との組み合わせでだけ使用できる。

```
dcl b(4) char(2) pos(2) def( a(lsub,lsub) );
```

In iSUB defining, the base and DEFINED variables must match.

説明: iSUB 参照内の定義される配列とベース配列の属性は、次元属性を除いては同一でなければならない。

```
dcl a(4) fixed bin(31);
dcl b(4) fixed bin(15) def( a(lsub,lsub) );
```

The i in an iSUB reference must not exceed the dimensionality of the DEFINED variable.

説明: iSUB 参照内の i は、DEFINED 変数の添え字を参照している必要があり、その変数の次元数よりも大きい値であってはならない。

```
dcl a(4) fixed bin(31);
dcl b(4) fixed bin(15) def( a(lsub,2sub) );
```

An iSUB variable cannot be defined on a cross-section of its base.

説明: iSUB 変数内、ベース配列の指定にアスタリスクがあってはならない。

```
dcl a(4,4) fixed bin(31);
dcl b(4) fixed bin(15) def( a(lsub,* ) );
```

iSUB defining is supported only for arrays of scalars.

説明: iSUB 定義は、構造体および共用体に対してはサポートされていない。

```
dcl a(4,4) fixed bin(31);
dcl b(4) fixed bin(15) def( a(lsub,* ) );
```

DFT(DESCLIST) conflicts with CMPAT(cmpat-suboption).

説明: CMPAT(V1) または CMPAT(V2) が指定されている場合、DFT(DESCLOCATOR) が有効でなければなら

第 7 章 コンパイラール重大メッセージ (1500 から 2399) 105
IBM2136I S The number of indices specified for the LABEL identifier does not match the number previously specified.

説明: ラベル定数配列のエレメントに指定する索引の数は、エレメントごとに変化してはならない。

a(1,1): ..
a(1,2): ..
a(3): ..

IBM2137I S Indices have been specified for the LABEL identifier when it was previously specified without indices.

説明: ラベル定数の最初の使用時に添え字が指定されていなければ、そのラベル定数には添え字を付けることはできない。

a: ..
a(3): ..

IBM2138I S Indices have not been specified for the LABEL identifier when it was previously specified with indices.

説明: ラベル定数の最初の使用時に添え字が指定されている場合は、そのラベル定数には添え字を付けなければならない。

a(3): ..
a: ..

IBM2139I S The LE runtime is not current enough.

説明: LE 2.10 (またはそれ以前) を使用している。これは、コンパイラではサポートされない。

IBM2140I S Length of second argument to the REPLACEBY2 built-in must be twice that of the third.

説明: REPLACEBY2 組込み関数の2番目の引数が、3番目の引数の中の対応する文字を置き換える文字ペアのセットを提供しているため、2番目のストリングは、3番目のストリングの2倍の長さでなければならない。

IBM2141I S First argument to the BUILTIN name built-in must be a structure.

説明: 示された組込みサブルーチンに対する最初の引数は、構造体でなければならない。

IBM2142I S Event structure argument to the BUILTIN name built-in has too few elements.

説明: 示された組込みサブルーチンへの最初の引数は、SAX パーサー用のイベント・ハンドラを提供する構造体でなければならない。その構造体の持つメンバー数は厳密に正確でなければならない。詳細については「プログラミング・ガイド」を参照。

IBM2143I S Event structure argument to the BUILTIN name built-in has too many elements.

説明: 示された組込みサブルーチンへの最初の引数は、SAX パーサー用のイベント・ハンドラを提供する構造体でなければならない。その構造体の持つメンバー数は厳密に正確でなければならない。詳細については「プログラミング・ガイド」を参照。

IBM2144I S Member member-number in the event structure argument to the BUILTIN name built-in is not a scalar.

説明: 示されている組込みサブルーチンへの最初の引数は、SAX パーサー用のイベント・ハンドラを提供する構造体でなければならず、その構造体の各エレメントはスカラーでなければならない。詳細については「プログラミング・ガイド」を参照。

IBM2145I S Member member-number in the event structure argument to the BUILTIN name built-in must return BYVALUE a NATIVE FIXED BIN(31).

説明: SAX パーサー用のイベント・ハンドラを提供する構造体の示されているエレメントは、LIMITED ENTRY でなければならない。詳細については「プログラミング・ガイド」を参照。

IBM2146I S Member member-number in the event structure argument to the BUILTIN name built-in must return BYVALUE a NATIVE FIXED BIN(31).

説明: SAX パーサー用のイベント・ハンドラを提供する構造体の示されているエレメントは、BYVALUE NATIVE FIXED BIN(31) でなければならない。詳細に
IBM2147I S  Member member-number in the event structure argument to the BUILTIN name built-in must have a non-empty entry description list.

説明: SAX バーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、空でないエントリー記述リストがなければならない。詳細については「プログラミング・ガイド」を参照。

IBM2148I S  Member member-number in the event structure argument to the BUILTIN name built-in has a parameter count of specified-parm-count when the correct parameter count is required-parm-count.

説明: SAX バーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、正しい数のパラメーターがなければならない。詳細については「プログラミング・ガイド」を参照。

IBM2149I S  Member member-number in the event structure argument to the BUILTIN name built-in must have a BYVALUE POINTER as its first parameter.

説明: SAX バーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、最初のパラメーターとして BYVALUE POINTER がなければならない。詳細については「プログラミング・ガイド」を参照。

IBM2150I S  Member member-number in the event structure argument to the BUILTIN name built-in must have a BYVALUE POINTER as its second parameter.

説明: SAX バーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、2 番目のパラメーターとして BYVALUE POINTER がなければならない。詳細については「プログラミング・ガイド」を参照。

IBM2151I S  Member member-number in the event structure argument to the BUILTIN name built-in must have a BYVALUE NATIVE FIXED BIN(31) as its third parameter.

説明: SAX バーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、3 番目のパラメーターとして BYVALUE NATIVE FIXED BIN(31) がなければならない。詳細については「プログラミング・ガイド」を参照。

IBM2152I S  Member member-number in the event structure argument to the BUILTIN name built-in must have a BYVALUE POINTER as its fourth parameter.

説明: SAX バーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、4 番目のパラメーターとして BYVALUE POINTER がなければならない。詳細については「プログラミング・ガイド」を参照。

IBM2153I S  Member member-number in the event structure argument to the BUILTIN name built-in must have a BYVALUE NATIVE FIXED BIN(31) as its fifth parameter.

説明: SAX バーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、5 番目のパラメーターとして BYVALUE NATIVE FIXED BIN(31) がなければならない。詳細については「プログラミング・ガイド」を参照。

IBM2154I S  Member member-number in the event structure argument to the BUILTIN name built-in must have a BYVALUE POINTER as its second parameter.

説明: SAX バーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、2 番目のパラメーターとして BYVALUE POINTER がなければならない。詳細については「プログラミング・ガイド」を参照。

IBM2155I S  Member member-number in the event structure argument to the BUILTIN name built-in must have a BYVALUE NATIVE FIXED BIN(31) as its fourth parameter.

説明: SAX バーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、4 番目のパラメーターとして BYVALUE NATIVE FIXED BIN(31) がなければならない。詳細については「プログラミング・ガイド」を参照。
IBM2156I S Member member-number in the event structure argument to the BUILTIN name built-in must have a BYVALUE NATIVE FIXED BIN(31) as its second parameter.

説明: SAX バーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、2 番目のパラメーターとして BYVALUE NATIVE FIXED BIN(31) がなければならない。詳細については「プログラミング・ガイド」を参照。

IBM2157I S Member member-number in the event structure argument to the BUILTIN name built-in must have a BYVALUE CHAR(1) or BYVALUE WCHAR(1) as its second parameter.

説明: SAX バーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、2 番目のパラメーターとして長さ 1 の BYVALUE CHAR (または BYVALUE WIDECHAR) がなければならない。詳細については「プログラミング・ガイド」を参照。

IBM2158I S Member member-number in the event structure argument to the BUILTIN name built-in has the wrong linkage.

説明: SAX バーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、PL/I デフォルト・リンクージャがなければならない。詳細については「プログラミング・ガイド」を参照。

IBM2159I S Member member-number in the event structure argument to the BUILTIN name built-in must have the NODESCRIPTOR option.

説明: SAX バーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、NODESCRIPTOR オプションを指定する必要がある。詳細については「プログラミング・ガイド」を参照。

IBM2160I S All members of the input structure to the BUILTIN name built-in must have computational type.

説明: XMLCHAR 組み込み関数は、非計算型を含む構造体には適用できない。

IBM2161I S The input structure to the BUILTIN name built-in must not be a UNION or contain any UNIONs.

説明: XMLCHAR 組み込み関数は、共用体または共用体を含む構造体には適用できない。

IBM2162I S The input structure to the BUILTIN name built-in must not contain any GRAPHIC elements.

説明: XMLCHAR 組み込み関数は、GRAPHIC データを含む構造体には適用できない。

IBM2163I S The input structure to the BUILTIN name built-in must not contain any WIDECHAR elements.

説明: XMLCHAR 組み込み関数は、WIDECHAR データを含む構造体には適用できない。

IBM2164I S The input structure to the BUILTIN name built-in must not contain any unnamed substructures.

説明: XMLCHAR 組み込み関数は、アスタリスクを名前として使用しているサブストラクチャーを含む構造体には適用できない。

IBM2165I S PRV support is provided only if the LIMITS(EXTNAME(7)) option is in effect.

説明: 長い外部名のサポートは、CONTROLLED 変数をアドレス指定するための PRV の使用のサポートと非互換である。

IBM2166I S PRV support is provided only if the NORENT option is in effect.

説明: RENT オプションのサポートは、CONTROLLED 変数をアドレス指定するための PRV の使用のサポートと非互換である。

IBM2167I S PRV support is provided only if the CMPAT(V1) or CMPAT(V2) option is in effect.

説明: CMPAT(LE) オプションのサポートは、CONTROLLED 変数をアドレス指定するための PRV の使用のサポートと非互換である。
IBM2170I S 太多 INTERNAL CONTROLLED 変数。
説明: CONTROLLED 変数をアドレス指定するためのPRV を使用している場合、INTERNAL CONTROLLED 変数は568 個を超えない数でなければならない。

IBM2171I S Under the NOWRITABLE option, no FETCHABLE ENTRY may be declared at the PACKAGE level.
説明: NOWRITABLE オプションを指定すると、各FETCHABLE ENTRY 定数は、PROCEDURE の内部に宣言しなければならない。

IBM2172I S Under the NOWRITABLE option, no FILE CONSTANT may be declared at the PACKAGE level.
説明: NOWRITABLE オプションを指定すると、各FILE CONSTANT は、PROCEDURE の内部に宣言しなければならない。

IBM2173I S Under the NOWRITABLE option, no CONTROLLED may be declared at the PACKAGE level.
説明: NOWRITABLE オプションを指定すると、各CONTROLLED 変数は、PROCEDURE の内部に宣言しなければならない。

IBM2174I S Result of REPLACEBY2 is too long.
説明: REPLACEBY2 組み込み関数を3 つのリテラルに適用することで生成されたストリング・リテラルの長さは、文字リテラルの最大許容長を超えてはならない。

IBM2175I S The second and third arguments to REPLACEBY2 must be restricted expressions.
説明: REPLACEBY2 組み込み関数は現在のところ、コンパイル時に既知である長さと値を持つ 2 番目と 3 番目の引数のみをサポートしている。

IBM2176I S The result of the BUILTIN name built-in would require more than 32767 bytes.
説明: HEX および HEXIMAGE 組み込み関数は、16383 バイトを超えるストレージを使用しているストリングには適用できない。

IBM2177I S The file filename is a PDS member and hence cannot be used for SYSADATA.
説明: 指定されたファイルはSYSADATA ファイルとしての使用を意図されたファイルであるが、そのようなファイルは PDS のメンバーであってはならない。

IBM2178I S INCLUDE statements are not supported when the LINEDIR option is in effect.
説明: LINEDIR オプションが有効のときは、ソースにINCLUDE ステートメントが含まれていなられない。

IBM2179I S There is too little room between the margins for the LINE directive. The PPTRACE option will be turned off.
説明: PPTRACE によって生成される %LINE ディレクティブは1 行に収まる必要がある。これが可能になるようにマージンを十分に広くするか、またはソース・ファイル名を十分に短くする必要がある。

IBM2180I S Use of the KEYED DIRECT file filename in a keyword statement without a KEY/KEYFROM clause is invalid.
説明: KEYED DIRECT やファイルを使用するすべての入出力操作には、操作の適用対象となるレコードのキーを組込む必要がある。

IBM2181I S First argument to BUILTIN name built-in must have type CHARACTER.
説明: これは例えば、PICSPEC 組み込み関数に適用される。

IBM2182I S Second argument to BUILTIN name built-in must be a constant.
説明: これは例えば、PICSPEC 組み込み関数に適用される。

IBM2183I S The first argument to BUILTIN name built-in must have constant length equal to that of the second argument.
説明: これは例えば、PICSPEC 組み込み関数に適用される。

IBM2184I S Compiler input files must have less than 1000000 lines.
説明: ソース・ファイルをより小さいファイルに分割すること。

第 7 章 コンパイラー重大メッセージ (1500 から 2399) 109
IBM2185I S Argument to BUILTIN name built-in must have type REAL DECIMAL FLOAT, and the DFP option must be in effect.

説明: このメッセージは、ISFINITE および類似の組込み関数に適用される。

IBM2186I S BUILTIN name is not supported for DFP.

説明: 名前付きの組込み関数が、DFP を使用した浮動小数点でサポートされていない。例えば、このメッセージは SQRTF 組込み関数に適用される。

IBM2187I S The exponent in the literal value is too large for DECIMAL FLOAT with precision precision.

説明: 小数点が含まれないように調整されたときの DFP リテラル値 (例えば、3.14159 は 314.159 に調整される) の指数は、その精度の最大より大きいわけない。精度 <= 7 の場合、最大は 90 である。 7 < 精度 <= 16 の場合、最大は 369 である。 16 < 精度の場合、最大は 6111 である。

IBM2188I S The exponent in the literal value is too small for DECIMAL FLOAT with precision precision.

説明: 小数点が含まれないように調整されたときの DFP リテラル値 (例えば、3.14159 は 314.159 に調整される) の指数は、その精度の最小より小さくはいけない。精度 <= 7 の場合、最小は -95 である。 7 < 精度 <= 16 の場合、最小は -383 である。 16 < 精度の場合、最小は -6143 である。

IBM2189I S Under CMPAT(V2) and CMPAT(LE), bounds must not be greater than +2147483647.

説明: CMPAT(V2) および CMPAT(LE) では、境界は 2147483648 から +2147483647 の範囲内になければならない。

IBM2190I S Under CMPAT(V2) and CMPAT(LE), bounds must not be less than -2147483648.

説明: CMPAT(V2) および CMPAT(LE) では、境界は -2147483648 から -2147483647 の範囲内になければならない。

IBM2191I S No valid character specified in the option option.

説明: OR、NOT、および QUOTE または NAMES コンパイラー・オプションのそれぞれで、少なくとも有効な文字を 1 文字指定する必要がある。

IBM2192I S Member member-number in the event structure argument to the BUILTIN name built-in must have a BYVALUE POINTER as parameter number parameter-number.

説明: SAX バーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、指定したパラメーター位置に BYVALUE POINTER がなければならない。詳細については、「プログラミング・ガイド」を参照のこと。

IBM2193I S Member member-number in the event structure argument to the BUILTIN name built-in must have a BYVALUE NATIVE FIXED BIN(31) as parameter number parameter-number.

説明: SAX バーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、指定したパラメーター位置に BYVALUE NATIVE FIXED BIN(31) がなければならない。詳細については、「プログラミング・ガイド」を参照のこと。

IBM2194I S Member member-number in the event structure argument to the BUILTIN name built-in must have a BYADDR POINTER as parameter number parameter-number.

説明: SAX バーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、指定したパラメーター位置に BYADDR POINTER がなければならない。詳細については、「プログラミング・ガイド」を参照のこと。

IBM2195I S Member member-number in the event structure argument to the BUILTIN name built-in must have a BYADDR NATIVE FIXED BIN(31) as parameter number parameter-number.

説明: SAX バーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、指定したパラメーター位置に BYADDR NATIVE FIXED BIN(31) がなければならない。詳細については、「プログラミング・ガイド」を参照のこと。
IBM2196I S Member member-number in the event structure argument to the BUILTIN name built-in must have a BYVALUE ALIGNED BIT(8) as parameter number parameter-number.

説明:  SANS パーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、指定したパラメーター位置に BYVALUE ALIGNED BIT(8) がなければならない。詳細については、「プログラミング・ガイド」を参照のこと。

IBM2197I S Argument to BUILTIN name built-in must have type CHAR or WIDECHAR.

説明:  これは、例えば UVALID および ULENGTH 組み込み関数に適用される。

IBM2198I S First argument to BUILTIN name built-in must have type CHAR or WIDECHAR.

説明: これは、例えば UPOS および UWIDTH 組み込み関数に適用される。

IBM2199I S The run-time option XPLINK(ON) must be in effect if object code is to be generated.

説明:  コンパイラ・バックエンドでは、XPLINK(ON) オプションを有効にする必要がある。

IBM2200I S DFP conversion from source type to target type failed with an operation exception. The most likely cause for this is lack of DFP hardware.

説明:  示されている変換には、DFP ソースまたはターゲット（あるいはその両方）があるが、コンパイル時に演算例外で失敗した。これらの変換には、コンパイルが行われるマシンに DFP ハードウェアがインストールされている必要がある。

IBM2201I S First argument to BUILTIN name built-in must have type REAL DECIMAL FIXED, or REAL DECIMAL FLOAT, and in the latter case, the DFP option must be in effect.

説明: このメッセージは、ROUNDDEC および類似の組み込み関数に適用される。
IBM2209I S Use of nonconstant extents in BASED variables without REFER is invalid except on scalars.

説明: BASED 变数内のエクステントは、変数がスカラーでない限り、REFER オプションを使用する場合以外はすべて定数でなければならない。したがって、下記の最初の宣言は有効だが、2 番目の宣言は無効である。

dcl x based char(n);
dcl y(n,m) based fixed bin(31);

IBM2210I S The VALUE type function cannot be applied to type name since that structure has no members with an INITIAL attribute.

説明: VALUE 型関数は、INITIAL 属性を持つ少なくとも 1 つのメンバーがある構造型にのみ適用可能である。

IBM2211I S Shift-out code has no closing shift-in code before the right margin.

説明: マージン間の DBCS シフトアウト・コードにはいずれも、対応する DBCS シフトイン・コードが同マージン間に必要である。

IBM2212I S Argument to the BUILTIN name built-in must be a structure.

説明: 示された組込みサブルーチンに対する引数は、構造でなければならない。

IBM2213I S Block contains too many label arrays.

説明: プロシージャおよび開始ブロックに含まれるラベル配列は 2048 未満でなければならない。

IBM2214I S Attribute is invalid on structure parents.

説明: XMLATTR 属性および XMLOMIT 属性は、基底付き構造エレメントでのみ使用可能である。

IBM2215I S Attribute is invalid on unnamed structure elements.

説明: XMLATTR 属性および XMLOMIT 属性は、名前付き構造エレメントでのみ使用可能である。

IBM2216I S Attribute is invalid on arrays.

説明: XMLATTR 属性および XMLOMIT 属性は、スカラー構造エレメントでのみ使用可能である。

IBM2217I S XMLATTR is invalid if the previous element at that logical level does not also have the XMLATTR attribute.

説明: XMLATTR 属性は、同じ論理レベルにある、その前の姉妹エレメントもすべて XMLATTR 属性を持っている場合にのみ、スカラー構造エレメントでのみ使用できる。

IBM2218I S Attribute is invalid on non-native FLOAT elements.

説明: XMLOMIT 属性は、ハードウェアでサポートされていないデータ表現を使用している FLOAT エレメントでは使用できない。

IBM2219I S Parameters declared as INONLY must not contain any elements declared with the ASSIGNABLE attribute.

説明: パラメーターが INONLY として宣言されている場合、ASSIGNABLE 属性はそのパラメーターおよびパラメーターに含まれるすべてのエレメントで無効である。

IBM2220I S Parameters declared as OUTONLY must contain at least one element declared with the ASSIGNABLE attribute.

説明: パラメーターが OUTONLY として宣言されている場合、NONASSIGNABLE 属性はそのパラメーターのすべてのエレメントで指定されてはいけない。

IBM2221I S A non-constant array extent in a BASED variable is invalid if the array has more than one dimension.

説明: REFER を使用しない BASED 変数での非定数エクステントの使用は制限がある。配列で使用する場合は、配列に 1 つのみ次元があることが必要である。

IBM2222I S A non-constant array extent in a BASED variable is invalid if the array has a non-constant lower bound.

説明: REFER を使用しない BASED 変数での非定数エクステントの使用は制限がある。配列で使用する場合は、配列に定数下限があることが必要である。
A non-constant array extent in a BASED structure is invalid if any other fields in the structure have non-constant extents.

A non-constant AREA, BIT, GRAPHIC, or WIDECHAR extent in a BASED variable is invalid if the variable is an array element or part of a structure.

A non-constant CHARACTER extent in a BASED variable is invalid if the string is ALIGNED and VARYING.

A non-constant array extent in a BASED variable is invalid if any fields follow the array or any parent structures of the array.

A non-constant CHARACTER extent in a BASED variable is invalid if the string is a member of an array of structures.

The argument to the BUILTIN name built-in must have the attributes REAL FIXED BIN and scale factor zero.

The BUILTIN name built-in is supported only with the native character set.

There must be only one target in a BY DIMACROSS assignment.

The target in a BY DIMACROSS assignment must be a structure reference.
IBM2234I S No arrays are permitted in the source in a BY DIMACROSS assignment.

説明: BY DIMACROSS 代入内のソースには、配列参照を含めることはできない。

IBM2235I S In a BY DIMACROSS assignment, the immediate children of any structure not declared with DIMACROSS must not be arrays.

説明: BY DIMACROSS 代入内で使用される構造体の直接の子は、スカラーまたは副構造でなければならな
い。しかし、構造体が DIMACROSS 属性で宣言されていない限り、配列であってはならない。例えば、以下の
プログラムは無効である。

```
dcl 1 a, 2 a1(100) fixed bin, 2 a2(100) fixed bin;
dcl 1 b(100) dimacross, 2 b1 fixed bin, 2 b2 fixed bin;

a = b, by dimacross(1);
```
第 8 章 MACRO、CICS、および SQL プリプロセッサー・メッセージ (3000 から 3999)

IBM3000I W note
説明：  このメッセージは、%NOTE ステートメントで戻りコード 0 と共に使用される。

IBM3019I I プログラムには変換を必要とする EXEC SQL ステートメントが含まれていない。
説明： SQL サブオプションが PP オプションに対して指定されているが、プログラムには EXEC SQL ステートメントが含まれていない。ただし EXEC SQL INCLUDE ステートメントが含まれる場合がある。
DBRMLIB は更新されない。

IBM3020I I Comment spans line-count lines.
説明： コメントが開始行とは別の行で終わっている。これは、コメント終了を表す区切り文字が欠落している可能性を示す。

IBM3021I I String spans line-count lines.
説明： ストリングが開始行とは別の行で終わっている。これは、右引用符が欠落している可能性を示す。

IBM3024I I note
説明： このメッセージは DB2 パックエンド・メッセージをレポートするために使用され、戻りコード 0 と共に使用される。

IBM3250I W note
説明： このメッセージは、%NOTE ステートメントで戻りコード 4 と共に使用される。

IBM3251I W identifier is multiply defined, but with different attributes. The declaration is ignored.
説明： 属性と宣言は整合していなければならない。

IBM3252I W 属性 attribute は前の属性と競合しているため、無視される。
説明： 属性は整合性のあるものでなければならない。

dcl a fixed char;

IBM3253I W Comment spans more than one file.
説明： コメントが、開始ファイルとは別のファイルの中で終わっている。これは、コメント終了ステートメントが欠落している可能性を示す。

IBM3254I W String spans more than one file.
説明： ストリングが、それが始まったファイルとは別のファイルの中で終わっている。これは、右引用符が欠落している可能性を示す。

IBM3255I W Delimiter missing between nondelimiter and nondelimiter. A blank is assumed.
説明： すべての ID と定数の間には、区切り文字（例えばプランクまたはコマ）が必要である。

dcl 1 a, 2 b, 3 c;

IBM3256I W Multiple closure of groups. END statements will be inserted to close intervening groups.
説明： 1 つの END ステートメントを使用して複数のステートメント・グループをクローズすることは許されが、コーディング・エラーが示される場合がある。

IBM3257I W Missing character assumed.
説明： 指示された文字が欠落しているが、ソースの中にそれ以外の文字がない。構文解析プログラムが、欠落した文字を挿入してソースを訂正した。

IBM3258I W Missing character assumed before character.

© Copyright IBM Corp. 1999, 2011 115
IBM3259I W note
説明: このメッセージは DB2 バックエンド・メッセージをレポートするために使用され、戻りコード 4 を共に使用される。

IBM3260I W Syntax of the %CONTROL statement is incorrect.
説明: %CONTROL ステートメントのあとには、括弧で囲んだ FORMAT オプションまたは NOFORMAT オプションと、セミコロンを指定しなければならない。

IBM3265I W Number of lines specified with %SKIP must be between 0 and 999 inclusive.
説明: 999 を超えるスキップ量はサポートされていない。

IBM3270I W 'EXEC CICS' encountered, but the CICS option is not in effect. Command ignored.
説明: ソースに EXEC CICS ステートメントが含まれている場合は、CICS オプションを有効にする必要がある。

IBM3272I W 'EXEC DLI' encountered, but the DLI option is not in effect. Command ignored.
説明: ソースに EXEC DLI ステートメントが含まれている場合は、DLI オプションを有効にする必要がある。

IBM3274I W 'EXEC CSPM' encountered, but the CSPM option is not in effect. Command ignored.
説明: ソースに EXEC CSPM ステートメントが含まれている場合は、CSPM オプションを有効にする必要がある。

IBM3281I W SELECT statement contains no WHEN or OTHERWISE clauses.
説明: WHEN 文節または OTHERWISE 文節は SELECT ステートメントに必須ではないが、指定しないとコーディング・エラーが示されることがある。

IBM3283I W SELECT statement contains no WHEN clauses.
説明: SELECT ステートメントには WHEN 文節は必須ではないが、指定しないとコーディング・エラーが示されることがある。

IBM3285I W FIXED BINARY constant contains too many digits. Excess nonsignificant digits will be ignored.
説明: FIXED BINARY 定数に含まれる桁数は、31 桁以下でなければならない。

IBM3286I W FIXED DECIMAL constant contains too many digits. Excess nonsignificant digits will be ignored.
説明: FIXED DECIMAL 定数の最大精度は、LIMITS コンパイラ・オプションの FIXEDDEC サブオプションで指定する。

IBM3287I W Mantissa in FLOAT BINARY constant contains more digits than the implementation maximum. Excess nonsignificant digits will be ignored.
説明: 浮動 2 進定数は、64 桁に制限されている。

IBM3288I W Mantissa in FLOAT DECIMAL constant contains more digits than the implementation maximum. Excess nonsignificant digits will be ignored.
説明: 浮動 10 進定数は、18 桁に制限されている。

IBM3289I W FLOAT literal is too big for its implicit precision. An appropriate HUGE value is assumed.
説明: 浮動リテラルの精度は、その仮数内の桁数により暗黙に決まる。例えば、1e99 は暗黙に FLOAT DECIMAL(1) を表すが、値 1e99 は FLOAT DECIMAL(1) が保持できる最大値より大きい。
IBM3291I W The OPTIONS option option-name conflicts with the LANGLEVEL compiler option. The option will be applied.
説明: 示されているオプションは、LANGLEVEL コンパイラ・オプションに指定されている PL/I 言語定義の一部ではない。

IBM3292I W suboption is not a valid suboption for option.
説明: 指定したサブオプションは、示されているオプションのサブオプションとしてサポートされていない。

*process pp(macro('fixed(long)'));

IBM3293I W A required suboption is missing for the suboption option.
説明: 示されているオプションにはサブオプションが必要である。

*process pp(macro('fixed'));

IBM3294I W A closing parenthesis is missing in the specification of the option option. One is assumed.
説明: 示されているオプションの指定に右括弧が欠落している。

*process pp(macro('fixed(bin'));

IBM3295I W option is not a supported option.
説明: 示されているオプションは、実際のオプションではない。

*process pp(macro('float'));

IBM3299I W Syntax of the %LINE directive is incorrect.
説明: %LINE ディレクティブのあとには、(間にプランクを入れるか入れないかは任意で) 括弧、行番号、コンマ、ファイル名、および右括弧を指定しなければならない。

%line( 19, test.pli );

IBM3300I W identifier has not been declared.
CHARACTER attribute assumed.
説明: 変数はすべて宣言する必要がある。

IBM3310I W First argument to BUILTIN name built-in should have string type.
説明: このメッセージが出ないようにするには、CHAR 組み込み関数または BIT 組み込み関数を最初の引数に適用する必要がある。

dcl i fixed bin;
display( substr(i,4) );

IBM3311I W Argument number to the BUILTIN name built-in function is missing. A null value will be passed for the missing argument.
説明: 関数参照の引数が欠損している。欠落している引数については、ヌル・ストリクがゼロの場合に応じて渡される。

%dcl a fixed;
a = max(n,);

IBM3312I W LEAVE will exit noniterative DO-group.
説明: LEAVE ステートメントにラベルが指定されている場合は、このメッセージは生成されない。次のループでは、LEAVE ステートメントは直接開いている DO グループを終了するだけでなく、ループは終了されない。

do i = 1 to n;
   if a(i) > 0 then
do;
call f;
leave;
   end;
else;
end;

IBM3313I W Result of comparison is always constant.
説明: このメッセージは、変数がとる可能性のある最大値または最小値に等しい定数と、その変数を比較する場合に生成される。次のループでは、変数 x は 99 を超えることはできない。したがって、このループにより毎回実行される暗黙の比較では、結果は常に '1b' になる。

%line( 19, test.pli );
do x pic'99';
do x = 1 to 99;
end;

IBM3314I W The reference reference could refer to a
parent or its child, but the child is
assumed.

説明: X という名前の構造体があり、最初の子の名前
も X であるとすると、X への参照は PL/I の規則では
親に解決される。しかし、構造体を含む構造体への参照
は SQL ステートメントでは無効であるため、参照は子
に対する参照であると想定される。参照を X から X.X
に変更する必要がある。

IBM3315I W The reference reference is an array of
structures. Arrays of structures are not
valid in SQL statements, but because
this structure consists of only one
element, the reference is treated as if it
were a reference to its lone child.

説明: A という名前の次元化された構造体が 1 つの子
B のみで構成される場合、A への参照は A.B への参照
として扱われる。

IBM3316I W The reference reference is a structure
containing an array. Structures
containing arrays are not valid in SQL
statements, but because this structure
consists of only one element, the
reference is treated as if it were a
reference to its lone child.

説明: A という名前の構造体が 1 つの子 B のみで構
成され、B が配列である場合、A への参照は A.B への
参照として扱われる。

IBM3320I W RETURNS attribute in ENTRY declare
ignored.

説明: ENTRY 宣言により RETURNS 属性を指定して
はならない。次の例の場合、“returns( char )” は省く必
要がある。

"%dcl a entry returns( char );"

IBM3321I W RETURNS option assumed to enclose
attribute in PROCEDURE statement.

説明: PROCEDURE ステートメントの場合、RETURNS
キーの後のある RETURNS 属性を括弧で囲ま
なければならない。次の例の場合、“char” 属性は、
"returns( char )” と指定する必要がある。

"%a: proc char ;
  return( '1729' );
%end;"

IBM3322I W Argument list for PROCEDURE identifier
is missing. It will be invoked without
any arguments.

説明: パラメーターを持つ PROCEDURE に対するオー
プン・コード内の参照には、1 つ以上の空の引数リスト
が設定されていなければならない。例えば、次の
"display( a )" は、"display( a() )" とする必要がある。

"%a: proc( x ) char ;
  dcl x char;
  return( '1729' );
%end;
%act a;
  display( a );"

IBM3323I W Too few arguments for PROCEDURE
identifier. Null values will be passed for
the missing arguments.

説明: 指定したプロシージャーの引数が少なすぎる。欠
落している引数については、ヌル・ストリングまたはゼ
ロが場合に応じて渡される。

"%a: proc( x ) char ;
  dcl x char;
  return( '1729' );
%end;
%act a;
  display( a() );"

IBM3324I W Too many arguments for PROCEDURE
identifier. Excess ignored.

説明: 指定したプロシージャーの引数が多すぎる。余分
の引数は無視される。
IBM3325I W No data attributes specified in declare for identifier.

IBM3501I E note

IBM3502I E An integer with a K suffix must have no more than 7 digits.

IBM3503I E In an integer with a K suffix, the digits must specify a value less than or equal to 2097152.

IBM3504I E An integer with an M suffix must have no more than 4 digits.

IBM3505I E In an integer with an M suffix the digits must specify a value less than or equal to 2048.

IBM3506I E An integer with a G suffix must have only 1 digit.

IBM3507I E In an integer with an G suffix, the digits must specify a value less than or equal to 2.

IBM3508I E Numeric precision of 0 replaced by 1.

IBM3509I E DECLARE statement has invalid syntax.

IBM3510I E keyword statement is not allowed where an executable statement is required. A null statement will be inserted before the keyword statement.

IBM3511I E COUNTER value would exceed 99999. It will be reset to 0.
IBM3512I E 多重閉鎖のグループはRULES(NOMULTICLOSE)のもとでは、ソースプログラムの中に複数のグループ閉鎖があってはならない。

説明: RULES(NOMULTICLOSE)のもとでは、ソースプログラムの中に複数のグループ閉鎖があってはならない。

IBM3514I E 第二引数をBUILTIN名のbuilt-inとして負の値である。値は0に変更されます。

説明: COPY およびREPEATなどの組込み関数に対する2番目の引数は、負の値であってはならない。

\[ x = \text{copy}(y, -1); \]

IBM3515I E スケール因数は127より大きい。値は127に置き換えられます。

説明: スケール因数は、-128から127（両端の値を含む）の範囲内の値でなければならない。

IBM3516I E スケール因数は-128より小さい。値は-128に置き換えられます。

説明: スケール因数は、-128から127（両端の値を含む）の範囲内の値でなければならない。

IBM3517I E 次の定義は変更されます。

説明: デフォルトの下限は1であるが、上限は下限より大きい値でなければならない。

\[ \text{dcl} \ x(-5) \text{ fixed bin}; \]

IBM3518I E identifier がNAMEPREFIXオプションに従わない。

説明: NAMEPREFIXオプションが指定された場合、すべてのマクロ変数およびプロシージャーの名前の前頭は、そのオプションで指定された文字でなければならない。

IBM3519I E B3リテラルの文字は0-7でなくてはならない。

説明: B3リテラルでは、各文字は0から7のいずれかでなければならない。

IBM3520I E 場面を0に置き換えます。

説明: 構造体レベル番号は正の値でなければならない。

IBM3521I E 場面を255に置き換えます。

説明: サポートされる最大構造体レベルは255である。

\[ \text{dcl} \ a(5,10) \text{ fixed bin}; \]

IBM3522I E A DECIMAL exponent is required.

説明: FLOAT定数のEのあとには、1つ以上の10進数（任意で直前に符号が付けられる）が必要である。

IBM3523I E 第二引数をBUILTIN名のbuilt-inとして1以上の次元を持つ配列に対して提供されるべき。2つの次元が必要である。

説明: LBOUND、HBOUND、およびDIMENSION組込み関数を2次以上の配列に適用する場合は、2つの引数が必要である。

\[ \text{dcl} \ a(5,10) \text{ fixed bin}; \]

IBM3524I E 第二引数をBUILTIN名のbuilt-inとして正の値でなくてはならない。

説明: DIMENSION、HBOUND、およびLBOUND組込み関数では、2番目の引数は正の値でなければならない。

IBM3525I E 第二引数をBUILTIN名のbuilt-inとして第一引数の次元数より大きい値でなくてはならない。

説明: LBOUND、HBOUND、およびDIMENSION組込み関数に対する2番目の引数は、その配列次元数より大きい値でなければなりません。
IBM3526I E Repeated declaration of identifier is invalid and will be ignored.

説明: レベル 1 の変数名は、同じブロック内で繰り返してはならない。

```plaintext
    dcl a char, a fixed;
```

IBM3527I E Missing THEN assumed.

説明: IF ステートメントには THEN キーワードが含まれている必要がある。

```plaintext
    dcl a fixed(15) bin(31);
```

IBM3528I E Duplicate specification of arithmetic precision. Subsequent specification ignored.

説明: 精度属性は、DECLARE ステートメントの中で一度だけ指定する必要がある。

```plaintext
    dcl a1 float dec(15,2);
    dcl a2 fixed dec(15,2);
    dcl a3 float dec(15);
```

IBM3529I E Scale factors are not allowed in FLOAT declarations.

説明: スケール係数は、FIXED BIN または FIXED DEC の宣言のみ有効である。次の最初の宣言は無効で、その後の宣言のいずれかに変更する必要がある。

```plaintext
    a: do;
    ... end b;
```

IBM3530I E identifier is an array. ACTIVATE and DEACTIVATE are invalid for arrays.

説明: スカラーのみを活動化できる。

```plaintext
    select; 
    when ( ... )
    do;
    end;
    otherwise
    do;
    end;
    display( ... );
```
IBM3538I E %END statement found without any open %PROCEDURE, %DO or %SELECT statements. It will be ignored.

IBM3539I E STRINGSIZE condition raised while evaluating expression. Result is truncated.

IBM3540I E STRINGRANGE condition raised while evaluating expression. Arguments are adjusted to fit.

IBM3541E LEAVE/ITERATE label is not a label on any open DO group.

IBM3542I E ITERATE/LEAVE statement is invalid outside an open DO statement. The statement will be ignored.

IBM3543I E %END statement found without any open %PROCEDURE, %DO or %SELECT statements. It will be ignored.

IBM3544I E GX literals should contain a multiple of 4 hex digits.

IBM3545I E Upper bound for dimension number of array variable name is less than lower bound. Bounds will be reversed.

IBM3546I E Identifier is too long. It will be collapsed to identifier.

IBM3547I E B assumed to complete iSUB.

IBM3548I E Digit in BINARY constant is not zero or one.

IBM3549I E Characters in BIT literals must be 0 or 1.

IBM3550I E Character with decimal value n does not belong to the PL/I character set. It will be ignored.

x = '00'gx;

dcl a(10) def b(isu, iub );
IBM3551I E Characters in hex literals must be 0-9 or A-F.

説明: 16 進数リテラルでは、各文字は 0 から 9 または A から F のいずれかでなければならない。

x = '00wx;

IBM3552I E The statement element character is invalid. The statement will be ignored.

説明: 指定されているエレメントが無効なため、入力したステートメントは解析できなかった。

IBM3553I E Use of underscore as initial character in an identifier accepted although invalid under LANGLEVEL(SAA).

説明: LANGLEVEL(SAA) のもとでは、ID は英字または特別言語文字で開始されなければならない。この場合、ID は下線で始まっていてはならない。

IBM3556I E WX literals should contain a multiple of 4 hex digits.

説明: WX リテラルはユニコード・ストリングを表すものであり、４桁の16進数の倍数を指定しなければならない。

dcl ( a, b, c ) = d;

IBM3557I E Character with decimal value n does not belong to the PL/I character set. It is assumed to be an OR symbol.

説明: 示されている文字は、PL/I 文字セットの一部ではなく、直接に同じ文字が続いていた。これは、OR 記号を含むプログラムを別のマシンから移植したときに、この記号が PL/I 文字セットに含まれていない文字に変換されたことを示す。OR コンバイラ・オプションを使用すると、この問題の回避に役立つ。

IBM35571I E The SQL and PL/I float options are inconsistent.

説明: コンバイラ・オプション DEFAULT(IEEE | HEXADEC) が、SQL プリプロセッサー・オプション FLOAT(IEEE | S390) と一致していない。これらのオプ
IBM3572I E Initial level number in a structure is not one.

説明: レベル 1 の DECLARE ステートメントが欠落している可能性がある。

```pli

dcl
   2 a,
   3 b,
   3 c,
```

IBM3573I E Elements with level numbers greater than one follow an element without a level number. A level number of 1 is assumed.

説明: 構造体レベルが欠落している可能性がある。

```pli

dcl
   a,
   2 b,
   2 c,
```

IBM3574I E Variables declared without a name must be structure members or followed by a substructure list.

説明: 名前を代わりにアスタリスクを使用できるのは、構造体名、共用体名、または構造体あるいは共用体のメンバーの場合のみである。LIKE 属性を指定したレベル 1 の構造体名には、アスタリスクは使用できない。

```pli

dcl a fixed bin(15),
    * char(20) static init('who can use me');
```

IBM3575I E Duplicate specification of attribute. Subsequent specification ignored.

説明: CHAR などの属性は、1 つの DECLARE ステートメントのメンバについて繰り返してはならない。

```pli

dcl a char(10) char(20);
```

IBM3576I E The SQL statement is empty and is ignored.

説明: EXEC SQL ステートメントは、単に EXEC SQL だけでない構成にする必要がある。

```sql
EXEC SQL
```

IBM3577I E INONLY option is ignored because preceded by other options.

説明: INONLY オプションは他のオプションが指定されていない状態で指定する必要がある。

IBM3580I E Parameter keyword may not be set more than once. First setting is assumed.

説明: ステートメント形式のプロシージャ呼び出しの場合、各パラメータの指定は 1 回でなければならない。それ以降の指定は無視される。次のサンプル・コードの場合、P の両方の呼び出しに対して 17 が戻される。

```pli
%p: proc( a ) stmt returns( char );
   dcl a char;
   return( a );
%end;
%act p;
   display( p a(17) a(29); );
   display( p(17) a(29); );
```

IBM3581I E Unknown keyword in statement-form procedure invocation. keyword and any argument are ignored.

説明: ステートメント形式のプロシージャ呼び出しの場合、指定するキーワードは、そのプロシージャのパラメータの名前でなければならない。

```pli
%p: proc( a ) stmt returns( char );
   dcl a char;
   return( a );
%end;
%act p;
   display( p a(17) b(29); );
```

IBM3582I E Parameter identifier is not declared.

説明: プロシージャの各パラメータを宣言する必要がある。

```pli
%p: proc( a ) stmt returns( char );
   dcl a char;
   return( a );
%end;
%act p;
   display( p a(17) b(29); );
```
IBM3583I E Labels on keyword statements are invalid and ignored.

説明: DECLARE ステートメント、または WHEN 文節や OTHERWISE 文節では、ラベルは許可されない。

IBM3589I E The identifier identifier is not the name of a built-in function. The BUILTIN attribute will be ignored.

説明: BUILTIN 属性は、組み込み関数または組み込みサブルーチンの名前である ID にのみ適用できる。

IBM3590I E The attribute keyword is not supported and will be ignored.

説明: 示されている属性は、マクロ機能でサポートされない。

IBM3591I E Right parenthesis will be assumed at end of argument list.

説明: 右括弧が欠落している可能性がある。対になっていない括弧がソース内にあると、ソース内の対になっていない左括弧により後ろの文字はすべて、関数に対するパラメーターであると解釈される。対になっていない括弧が置き換えストリングにあると、そのストリング内の対になっていない左括弧より後ろの文字がすべて、関数に対するパラメーターであると解釈される。

IBM3603I E The end of the source was reached before the logical end of the program. Null statements and END statements will be inserted as necessary to complete the program.

説明: ソースには、すべての PROCEDURE に対する END ステートメント、DO グループ、SELECT ステートメント、およびすべての IF-THEN 文節と ELSE 文節に対するステートメントが入っている必要がある。

IBM3604I E The procedure name proc-name has already been declared. The explicit declaration of the procedure name will not be accepted.

説明: 内部プロシージャ用の宣言は許されない。

IBM3609I E A SELECT statement may be missing. A SELECT statement, without an expression, will be inserted.

説明: WHEN 文節または OTHERWISE 文節が SELECT ステートメントの外部で見つかった。

IBM3610I E Semicolon inserted after ELSE keyword.

説明: DO または SELECT などのステートメントを囲む END ステートメントが、ELSE のあとに必要なステートメントの前にある。

IBM3611I E Semicolon inserted after OTHERWISE keyword.

説明: END ステートメントの位置が間違っているか、またはセミコロンが欠落している。

IBM3612I E Semicolon inserted after OTHERWISE keyword.

説明: END ステートメントの位置が間違っているか、またはセミコロンが欠落している。

IBM3613I E Semicolon inserted after THEN keyword.

説明: END ステートメントの位置が間違っているか、またはセミコロンが欠落している。

IBM3614I E Semicolon inserted after WHEN clause.

説明: END ステートメントの位置が間違っているか、またはセミコロンが欠落している。

IBM3615I E Source file does not end with the logical end of the program.

説明: ソース・ファイルには、最初の PACKAGE または PROCEDURE をクローズしている END ステートメントのあとに、ステートメントが含まれている。これら
IBM3616I E Subscripts have been specified for the variable variable name, but it is not an array variable.

説明: 添え字を指定できるのは、配列のエレメントの場合だけである。

IBM3617I E Second argument in SUBSTR reference is less than 1. It will be replaced by 1.

説明: メッセージのように処理されないと、STRINGRANGE 条件が発生する。

IBM3618I E Second argument in SUBSTR reference is too big. It will be trimmed to fit.

説明: メッセージのように処理されないと、STRINGRANGE 条件が発生する。

IBM3619I E Third argument in SUBSTR reference is less than 0. It will be replaced by 0.

説明: メッセージのように処理されないと、STRINGRANGE 条件が発生する。

IBM3620I E Third argument in SUBSTR reference is too big. It will be trimmed to fit.

説明: メッセージのように処理されないと、STRINGRANGE 条件が発生する。

IBM3621I E More than 15 dimensions have been specified. Excess will be ignored.

説明: 変数の最大許容次元数は、すべての継承次元を含めて、15 である。

IBM3624I E End-of-comment marker found when there are no open comments. Marker will be ignored.

説明: コメント開始マーカーがないのに、*/ が見つかった。

IBM3625I E There is no compiler directive directive. Input up to the next semicolon will be ignored.

説明: サポートされるコンパイラー指示のリストについては「言語解説書」を参照。

IBM3626I E Listing control statement must start with a percent symbol.

説明: リスト制御ステートメントは、プリプロセッサー・プロシージャー内であっても、先頭に "%" を付ける必要がある。

```
%a: proc;
  skip;
%end;
```

IBM3628I E X literals should contain a multiple of 2 hex digits.

説明: X リテラルには、奇数の桁数が含まれていってはならない。

IBM3638I E Excess arguments for ENTRY ENTRY name ignored.

説明: ENTRY 参照の中に指定された引数の数が、その ENTRY の宣言でパラメーターとして定義されている数より多い。

```
dcl e entry( fixed bin );
call e( 1, 2 );
```

IBM3639I E Excess arguments for BUILTIN name built-in ignored.

説明: 実装されている組み込み関数には、その組み込み関数でサポートされる数より多い数の引数が指定されている。

```
i = acos( j, k );
```

IBM3640I E The attribute attribute is invalid if it is not followed by an element with a greater logical level.

説明: 実装されている属性は、親構造体でのみ有効である。
IBM3641I E Level number following LIKE specification is greater than the level number for the LIKE specification. LIKE attribute is ignored.

説明: LIKE は、親の構造体または共用体では指定できない。

dcl
  1 a like x,
  2 b,
  2 c,

IBM3650I E keyword keyword accepted although invalid under LANGLVL(SAA).

説明: 示されているキーワード (下記の例では UNSIGNED) は、 SAA レベル 1 言語に定義されていない。

dcl x fixed bin unsigned;

IBM3651I E Use of S, D and Q constants accepted although invalid under LANGLVL(SAA).

説明: SAA レベル 1 言語の定義に、S, D, および Q 浮動小数点定数が含まれていない。

IBM3652I E Use of underscores in constants accepted although invalid under LANGLVL(SAA).

説明: SAA レベル 1 言語の定義では、数値定数および 16 進数の中で下線を使用することは許されない。

IBM3653I E Use of asterisks for names in declares accepted although invalid under LANGLVL(SAA).

説明: SAA レベル 1 言語の定義では、構造体エレメント名にアスタリスクを使用することは許されない。

IBM3654I E Use of XN constants accepted although invalid under LANGLVL(SAA).

説明: SAA レベル 1 言語の定義には、XN 定数は含まれない。

IBM3656I E Use of 3 arguments with BUILTIN name built-in accepted although invalid under LANGLVL(SAA).

説明: LANGLVL(SAA) のものでは、VERIFY および INDEX 組み込み関数は、引数を 2 個だけとるものと見なされる。

```sql
i = verify( s, j, k);
```

IBM3657I E Use of 1 argument with BUILTIN name built-in accepted although invalid under LANGLVL(SAA).

説明: LANGLVL(SAA) のものでは、DIM, LBOUND, および HBOUND 組み込み関数は 2 個の引数をとるものと見なされる。

```sql
i = dim( a );
```

IBM3658I E The INCLUDE file filename has been deprecated.

説明: 示された INCLUDE ファイルは、DEPRECATED オプションの INCLUDE サブオプションで指定されたため、このファイルのインクルード試行にはすべてフラグが立てられる。

IBM3750I S note

説明: このメッセージは、%NOTE ステートメントで戻りコード 12 と共に使用される。

IBM3751I S A colon in an EXEC SQL statement must be followed by an identifier that starts a host variable reference.

説明: EXEC SQL ステートメント内のコロンには、ホスト変数参照を続ける必要があり、そのような参照は ID で開始される必要がある。

IBM3752I S Dot-qualified reference implies too many structure levels.

説明: 構造体は最大で 15 の論理レベルに制限されている。そのため、ドット修飾参照は最大で 14 ドットでなければならない (そうでないと、構造体が少なくとも 16 の論理レベルを持っていたことになる)。

第 8 章 MACRO、CICS、および SQL プリプロセッサー・メッセージ (3000 から 3999) 127
IBM3753I S  Length in SQL TYPE IS type name is too large.
説明: BIN の最大長は 255 で、VARBINARY の最大長は 32704 です。BLOB、CLOB、および DBCLOB の最大長については、「プログラミング・ガイド」を参照してください。

IBM3754I S  SQL TYPE IS type name must be followed by an opening left parenthesis.
説明: 正しい構文は、SQL TYPE IS type( length ) である。

IBM3755I S  SQL TYPE IS type name must have an integer specifying its length after the opening left parenthesis.
説明: 正しい構文は、SQL TYPE IS type( length ) である。

IBM3756I S  SQL TYPE IS type name must have a closing right parenthesis after the integer specifying its length.
説明: 正しい構文は、SQL TYPE IS type( length ) である。

IBM3757I S  SQL TYPE IS XML AS type name must be followed by an opening left parenthesis.
説明: 正しい構文は、SQL TYPE IS XML AS type( length ) である。

IBM3758I S  SQL TYPE IS XML AS type name must have an integer specifying its length after the opening left parenthesis.
説明: 正しい構文は、SQL TYPE IS XML AS type( length ) である。

IBM3759I S  SQL TYPE IS XML AS type name must have a closing right parenthesis after the integer specifying its length.
説明: 正しい構文は、SQL TYPE IS XML AS type( length ) である。

IBM3760I S  Too few arguments have been specified for the ENTRY ENTRY name.
説明: 引数の数は、ENTRY 宣言内のパラメーターの数に一致しなければならない。

IBM3761I S  Procedures may not be nested.
説明: マクロ・プロシージャーをネストすることはできない。

IBM3762I S  No percent statements are allowed inside procedures.
説明: プロシージャーの内側では、ステートメントをパーセントで始めてはならない。次の例の %DCL は、DCL にする必要がある。

%a: proc( x ) returns( char );
%dcl x char;
return( '<' || x || '>' );
%end;

IBM3763I S  Not enough virtual memory is available to continue the compile.
説明: コンパイルには使用可能な量より多くの仮想メモリーが必要である。コンパイラ・オプション NOINSOURCE、NOXREF、NOATTRIBUTES、NOAGGREGATE のうちの 1 つ以上を指定すると役立つ場合がある。

IBM3764I S  BUILTIN name argument must be a parameter.
説明: 式には、示されている組み込み関数が入っているが、この関数にはパラメーターでない引数がある。

IBM3765I S  BUILTIN name argument must be a reference.
説明: 式には、示されている組み込み関数が含まれているが、その引数が参照ではない。

IBM3766I S  Aggregate contains more than 15 logical levels.
説明: 可能な最大物理レベルは 255 であるが、最大論理レベルは 15 である。

IBM3767I S  Length in SQL TYPE IS type name must be greater than zero.
説明: BIN、VARBIN、BLOB、CLOB、および DBCLOB タイプの長さは正でなければならない。
IBM3768I S The use of asterisks as subscripts is not permitted in the macro facility.

説明: マクロ機能の場合、すべての添え字がスカラー式でなければならない。

IBM3769I S Argument to BUILTIN name built-in must have type CHARACTER(1) NONVARYING.

説明: これは RANK 組込み関数に適用される。

IBM3770I S First argument to BUILTIN name built-in must be an array.

説明: 式には、示されている組込み関数が含まれているが、その最初の引数が配列ではない。このメッセージは、例えば DIMENSION, HBOUND, および LBOUND 組込み関数に適用される。

IBM3771I S note

説明: このメッセージは DB2 バックエンド・メッセージを報告するために使用され、型コード 12 と共に使用される。

IBM3772I S Third argument to BUILTIN name built-in would force STRINGRANGE.

説明: 組込み関数 INDEX または VERIFY のいずれかに第 3 引数を指定する場合、その引数は正の値でなければならない。

IBM3773I S Second argument to BUILTIN name built-in must be nonnegative.

説明: 組込み関数 CHARACTER, BIT, および GRAPHIC の 2 番目の引数は 0 以上でなければならならない。

IBM3774I S Too few arguments have been specified for the BUILTIN name built-in.

説明: 必要最低数の引数を指定する必要がある。

IBM3775I S Syntax of the %INCLUDE statement is incorrect.

説明: %INCLUDE のあとには、名前とセミコロンか、または括弧で囲んだ 2 番目の名前とセミコロンを指定する必要がある。

IBM3776I S File specification after %INCLUDE is too long.

説明: ファイル指定の最大長は 8 文字である。

IBM3777I S File specification missing after %INCLUDE.

説明: %INCLUDE のあとにはファイル名が必要である。セミコロンだけを指定することはできない。

IBM3778I S Procedures may have no more than 63 parameters.

説明: 余分なパラメーターが proc ステートメントから削除される。

IBM3779I S SQL TYPE IS XML must be followed by the keyword AS.

説明: 正しい構文は、SQL TYPE IS XML AS type( length ) である。

IBM3780I S SQL TYPE IS XML AS must be followed by a valid type name.

説明: 正しい構文は、SQL TYPE IS XML AS type( length ) である。

IBM3781I S SQL TYPE IS TABLE LIKE must be followed by the keyword LIKE.

説明: 正しい構文は、SQL TYPE IS TABLE LIKE table-name AS LOCATOR である。

IBM3782I S SQL TYPE IS TABLE LIKE must be followed by a table name.

説明: 正しい構文は、SQL TYPE IS TABLE LIKE table-name AS LOCATOR である。

IBM3783I S SQL TYPE IS TABLE LIKE must be followed by the keyword AS after the table name.

説明: 正しい構文は、SQL TYPE IS TABLE LIKE table-name AS LOCATOR である。

IBM3784I S SQL TYPE IS TABLE LIKE must be followed by the keyword LOCATOR after the table name.

説明: 正しい構文は、SQL TYPE IS TABLE LIKE table-name AS LOCATOR である。
IBM3788I S SQL TYPE IS must be followed by a valid type name.
説明: キーワード SQL TYPE IS の後には XML などのタイプ名が必要である。

IBM3789I S Index number index number into the variable variable name is less than the lower bound for that dimension.
説明: このようなステートメントを実行すると、記憶保護例外が発生する可能性がきわめて高くなる。

%dcl a(5:10) fixed;
%a(1) = 0;

IBM3790I S Index number index number into the variable variable name is greater than the upper bound for that dimension.
説明: このようなステートメントを実行すると、記憶保護例外が発生する可能性がきわめて高くなる。

%dcl a(5:10) fixed;
%a(20) = 0;

IBM3791I S Each dimension of an array must contain no more than 2147483647 elements.
説明: 配列の DIMENSION 組み込み関数の値を計算できることが必要である。例えば、DECLARE A(x:y) では、(y-x+1) が 214748648 未満であればなりません。

IBM3792I S Array variable name has too many elements. Bounds set to 1.
説明: 配列は、2**20 までのエレメントに制限されている。

IBM3793I S Too few subscripts specified for the variable variable name.
説明: 変数に与えられる添え字の数は、その変数の次元数と同じでなければならない。

IBM3794I S Too many subscripts specified for the variable variable name.
説明: 変数に与えられる添え字の数は、その変数の次元数と同じでなければならない。

IBM3795I S Shift-out code has no closing shift-in code before the right margin.
説明: マージン間の DBCS シフトアウト・コードにはいずれも、対応する DBCS シフトイン・コードが同じマージン間に必要である。

IBM3796I S Array expressions cannot be assigned to non-arrays, and if any target in a multiple assignment is an array, then all the targets must arrays.
説明: 配列式は、構造体やスカラーなどに割り当てることはできない。

IBM3797I S RETURN statement without an expression is invalid inside a PROCEDURE that specified the RETURNS attribute.
説明: 関数内のすべての RETURN ステートメントには、戻される値を指定しなければならない。

IBM3798I S RETURN statement with an expression is invalid inside a PROCEDURE that did not specify the RETURNS attribute.
説明: RETURN(x) の形式のステートメントが有効なのは、RETURNS 属性と共に定義されている PROCEDURE の中で使用する場合のみである。

IBM3799I S The DECLARE statement for the host variable reference is not inside an SQL DECLARE SECTION.
説明: SQL オプションの STDSQL=YES の下では、すべてのホスト変数は SQL BEGIN DECLARE SECTION
IBM3800I S SQL END DECLARE SECTION ステートメントとの間で宣言される必要がある。

IBM3801I S Function function name contains no RETURN statement.
説明: 関数には RETURN ステートメントが少なくとも 1 つは含まれていなければならない。

IBM3801I S Target in assignment is invalid.
説明: 割り当てのターゲットは、文字または固定エレメント参照でなければならない。疑似変数はサポートされない。

IBM3802I S Statement labels may not be used in expressions.
説明: ステートメント・ラベルは、GOTO、LEAVE、および ITERATE ステートメントの中で使用する必要がある。

IBM3803I S Target in concatenate-equals assignment must have type char.
説明: ターゲットが fixed の複合連結割り当てはサポートされない。

```plaintext
%dcl a fixed;
%a = '0';
%a ||= '1';
```

IBM3804I S Target in arithmetic-equals assignment must have type fixed.
説明: ターゲットが文字である複合算術割り当てはサポートされない。

```plaintext
%dcl a char;
%a = '0';
%a += '1';
```

IBM3805I S SQL TYPE IS XML type must be followed by the keyword LARGE.
説明: 正しい構文は、SQL TYPE IS XML AS type LARGE OBJECT( length ) である。

IBM3806I S SQL TYPE IS XML type LARGE must be followed by the keyword OBJECT.
説明: 正しい構文は、SQL TYPE IS XML AS type LARGE OBJECT( length ) である。

IBM3807I S SQL TYPE IS CHARACTER must be followed by the keyword LARGE.
説明: 正しい構文は、SQL TYPE IS CHARACTER LARGE OBJECT( length ) である。

IBM3808I S SQL TYPE IS BINARY must be followed by the keyword LARGE or by a length enclosed in parentheses.
説明: 正しい構文は、SQL TYPE IS BINARY LARGE OBJECT( length ) または SQL TYPE IS BINARY( length ) である。

IBM3809I S SQL TYPE IS type LARGE must be followed by the keyword OBJECT.
説明: 正しい構文は、SQL TYPE IS type LARGE OBJECT( length ) である。

IBM3810I S Statement has too many labels.
説明: ステートメントのラベル数が、コンパイラの限度を超えた。ステートメントのラベル数を減らす必要がある。

IBM3811I S Expression contains too many nested subexpressions.
説明: コンパイラが式を評価するために使用するスペースを使い果たした。式をもっと単純な式に書き直す必要がある。

IBM3812I S Result of concatenating a string of length string length to a string of length string length would produce a string that is too long.
説明: 連結の結果、ストリングの最大許容長を超えるストリング長になってはならない。

IBM3813I S Result of BUILTIN name applied repetition value times to a string of length string length would produce a string that is too long.
説明: COPY および REPEAT の結果、ストリングの最大許容長を超えるストリング長になってはならない。
IBM3814I S Unsupported use of aggregate expression.
説明: 有効な集合式は、組み込み関数 HBOUND または LBOUND の最初の引数に配列名を使用する式だけである。

IBM3815I S Operand in bit operation must have length less than 32768.
説明: ビット演算は、長さが 32767 未満のストリングに制限されている。

IBM3816I S Second and third arguments to the TRANSLATE built-in function must have length less than 32768.
説明: TRANSLATE 組み込み関数は、第 2 引数または第 3 引数が 32767 文字を超えるとサポートされない。

IBM3817I S Result of BUILTIN name would exceed maximum string length.
説明: 組み込み関数 COMMENT または QUOTE の結果は、サポートされている最大長を超える長さのストリングになってはいけない。

IBM3820I S Under the INONLY option, the use of INCLUDE or XINCLUDE as a macro procedure name is invalid unless the colon follows immediately after the name.
説明: INCLUDE または XINCLUDE をマクロ名として使用する必要がある場合は、名前と同じ行にコロンを付ける。

IBM3821I S Under the INONLY option, the use of INCLUDE or XINCLUDE as a macro statement label is invalid unless the colon follows immediately after the name.
説明: INCLUDE または XINCLUDE をマクロ・ステートメント・ラベルとして使用する必要がある場合は、名前と同じ行にコロンを付ける。

IBM3822I S Under the INONLY option, the use of INCLUDE or XINCLUDE as a macro variable that is the target of an assignment is invalid unless the equals sign follows immediately after the name.
説明: INCLUDE または XINCLUDE をマクロ変数名として使用する必要がある場合は、名前と同じ行の割り当て等号を付ける。例えば、次の最初の代入を 2 番目の割り当てに変更する。

```plaintext
%include = 17;
%include = 17;
```

IBM3837I S GOTO target is inside a (different) DO loop.
説明: GOTO のターゲットは DO ループの中にあってはならない。ただし、GOTO 自身が DO ループ内にある場合を除く。

IBM3841I S The INCLUDE file include-file-name could not be opened.
説明: INCLUDE ファイルが見つからなかったか、または検出されてもオープンできなかった。

IBM3842I S Statements are nested too deep.
説明: PROCEDURE、DO、SELECT、および類似のステートメントのネスト数が、コンパイラでサポートされている数より多い。もっと単純になるようにプログラムを書き直す必要がある。

IBM3844I S The function name built-in is not supported.
説明: 示されている組み込み関数に対するサポートは中止された。

IBM3846I S The keyword statement is not supported.
説明: 示されているステートメントに対するサポートは中止された。

IBM3848I S Use of iSUB is not supported.
説明: iSUB は構文検査の中でのみサポートされる。

IBM3853I S Nesting of DO statements exceeds the maximum.
説明: DO ステートメントの最大ネスト深は 100 である。プログラムを単純化する必要がある。

IBM3854I S Nesting of IF statements exceeds the maximum.
説明: IF ステートメントの最大ネスト深は 100 である。プログラムを単純化する必要がある。
IBM3855I S Nesting of SELECT statements exceeds the maximum.

説明: SELECT ステートメントの最大最も深度は 50 である。プログラムを単純化する必要がある。

IBM3856I S Nesting of blocks exceeds the maximum.

説明: ブロックのネスト深度は 30 まででなければならない。

IBM3857I S The FETCH of the CICS backend failed.

説明: CICS モジュールがアクセス可能かどうかを検査し、アクセス可能でなければこのエラーを IBM に報告してください。

IBM3858I S The CICS backend reported an internal error while attempting to perform its initialization.

説明: IBM にこのエラーを報告してください。

IBM3859I S The SQL backend reported an internal error while attempting to perform its initialization.

説明: IBM にこのエラーを報告してください。

IBM3860I S The reference reference could not be resolved.

説明: すべての SQL ホスト変数は現行のブロック・スコープ内で宣言される必要がある。

IBM3861I S The reference reference is ambiguous.

説明: すべての SQL ホスト変数はあいまいさがないものでなければならな。これは十分な構造体修飾子を提供することで修正できる。

IBM3862I S The indicator array reference must have only one dimension.

説明: EXEC SQL ステートメント内の標識配列は一次元であってはならない。

IBM3863I S The indicator array reference must have constant bounds.

説明: EXEC SQL ステートメント内の標識配列は、単にオプションの符号付き整数として指定される境界を持たなければならない。

IBM3864I S The indicator variable reference is used with a structure and hence must be an array.

説明: EXEC SQL ステートメント内の標識変数は、構造体と共に使用する場合は配列でなければならな。

IBM3865I S The host variable host-variable must have only one dimension.

説明: EXEC SQL ステートメント内のホスト変数は多次元であってはならない。

IBM3866I S The host variable host-variable must have constant bounds.

説明: EXEC SQL ステートメント内のホスト変数は、単にオプションの符号付き整数として指定される境界を持たなければならない。
IBM3887I S The host variable host-variable must be CONNECTED.

説明: EXEC SQL ステートメント内のホスト変数は1次元でなければならず、親に DIMACROSS 属性がない限り、その次元を親に指定することはできない。

IBM3888I S The reference host-reference has no corresponding DB2 type.

説明: すべての SQL ホスト変数は、対応する DB2 タイプを持つ必要がある。例えば、FIXED DEC(7,-2) が PL/I 宣言内で有効であれば、DB2 は FIXED DEC(p,q) において、q が非負であり、p より大きくなることを要求するので、対応する DB2 タイプはない。

IBM3889I S The reference host-reference is a union and thus must not be used as a host variable.

説明: すべての SQL ホスト変数は、対応する DB2 タイプを持つ必要がある。共用体に一致するタイプはない。

IBM3890I S The reference host-reference is an array of structures and thus must not be used as a host variable.

説明: 構造体は、配列でない場合にのみホスト変数として使用できる。

IBM3891I S The reference host-reference contains arrays and thus must not be used as a host variable.

説明: 構造体は、配列でない場合にのみホスト変数として使用できる。

IBM3892I S The reference host-reference contains a substructure and thus must not be used as a host variable.

説明: 構造体は、そのメンバーのいずれも構造体でない場合にのみ、ホスト変数として使用できる。

IBM3893I S The reference host-reference contains unnamed elements and thus must not be used as a host variable.

説明: 構造体は、そのメンバーのすべてに名前が付けられている場合にのみ、ホスト変数として使用できる。

IBM3894I S The indicator variable reference must be FIXED BIN(15).

説明: 標識変数は、ネイティブな、実ハーフワード整数でなければならない。

IBM3895I S The indicator variable reference is used with an array and hence must be an array as well.

説明: EXEC SQL ステートメント内の標識変数は、配列と共に使用する場合は配列でなければならない。

IBM3909I S The attribute attribute conflicts with the attribute attribute.

説明: 定義されている属性 (例えば PARAMETER と INITIAL) は、同時に指定できない。

IBM3911I S The statement label character has already been declared.

説明: ブロック内ではすべてのステートメント・ラベルは、固有のものでなければならない。

IBM3914I S GOTO target must be a LABEL reference.

説明: GOTO x の x は LABEL 型でなければならない。x の型は FORMAT であってはならない。

IBM3915I S GOTO target must be a scalar.

説明: GOTO x の x は配列でない必要がある。

IBM3916I S The procedure proc-name has already been defined.

説明: 姉妹プロシージャーは、同じ名前を持つことはできない。

IBM3917I S Program contains no valid source lines.

説明: ソースにまったくステートメントが含まれていないか、または含まれているステートメントがすべて無効である。
IBM3920I S FIXED BINARY constant contains too many digits.
説明: FIXED BINARY 定数に含まれる桁数は、31 桁以下でなければならない。

IBM3921I S FIXED DECIMAL constant contains too many significant digits.
説明: FIXED DECIMAL 定数の最大精度は、LIMITS コンパイラ・オプションの FIXEDDEC サブオプションで設定する。

IBM3922I S Exponent in FLOAT BINARY constant contains more digits than the implementation maximum.
説明: FLOAT BINARY 定数の指数に 5 桁を超える値を含めることはできない。

IBM3923I S Mantissa in FLOAT BINARY constant contains more significant digits than the implementation maximum.
説明: FLOAT BINARY 定数の仮数に 64 桁を超える値を含めることはできない。

IBM3924I S Exponent in FLOAT DECIMAL constant contains more digits than the implementation maximum.
説明: FLOAT BINARY 定数の指数に 4 桁を超える値を含めることはできない。

IBM3925I S Mantissa in FLOAT DECIMAL constant contains more significant digits than the implementation maximum.
説明: FLOAT BINARY 定数的小数部に 18 桁を超える値を含めることはできない。

IBM3926I S Constants must not exceed 30720 bytes.
説明: ユーザー・プログラムで定数を示すために使用するバイト数は、30720 を超えてはならない。この制限は、内部表記が外部表記の 8 分の 1 のバイト数しか消費しないビット・ストリングにも適用される。

IBM3927I S Numeric constants must be real, unscaled and fixed.
説明: 複素定数、スケール定数、または浮動小数点定数は、整数値に変換される。

IBM3928I S Only B, BX and X string suffixes are supported.

IBM3929I S EXEC SQL statements must be in a PROCEDURE.
説明: EXEC SQL ステートメントは PACKAGE レベルでは許可されない。

IBM3930I S Invalid syntax in statement-form of procedure invocation. Text up to next semicolon will be ignored.
説明: ステートメント形式のプロシージャーの呼び出しの場合は、コメントまたはキー名の一部ではない文字はすべて、1 つのキーの後ろに括弧で閉む必要がある。例えば、次の display ステートメントの "+" は存在してはならない。

IBM3931I S Under the FIXED(DEC) option, decimal constants must have no more than 5 digits.
説明: FIXED(BIN) を指定した場合は、任意の有効な FIXED BIN(31) 数を示す 10 進定数がサポートされる。

IBM3934I S EXEC SQL INCLUDE statement has incorrect syntax.
説明: EXEC SQL INCLUDE の後には、1 つの ID と、続いてセミコロンが必要である。
IBM3935I S The FETCH of the SQL backend failed.

説明：SQLモジュールがアクセス可能であるかどうかを確認し、アクセス可能でなければこのエラーをIBMに報告する。

IBM3936I S The SQL backend must be from DB2 V9 or later.

説明：より新しいレベルのDB2に切り替える。

IBM3937I S The EXEC SQL statement is too long.

説明：EXEC SQLステートメントは500Kバイト未満でなければならない。

IBM3938I S The EXEC SQL statement has too many host variables

説明：EXEC SQLステートメントが使用するホスト変数は、1500以内でなければならない。

IBM3939I S The DBNAME option must specify a valid database name.

説明：SQLプリプロセッサーをWindowsまたはAIX上で呼び出す場合、DBNAMEオプションを指定する必要があり、そのオプションは有効なデータベース名を指定する必要がある。

IBM3940I S ITERATE is valid only for iterative DO-groups.

説明：ITERATEは型1のDOグループの中では使用できない。

IBM3941I S RETURN statement outside of a PROCEDURE is invalid.

説明：RETURNステートメントは、プロシージャー内部でのみ有効である。

IBM3942I S INCLUDE statement inside of a PROCEDURE is invalid.

説明：INCLUDEステートメントは、プリプロセッサー・プロシージャーの外部でのみ許可される。

```pli
%a: proc( b, c, b );
```

IBM3943I S Length of parameter exceeds 32767 bytes.

説明：マクロ・プロシージャーに対するパラメーターの長さは、32767バイトを超えてはならない。

IBM3944I S Length of parameter exceeds 32767 bytes.

説明：式が評価された結果、示されている条件が発生した。

```pli
%a = a / 0;
```

IBM3948I S Parameter name identifier appears more than once in parameter list.

説明：パラメーター・リスト内のIDはどれも固有のものでなければならない。

IBM3949I S Parameter name identifier appears more than once in parameter list.

説明：コメント終了マーカーが欠落している可能性がある。

IBM3950I S Parameter name identifier appears more than once in parameter list.

説明：右引用符が欠落している可能性がある。

IBM3951I S Parameter name identifier appears more than once in parameter list.

説明：コメント終了マーカーが欠落している可能性がある。

```pli
%a: proc;
    include sample;
%end;
```
IBM3963I S Replacement value contains no end-of-string delimiter. A string delimiter will be assumed at the end of the replacement value.

説明: 右引用符が欠落している可能性がある。

IBM3964I S ANSWER statement outside of a PROCEDURE is invalid.

説明: ANSWER ステートメントは、プロシージャー内部でのみ有効である。

IBM3965I S ANSWER statement inside of a PROCEDURE with RETURNS is invalid.

説明: ANSWER ステートメントは、関数の内部では無効である。

```
%a: proc returns( char );
   answer( 'this is invalid' );
   return( 'this is ok however' );
%end;

%b: proc;
   answer( 'this is valid' );
%end;
```

IBM3966I S Source has caused too many rescans.

説明: 置き換えストリングの再スキャンや、プリプロセッサーから戻されたストリングの再スキャンにより、さらに置き換えが引き起こされ、その結果再スキャンが行われるなどして、再スキャンの最大深さを超えた。例えば次のマクロは、コンパイル中の dcl ステートメントの数をカウントすることを目的としているが、実行するとこのメッセージが出される。%ACTIVATE ステートメントに NORESCAN を指定した場合は、このマクロは正しく機能する。

```
%dcl dcl_Count fixed;
%dcl_Count = 0;

%dcl: proc returns( char );
   dcl_count = dcl_count + 1;
   return( 'dcl' );
%end;

%activate dcl;
```

IBM3967I S Every shift-in character after the left margin of a source line must have a matching shift-out character before the right margin of the same line.

説明: DBCS シフト・コードは対になっている必要がある。

IBM3971I S DBCS characters are allowed only in G and M constants.

説明: 16 進ストリング (接尾部 X、BX、B4、GX、XN のいずれかで終わっているストリング)、ビット・ストリング (接尾部 B で終わっているストリング)、および接尾部 M で終わっていない文字ストリングには、SBCS 文字以外の文字を含めることはできない。

IBM3977I S SBCS characters are not allowed in G constants.

説明: SBCS と DBCS の混在が許されるのは M 定数の中だけである。

IBM3978I S Invalid use of SBCS encoded as DBCS.

説明: コメント以外では、SBCS を DBCS としてエンコードできるのは ID の一部として使用する場合だけである。

IBM3980I S Recursion of procedures is not allowed.

説明: プロシージャーは、直接的にも間接的にもそれぞれ体を呼び出してはならない。

IBM3981I S BUILTIN function may not be used outside a procedure.

説明: 定義されている組み込み関数はプロシージャーの中ではしか使用できない。

IBM3982I S Procedure procedure-name is undefined and cannot be invoked.

説明: プロシージャーは、あらかじめ (正しく) 定義しておかなければ呼び出すことができない。
IBM3983I S Premature end-of-source in scan.
説明: 右括弧またはセミコロンが要求された場合、ソースは走査の途中で終了される。

```pli
  %a: proc() stmt returns( char );
     return( '1729' );
  %end;
  %dcl a entry;

  a /* and no more source follows */
```

IBM3984I S File filename could not be opened.
説明: 示されているソース・ファイルがオープンできなかった。ファイルの名前が正しく、そして、そのファイルが存在し読み取り可能であることを確認する必要がある。

IBM3997I S Internal preprocessor error: no WHEN clause satisfied within module name
説明: このメッセージは、マクロ・プリプロセッサーに関してエラーがあることを示している。IBM に問題を報告してください。

IBM3998I S Internal preprocessor error: protection exception in module name
説明: このメッセージは、コンパイラーのフロントエンジにエラーがあることを示している。IBM に問題を報告してください。

IBM3999I U note
説明: このメッセージは、%NOTE ステートメントで戻りコード 16 と共に使用される。
第 9 章 コード生成メッセージ (5000 から 5999)

IBM5001 INTERNAL COMPILER ERROR: text
説明: コンパイアル中に内部コンパイラー・エラーが発生した。
サービス担当者に連絡してください。

IBM5002 Virtual storage exceeded.
説明: ファイルのコンパイル中に、コンパイラーがメモリ不足になった。大きなファイル、または大きな関数を使用するプログラムでは、この問題が発生する場合がある。非常に大きなプログラムの場合、実行できる最適化の量が制限されることに注意する。
実行中の大規模なプロセスをシャットダウンし、スワップ・バスが十分に大きいことを確認して、最適化はオフにし、仮想記憶域をより大きなサイズに再定義する。また、ファイルをいくつかの小さなセクションに分割したり、関数を短縮したりすることもできる。

IBM5003 text
説明: 一般エラー・メッセージ。

IBM5004 Unable to open file filename.
説明: コンパイラーは示されているファイルをオープンできない。
ファイル名が正しいことを確認する。正しいファイルが指定されていることを確認する。ファイルが LAN ドライプ上にある場合は、LAN が正しく機能していることを確認する。また、ファイルが別のプロセスによってロックされているか、許可が十分でないためにアクセスが拒否された可能性もある。

IBM5005 An error occurred while reading file filename.
説明: 示されているファイルからの読み取り中にコンパイラーがエラーを検出した。
正しいファイルが読み取られていて、ファイルに損傷がないことを確認する。ファイルが LAN ドライプ上にある場合は、LAN が正しく機能していることを確認する。

IBM5006 An error occurred while writing to file filename.
説明: 示されているファイルへの書き込み中にコンパイラーがエラーを検出した。
正しいファイルが指定されていることを確認する。ファイルが LAN ドライプ上にある場合は、LAN が正しく機能していることを確認する。

IBM5007 Read-only pointer initialization of dynamically allocated object name is not valid.
説明: 読み取り専用ポインタの値は、コンパイル時に既知でなければならない。ポインタは、読み取り専用であると同時に、動的に割り振られたオブジェクトを指してはならない。これは、ポイント先のアドレスが実行時にしか分からないためである。
コードを変更して、ポインタが読み取り専用の値によって初期化されるようにするか、ポインタを読み取り書き込みにする。

IBM5008 Function function-name exceeds size limit.
説明: 関数の ACU が、INLINE サブオプションに指定された LIMIT を超えた。
可能ならば、LIMIT を増やす。

IBM5009 Function function-name is (or grows) too large to be inlined.
説明: 関数が大きすぎて、インライン展開によって別の関数にすることができない。

IBM5010 Some calls to function function-name cannot be inlined.
説明: 少なくとも 1 つの呼び出しが直接再帰的であるか、間違った数のパラメーターが指定されている。
指定したすべての関数呼び出しを検査し、パラメーター数が関数定義に一致していることを確認する。

IBM5011 Automatic storage for function function-name increased to over value.
説明: インライン展開のために、関数用の自動ストレージのサイズが少なくとも 4 KB 増加した。
大きな自動ストレージを使用する関数のインライン展開は避ける。

© Copyright IBM Corp. 1999, 2011
<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM5055</th>
<th>Parameter area overflow while compiling function-name. Parameter area size exceeds the allowable limit of value.</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>説明:</td>
<td>関数のパラメーター域は、関数用の自動ストレージ内で最初の 4K にある。このメッセージは、パラメーター域が 4K に収まらないことを示している。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>渡すパラメーターの数を減らすか、大きな構造体そのものの代わりに構造体のアドレスを渡すことによって、パラメーター域のサイズを削減する。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM5057</th>
<th>name section size cannot exceed 16777215 bytes. Total section size is value bytes.</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>説明:</td>
<td>Data セクションまたは Code セクションのサイズは、16M を超えてはならない。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>入力ソース・ファイルを、別個にコンパイルできる複数のソース・ファイルに分割する。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM5101</th>
<th>Maximum spill size of value is exceeded in function function-name.</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>説明:</td>
<td>予備サイズは、予備域のサイズである。予備域は、マシン・レジスターの数がプログラムの変換に十分でない場合に割り振られるストレージである。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>プログラムの複雑さを軽減して再コンパイルする。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM5102</th>
<th>Spill size for function function-name is not sufficient. Recompile specifying option SPILL(n) where lower-limit &lt; n &lt;= upper-limit.</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>説明:</td>
<td>予備サイズは、予備域のサイズである。予備域は、マシン・レジスターの数がプログラムの変換に十分でない場合に割り振られるストレージである。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>SPILL(n) オプション lower-limit &lt; n &lt;= upper-limit を使用するか、別の OPT レベルを指定して再コンパイルする。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM5103</th>
<th>Internal error while compiling function function-name text.</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>説明:</td>
<td>コンパイル中に内部コンパイラ・エラーが発生した。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>サービス技術員に連絡するか、別の OPT レベルを指定してコンパイルする。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM5104</th>
<th>Internal error while compiling function function-name text. Compilation terminated.</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>説明:</td>
<td>重大度の高い内部コンパイラ・エラーが発生した。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>サービス担当者に連絡してください。このメッセージのテキストを伝えられるように準備してください。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM5105</th>
<th>Constant table overflow compiling function function-name. Compilation terminated.</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>説明:</td>
<td>定数テーブルは、整数と浮動小数点の定数をすべて保管するテーブルである。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>プログラム内の定数の数を減らして再コンパイルする。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM5106</th>
<th>Instruction in function function-name on line value is too complex. Compilation terminated.</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>説明:</td>
<td>示されている命令が複雑すぎて最適化できない。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>命令の複雑さを軽減して再コンパイルするか、別の OPT レベルを指定して再コンパイルする。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM5107</th>
<th>Program too complex in function function-name.</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>説明:</td>
<td>示されている関数が複雑すぎて最適化できない。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>プログラムの複雑さを軽減して再コンパイルするか、別の OPT レベルを指定して再コンパイルする。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM5108</th>
<th>Expression too complex in function function-name. 一部の最適化が実行されなかった。</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>説明:</td>
<td>示されている式が複雑すぎて最適化できない。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>式の複雑さを軽減するか、別の OPT レベルを指定してコンパイルする。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM5109</th>
<th>Infinite loop detected in function function-name. Program may not stop.</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>説明:</td>
<td>所定の関数で無限の可能性があるループが検出されたので、コードを変更する必要がある。ただし、コンパイラはコードに問題がない場合でもこのメッセージを発行することがある。例えば、ループが ON ユニットから GOTO を介して終了した場合、コードを変更する必要がなくてもコンパイラはこのメッセージを発行することがある。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>ループが終了するように再コーディングする。</td>
</tr>
<tr>
<td>IBM5110</td>
<td>Loop too complex in function</td>
</tr>
<tr>
<td>----------</td>
<td>-----------------------------</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td><em>function-name.</em> 一部の最適化が実行されなかった。</td>
</tr>
<tr>
<td>説明:</td>
<td>示されているループが複雑すぎて最適化できない。</td>
</tr>
<tr>
<td>アクションは必要です。</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM5111</th>
<th>Division by zero detected in function</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td><em>function-name.</em> Runtime exception may occur.</td>
</tr>
<tr>
<td>説明:</td>
<td>示されている関数内でゼロ除算が検出された。</td>
</tr>
<tr>
<td>式を再コーディングしてゼロ除算を除去する。</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM5112</th>
<th>Exponent is non-positive with zero as base in function</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td><em>function-name.</em> Runtime exception may occur.</td>
</tr>
<tr>
<td>説明:</td>
<td>浮動小数点のゼロ除算が行われる可能性がある。</td>
</tr>
<tr>
<td>式を再コーディングしてゼロ除算を除去する。</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM5113</th>
<th>Unsigned division by zero detected in function</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td><em>function-name.</em> Runtime exception may occur.</td>
</tr>
<tr>
<td>説明:</td>
<td>示されている関数内でゼロ除算が検出された。</td>
</tr>
<tr>
<td>式を再コーディングしてゼロ除算を除去する。</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM5114</th>
<th>Internal error while compiling function</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td><em>function-name</em> text.</td>
</tr>
<tr>
<td>説明:</td>
<td>重大な問題の内部コンパイラ・エラーが発生した。</td>
</tr>
<tr>
<td>サービス技術員に連絡するか、別の OPT レベルを指定してコンパイルする。</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM5115</th>
<th>Control flow too complex in function</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td><em>function-name</em>; number of basic blocks or edges exceeds value.</td>
</tr>
<tr>
<td>説明:</td>
<td>基本ブロックは、制御フローのない実行可能コードのセグメントである。エッジは、基本ブロック間での可能な制御フローのパスである。</td>
</tr>
<tr>
<td>プログラムの複雑さを軽減して再コンパイルする。</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM5116</th>
<th>Too many expressions in function</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td><em>function-name</em>; number of symbolic registers exceeds value.</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM5117</th>
<th>Too many expressions in function</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td><em>function-name</em>; number of computation table entries exceeds value.</td>
</tr>
<tr>
<td>説明:</td>
<td>計算テーブルは、プログラムの変換によって生成された命令すべてを収容するテーブルである。</td>
</tr>
<tr>
<td>プログラムの複雑さを軽減して再コンパイルする。</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM5118</th>
<th>Too many instructions in function</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td><em>function-name</em>; number of procedure list entries exceeds value.</td>
</tr>
<tr>
<td>説明:</td>
<td>プログラムの実行パスが変更される可能性がある場合に必ず使用される (例: if ステートメント、switch ステートメント、ループ、条件式)。</td>
</tr>
<tr>
<td>プログラムの複雑さを軽減して再コンパイルする。</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM5119</th>
<th>Number of labels in function</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td><em>function-name</em> exceeds value.</td>
</tr>
<tr>
<td>説明:</td>
<td>ラベルは、プログラムの実行パスが変更される可能性がある場合に必ず使用される (例: if ステートメント、switch ステートメント、ループ、条件式)。</td>
</tr>
<tr>
<td>プログラムの複雑さを軽減して再コンパイルする。</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM5120</th>
<th>Too many symbols in function</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td><em>function-name</em>; number of dictionary entries exceeds value.</td>
</tr>
<tr>
<td>説明:</td>
<td>ディクショナリー・エントリーは、変数、集合体メンバーや、ストリング・リテラル、ポインタ参照解除、関数名、および内部コンパイラ・シンボルに対し</td>
</tr>
<tr>
<td>て使用される。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>低い最適化レベルでプログラムをコンパイルするか、変数または式の数を減らしてプログラムを単純化する。</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>IBM5121</th>
<th>Program is too complex in function</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td><em>function-name</em>. Specify MAXMEM option value greater than value.</td>
</tr>
<tr>
<td>説明:</td>
<td>一部の最適化が実行されなかった。</td>
</tr>
<tr>
<td>さらに最適化を行うには、推奨値を使用してオプション MAXMEM を指定し、再コンパイルする。</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
IBM5122  Parameter area overflow while compiling
name. Parameter area size exceeds value.

説明: パラメーター域は、関数呼び出しの際にパラメータを渡すために使用される。そのサイズは、参照パラメーターの数、値パラメーターの数とサイズ、および使用されるリンクージによって異なる。

渡すパラメーターの数を減らすか、大きな構造体そのものの代わりに構造体のアドレスを渡すことによって、パラメーター域のサイズを削減する。

IBM5123  Spill size for function function-name is exceeded. Recompile specifying option
SPILL(n) where lower-limit < n <= upper-limit for faster spill code.

説明: 予備サイズは、1次予備域の予約サイズである。予備域は、マシン・レジスターの数やプログラムの変換に十分でない場合に割り振られるストレージである。

予備コードの生成を改良するには、SPILL(n) オプションに lower-limit < n <= upper-limit を指定して再コンパイルする。

IBM5130  An error occurred while opening file
filename.

説明: コンパイラは示されているファイルをオープンできない。

ファイル名が正しいことを確認する。正しいファイルがオープンされていて、ファイルに損傷がないことを確認する。ファイルが LAN ドライブ上にある場合は、LAN が正しく機能していることを確認する。また、ファイルが別のプロセスによってロックされているか、許可が十分でないためにアクセスが拒否された可能性もある。

IBM5131  An error occurred while writing file
filename.

説明: コンパイラは示されているファイルを読み取ることができない。

ファイル名が正しいことを確認する。書き込み先のファイルが正しく、ファイルに損傷がないことを確認する。ファイルが LAN ドライブ上にある場合は、LAN が正しく機能していることを確認する。また、ファイルが別のプロセスによってロックされているか、許可が十分でないためにアクセスが拒否された可能性もある。
第 10 章 条件コード

条件コード 1 から 500 .......................... 143  条件コード 2001 から 2500 .......................... 162
条件コード 501 から 1000 .......................... 149  条件コード 3000 から 4000 .......................... 164
条件コード 1001 から 1499 .......................... 153  条件コード 4001 から 9999 .......................... 166
条件コード 1500 から 2000 .......................... 154

この章に示す条件コードは、すべてのインプリメンテーションによって生成される条件コードを集約したものですが、プラットフォームによっては、生成されない条件コードもあります。

次に、すべての条件コードの要約番号順に示します。

条件コード 1 から 500

3  この条件は、SELECT グループ内で WHEN 文節が選択されておらず、かつ OTHERWISE 文節が存在しない場合に発生する。

4  SIGNAL FINISH、または STOP ステートメントが実行された。

9  SIGNAL ERROR ステートメントが実行された。

10  SIGNAL NAME ステートメントが実行された。

20  SIGNAL RECORD ステートメントが実行された。

21  レコード変数がレコード・サイズより小さい、次のいずれか。
   • レコードが READ INTO ステートメント内の変数より大きい。レコードの残りは失われる。
   • 固定長レコードのあるファイルに対して指定されたレコード長が、WRITE、REWRITE、または LOCATE ステートメント内の変数より大きい。レコードの残りは定義されない。変数が可変長ストリングである場合は、ファイルに SCALARVARYING オプションが適用されていれば、RECORD は発生しない。

22  レコード変数がレコード・サイズより大きい、次のいずれか。
   • 固定長レコードのあるファイルに対して指定されたレコード長が、READ INTO ステートメント内の変数より小さい。変数の残りは定義されない。変数が可変長ストリングである場合は、ファイルに SCALARVARYING オプションが適用されていれば、RECORD は発生しない。
   • 最大レコード長が、WRITE、REWRITE、または LOCATE ステートメント内の変数より小さい。WRITE または REWRITE の場合、変数の残りは失われる。LOCATE の場合、変数は伝送されない。
   • WRITE または REWRITE ステートメント内の変数が長さ 0 を指示している。伝送は行われない。変数が可変長ストリングである場合は、ファイルに SCALARVARYING オプションが適用されていれば、RECORD は発生しない。
条件コード

レコード変数の長さが 0 であるか、組み込みキーを保管するには短すぎる。

WRITE または REWRITE ステートメント内の変数が短すぎて、データ・セット組み込みキーを保管できない。伝送は行われない。（現在のところ、このケースは索引キー順データ・セットにだけ該当する。）

長さ 0 のレコードが REGIONAL データ・セットから読み取られた。

SIGNAL TRANSMIT ステートメントが実行された。

出力データ・セットに訂正不能の伝送エラーが発生した。

入力データ・セットに訂正不能の伝送エラーが発生した。

索引セットへの出力に訂正不能の伝送エラーが発生した。

索引セットからの入力に訂正不能の伝送エラーが発生した。

索引連続データ・セットへの出力に訂正不能の伝送エラーが発生した。

連続データ・セットからの入力に訂正不能の伝送エラーが発生した。

SIGNAL KEY ステートメントが実行された。

指定されたキーが検出できない。

データ・セット内に既に存在するレコードと同じキーを指定したキー付きレコードを追加しようとした。または、REGIONAL(1) データ・セット内で、既にレコードが入っている領域に書き込もうとした。

INDEXED または REGIONAL データ・セットの順次生成中に、KEYFROM オプションに指定された式の値が、以前に指定されたキーまたは領域番号の値より小さい。

キー変換エラー。領域番号が数字でないことが原因である可能性がある。

キーの指定がヌル・ストリングであるか (8)’1’B で始まっている。あるいは INDEXED またはキー順データ・セットの順次 REWRITE[FROM] に対して、組み込みキーの変更が行われた。

データ・セットの限界を超えるキーを使用して、レコードにアクセスしようとした。

INDEXED 拡大にキー付きレコードを追加するために使用できるスペースがない。

追加するレコードのキーが、データ・セットに対して指定された範囲の外にある。

SIGNAL ENDFILE ステートメントが実行された。

SIGNAL UNDEFINEDFILE ステートメントが実行された。

オープン時に、DECLARE ステートメント内の属性と、明示または暗黙の OPEN ステートメント内の属性との間で、ファイル属性の矛盾が生じた。

ファイル属性とデータ・セットの物理編成（例えば、ファイル編成と装置タイプ）の間に矛盾が生じた、または索引付けデータ・セットがロードされていない。

ENVIRONMENT オプションを DD ステートメントとデータ・セット・ラ
条件コード

ベルにマージした後、データ・セットの指定が不完全である。例えば、ブロックサイズやレコード・フォーマットが指定されていない。

ファイルをデータ・セットと関連付ける DD ステートメントがない。

REGIONAL データ・セットと関連付けられた DIRECT OUTPUT ファイルの初期化中に、入出力エラーが発生した。

LINESIZE がインプリメンテーション定義の最大値より大きい、または ENVIRONMENT オプションに無効値がある。

ENVIRONMENT オプションを DD ステートメントとデータ・セット・ラベルにマージした後、データ・セットの指定に矛盾が生じた。

LRECL、BLKSIZE、または RECSIZE の値が互いに非互換、または指定された DCB FUNCTION に対して非互換である。

パスワードが無効、または指定されていない。

SIGNAL ENDPAGE ステートメントが実行された。

索引付きデータ・セットへアクセスするファイルのための ENVIRONMENT オプションが無効である。

要約されたデータ・セットが使用できなかった。

データ・セットのオープン中に、オペレーティング・システムによってエラーが検出した。

サブコード 1 | 意味
--- | ---
50 | 入力の際に、存在しない ISAM ファイルがオープンされていない。
51 | ISAM ファイルをオープンするときに予期しないエラーが発生した。サブコード 2 で ISAM から戻りコードが渡される。
52, 53 | ネイティブのファイルまたは REGIONAL(1) ファイルをオープンするときに予期しないエラーが発生した。
54 | 入力の際に、存在しない BTRIEVE ファイルがオープンされている。
55 | BTRIEVE ファイルをオープンするときに予期しないエラーが発生した。サブコード 2 で BTRIEVE から戻りコードが渡される。
56 | DDM ファイルをオープンするときに予期しないエラーが発生した。
57, 58 | DDM 順次ファイル、DDM 相対ファイル、または DDM 索引付きファイルをオープンするときに予期しないエラーが発生した。サブコード 2 で DDM から戻りコードが渡される。
59 | 既にオープンされているファイルをオープンしようとした。
条件コード

60 無効なタイプのファイルがオープンされている。例えば、z/OS UNIX システム・サービスのもとで VSAM ファイルがオープンされている。VSAM ファイルは z/OS UNIX システム・サービスのもとではサポートされない。

66 VSAM ファイルのオープンが失敗した。サブコード 2 でフィードバック・コードが渡される。

76 SFS ファイルのオープンの再試行が失敗した。

79 入力または更新の際にオープンする SFS ファイルが見つからなかった。

119 ファイルの動的割り振り処理中に予期しないエラーが発生した。

120 ファイルの動的割り振り処理中に構文解析エラーが発生した。

121 ファイルの動的割り振り処理中に予期しない関数が検出された。

122 ファイルの動的割り振り処理中にサポートされないファイル・モードが検出された。

123 ファイルの動的割り振り処理中に DDNAME が見つからなかった。

94 再使用不可のデータ・セットに対して REUSE が指定された。

95 索引データ・セットに対して指定されている代替索引が空である。

96 環境変数に誤りがある。

99 ファイルをオープンできない。

サブコード | 意味
--- | ---
1 または 2 | 既存の REGIONAL(1) ファイルの拡張属性 (EA) が見つからず、ENVIRONMENT オプション、または SET DD オプションによって RECCOUNT または RECSIZE の値が指定されていない。
3 | 順次出力ファイルの位置決めエラーが発生した。
4 | ネイティブ・ファイルに対して TYPE (FIXED) が指定されたが、ファイル・サイズが RECSIZE の倍数ではなかった。
5 または 13 | REGIONAL(1) ファイルの位置決めエラーが発生した。
6-12 | 出力ファイルの位置決めエラーが発生した。
21 から 23 | ファイルに対する SET DD ステートメントに AMTHD/DDM) が指定されたが、DDM DDL (DUBRUN および DUBLDM) が見つからなかった、またはアクセスできなかった。
24 | DDM ファイルの拡張属性が誤っている。
条件コード

25  ENVIRONMENT 属性の ORGANIZATION オプションが、データ・セットのタイプ (DDM またはネイティブ) と矛盾する。

26  ファイルの使用方法に関して矛盾が生じている。

27  キー順オープンで複合キーが検出された。

28 から 30  新規 DDM ファイルを作成できなかった。

31  DDM ファイルの位置決めエラーが発生した。

35  DD 環境変数で AMTHD(BTRIEVE) が指定されたが、BTRIEVE ロード可能コンポーネント (BTRCALLS) が見つからなかった、またはシステム上でアクセスできなかった。

36  BTRIEVE ファイルをオープンするときに予期しないエラーが発生した。

37  新規 BTRIEVE ファイルを作成できなかった。

38  BTRIEVE ファイルの位置決めエラーが発生した。

40  DD 環境変数で AMTHD(ISAM) が指定されたが、ISAM 非マルチスレッド・ロード可能コンポーネント (IBMWS20F および IBMWS20G) または ISAM マルチスレッド・ロード可能コンポーネント (IBMWM20F および IBMWM20G) が見つからなかった、またはシステム上でアクセスできなかった。

41  ISAM ファイルをオープンするときに予期しないエラーが発生した。

42  新規 ISAM ファイルを作成できなかった。

43  ISAM ファイルの位置決めエラーが発生した。

60  無効なタイプのファイルがオープンされている。例えば、z/OS UNIX システム・サービスのもとで VSAM ファイルがオープンされている。VSAM ファイルは z/OS UNIX システム・サービスのもとではサポートされない。

62  MVS バッチ環境で、VSAM ファイルに関するファイル情報の照会が失敗した。

63  MVS バッチ環境で、VSAM 以外のファイルが VSAM ファイルとしてオープンされている。

64  VSAM ファイルが無効なタイプを指定してオープンされている (つまり、ファイルが KSDS、ESDS、または RRDS ファイルでない)。

65  VSAM ファイルが非 MVS バッチ環境でオープンされている。VSAM ファイルは、MVS バッチ環境でだけサポートされる。

66  VSAM ファイルのオープンが失敗した。サブコード 2 でフィードバック・コードが渡される。
条件コード

67 MVS バッチ環境で、VSAM ファイルが VSAM 以外のファイルとしてオープンされている。

68 無効な VSAM ファイルがオープンされている。

69 MVS バッチ環境で、ネイティブ・ファイルに関するファイル情報の照会が失敗した。

70 VSAM ファイルの位置決めが失敗した。

71 VSAM ファイルが非 MVS バッチ環境でオープンされている。

72 無効な PL/I ファイルがオープンされている。

73 SFS ライブラリーをロードできない。

74 DCE ライブラリーをロードできない。

75 新規 SFS ファイルを作成できない。

77 SFS ファイルの位置決めが失敗した。

78 その行より下に十分なストレージがない。

80 更新の際に空の VSAM ファイルをオープンしたので処理エラーが発生した。オノ・コード 82 が発行されていなければならない。

110 ファイルの動的割り振り処理中に、指定されたデータ・セットまたはバス名が見つからなかった。

111 ファイルの動的割り振り処理時、環境変数ストリングに無効なキーワードが検出された。

112 ファイルの動的割り振り処理中に、競合するキーワードが検出された。

113 ファイルの動的割り振り処理中に、不適切な区切り文字が検出された。

115 環境変数の DSN パラメーターが一時データ・セット名を指定したが、これは動的割り振りではサポートされない。

116 環境変数の PATH パラメーターが、絶対バス名を指定しなかった。

117 環境変数の DSN キーワードに指定されたデータ・セット名が無効だった。

118 環境変数の DSN キーワードに指定されたメンバー名が無効だった。

119 環境変数の PATH キーワードに指定されたパス名が無効だった。

120 DD 名に関連付けられたファイルの動的割り振りフェーズ中に、エラーが発生した。

121 DD 名に関連付けられたファイルの動的割り振り解除をしようとした時に、エラーが発生した。

150 SIGNAL STRINGSIZE ステートメントが実行され、または STRINGSIZE 条件が発生した。

151 混合文字ストリングの割り当て中に切り捨てが行われた。

290 SIGNAL INVALIDOP ステートメントが実行された、または INVALIDOP 例外が発生した。
条件コード

<table>
<thead>
<tr>
<th>コード</th>
<th>タイトル</th>
<th>設定</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>300</td>
<td>SIGNAL OVERFLOW</td>
<td>ステートメントが実行された、または OVERFLOW 条件が発生した。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>310</td>
<td>SIGNAL FIXEDOVERFLOW</td>
<td>ステートメントが実行された、または FIXEDOVERFLOW 条件が発生した。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>320</td>
<td>SIGNAL ZERODIVIDE</td>
<td>ステートメントが実行された、または ZERODIVIDE 条件が発生した。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>330</td>
<td>SIGNAL UNDERFLOW</td>
<td>ステートメントが実行された、または UNDERFLOW 条件が発生した。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>340</td>
<td>SIGNAL SIZE</td>
<td>ステートメントが実行された。または、変数または一時変数への割り当ての際に高位のゼロ以外の数字が失われたか、入出力操作中に有効数字が失われた。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>341</td>
<td></td>
<td>入出力操作中に高位のゼロ以外の数字が失われた。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>350</td>
<td>SIGNAL STRINGRANGE</td>
<td>ステートメントが実行された、または STRINGRANGE 条件が発生した。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>360</td>
<td></td>
<td>割り振りを行うためのフリー・ストレージが不足しているエリア内で、基底付き変数を割り振ろうとした。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>361</td>
<td></td>
<td>ソース・エリアを割り当てるためのスペースがターゲット・エリアに不足している。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>362</td>
<td>SIGNAL AREA</td>
<td>ステートメントが実行された。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>400</td>
<td>SIGNAL ATTENTION</td>
<td>ステートメントが実行された。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>450</td>
<td>SIGNAL STORAGE</td>
<td>ステートメントが実行された。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>451</td>
<td>ALLOCATE</td>
<td>ステートメントまたは ALLOCATE 組み込み関数が失敗した。要求を満たすためのストレージが不足している。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>500</td>
<td>SIGNAL CONDITION (name)</td>
<td>ステートメントが実行された。</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

条件コード 501 から 1000

<table>
<thead>
<tr>
<th>コード</th>
<th>タイトル</th>
<th>設定</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>520</td>
<td>SIGNAL SUBSCRIPTRANGE</td>
<td>ステートメントが実行された。または、添字を評価した結果、添字が指定された境界の外にあることが判明した。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>600</td>
<td>SIGNAL CONVERSION</td>
<td>ステートメントが実行された。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>601</td>
<td></td>
<td>文字ストリングの入出力中に無効な変換が試行された。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>603</td>
<td>GET STRING</td>
<td>ステートメントに対する F フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>604</td>
<td>GET FILE</td>
<td>ステートメントに対する F フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>605</td>
<td>TRANSMIT</td>
<td>条件の発生後、GET FILE ステートメントに対する F フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>606</td>
<td>GET STRING</td>
<td>ステートメントに対する E フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>607</td>
<td>GET FILE</td>
<td>ステートメントに対する E フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

第 10 章 条件コード 149
条件コード

608 TRANSMIT 条件の発生後、GET FILE ステートメントに対する E フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。

609 GET STRING ステートメントに対する B フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。

610 GET FILE ステートメントに対する B フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。

611 TRANSMIT 条件の発生後、GET FILE ステートメントに対する B フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。

612 文字値から算術値への型変換中にエラーが発生した。

613 GET または PUT FILE ステートメントに対する文字値から算術値への型変換中にエラーが発生した。

614 TRANSMIT 条件の発生後、GET または PUT FILE ステートメントに対する文字値から算術値への型変換中にエラーが発生した。

615 文字値からビット値への型変換中にエラーが発生した。

616 GET または PUT FILE ステートメントに対する文字値からビット値への型変換中にエラーが発生した。

617 TRANSMIT 条件の発生後、GET または PUT FILE ステートメントに対する文字値からビット値への型変換中にエラーが発生した。

618 文字値からピクチャーヘへの型変換中にエラーが発生した。

619 GET または PUT FILE ステートメントに対する文字値からピクチャーへの型変換中にエラーが発生した。

620 TRANSMIT 条件の発生後、GET または PUT FILE ステートメントに対する文字値からピクチャーへの型変換中にエラーが発生した。

621 GET STRING ステートメントに対する 10 進 P フォーマット項目内のエラー。

622 GET FILE ステートメントに対する 10 進 P フォーマット入力中のエラー。

623 TRANSMIT 条件の発生後、GET FILE ステートメントに対する 10 進 P フォーマット入力中のエラー。

624 GET FILE ステートメントに対する文字 P フォーマット入力中のエラー。

625 GET FILE ステートメントに対する文字 P フォーマット入力にエラーが存在する。

626 TRANSMIT 条件の発生後、GET FILE ステートメントに対する文字 P フォーマット入力にエラーが存在する。

627 非漢字環境で、漢字ストリングまたは混合文字ストリングが検出された。

628 非漢字環境で、入力に漢字ストリングまたは混合文字ストリングが検出された。

629 非漢字環境で、TRANSMIT が検出された後、入力に漢字ストリングまたは混合文字ストリングが検出された。

633 X, BX, または GX ストリング定数内で無効文字が検出された。

Enterprise PL/I for z/OS: メッセージおよびコード
条件コード

634 入力の X, BX、または GX ストリング定数内で無効文字が検出された。
635 TRANSMIT が検出された後、入力の X, BX、または GX ストリング定数
内で無効文字が検出された。
640 ビクチャーからの型変換に無効文字が含まれていた。
641 入力または出力時に、ビクチャーからの型変換に無効文字が含まれていた。
642 TRANSMIT が検出された後、入力時にビクチャーからの型変換に無効文字
が含まれていた。
643 GET STRING ステートメントに対する図形 F フォーマット項目の処理中に
エラーが発生した。
644 GET FILE ステートメントに対する図形 F フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。
645 TRANSMIT 条件の発生後、GET FILE ステートメントに対する図形 F フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。
646 GET STRING ステートメントに対する図形 E フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。
647 GET FILE ステートメントに対する図形 E フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。
648 TRANSMIT 条件の発生後、GET FILE ステートメントに対する図形 E フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。
649 GET STRING ステートメントに対する図形 B フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。
650 GET FILE ステートメントに対する図形 B フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。
651 TRANSMIT 条件の発生後、GET FILE ステートメントに対する図形 B フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。
652 図形文字値から算術値への型変換中にエラーが発生した。
653 GET または PUT FILE ステートメントに対する図形文字値から算術値への型変換中にエラーが発生した。
654 TRANSMIT 条件の発生後、GET または PUT FILE ステートメントに対する図形文字値から算術値への型変換中にエラーが発生した。
655 図形文字値からビット値への型変換中にエラーが発生した。
656 GET または PUT FILE ステートメントに対する図形文字値からビット値への型変換中にエラーが発生した。
657 TRANSMIT 条件の発生後、GET または PUT FILE ステートメントに対する図形文字値からビット値への型変換中にエラーが発生した。
658 図形文字値からビクチャーへの型変換中にエラーが発生した。
659 GET または PUT FILE ステートメントに対する図形文字値からビクチャーへの型変換中にエラーが発生した。
660 TRANSMIT 条件の発生後、GET または PUT FILE ステートメントに対する図形文字値からビクチャーへの型変換中にエラーが発生した。

第10章 条件コード 151
条件コード

661 GET STRING ステートメントに対する 10 進形式 P フォーマット項目内のエラー。
662 GET FILE ステートメントに対する 10 進形式 P フォーマット入力中のエラー。
663 TRANSMIT 条件の発生後、GET FILE ステートメントに対する 10 進形式P フォーマット入力中のエラー。
664 GET FILE ステートメントに対する図形文字 P フォーマット入力中のエラー。
665 GET FILE ステートメントに対する図形文字 P フォーマット入力にエラーが存在する。
666 TRANSMIT 条件の発生後、GET FILE ステートメントに対する図形文字 P フォーマット入力にエラーが存在する。
667 GRAPHIC から文字への型変換中に、等価な SBCS が存在しなかった。
668 入力の GRAPHIC から文字への型変換中に、等価な SBCS が存在しなかった。
669 TRANSMIT 条件の発生後、入力の GRAPHIC から文字への型変換中に、等価な SBCS が存在しなかった。
670 ソース属性が不明。
671 入力のソース属性が不明。
672 TRANSMIT 条件の発生後、入力のソース属性が不明。
673 WIDECHAR 値から文字への型変換中にエラーが発生した。
674 GET または PUT FILE ステートメントに対する WIDECHAR 値から文字への型変換中にエラーが発生した。
675 TRANSMIT 条件の発生後、GET または PUT FILE ステートメントに対する WIDECHAR 値から文字への型変換中にエラーが発生した。
676 WIDECHAR 値から算術値への型変換中にエラーが発生した。
677 GET または PUT FILE ステートメントに対する WIDECHAR 値から算術値への型変換中にエラーが発生した。
678 TRANSMIT 条件の発生後、GET または PUT FILE ステートメントに対する WIDECHAR 値から算術値への型変換中にエラーが発生した。
679 WIDECHAR 値からビット値への型変換中にエラーが発生した。
680 GET または PUT FILE ステートメントに対する WIDECHAR 値からビット値への型変換中にエラーが発生した。
681 TRANSMIT 条件の発生後、GET または PUT FILE ステートメントに対する WIDECHAR 値からビット値への型変換中にエラーが発生した。
682 WIDECHAR 値からビックチャーエへの型変換中にエラーが発生した。
683 GET または PUT FILE ステートメントに対する WIDECHAR 値からビックチャーエへの型変換中にエラーが発生した。
684 TRANSMIT 条件の発生後、GET または PUT FILE ステートメントに対する WIDECHAR 値からビックチャーエへの型変換中にエラーが発生した。
条件コード 1001 から 1499

1002 GET または PUT STRING が、ストリングのサイズを超えるデータを指定している。

1003 以後の出力は、データ・セットに対して前に発生した TRANSMIT 条件または KEY 条件によって妨げられた。

1004 印刷できないファイルに対して、PAGE、LINE、または SKIP <= 0 を使用しようとした。

1005 DISPLAY(式) REPLY (文字参照) ステートメント内で、式または文字参照の長さが 0 である。

1007 REWRITE または DELETE ステートメントの前に READ がない。

1008 GET STRING DATA ステートメントに指定されたストリング内で、割り当てシンボルの前に認識できないフィールドがある。

1009 入出力ステートメントが、ファイル属性と矛盾する操作またはオプションを指定している。

1010 組込み関数または疑似変数が、オープンされていないファイルを参照していた。

1011 データ管理が入出力エラーを検出したが、その原因に関する情報を提供できない。

1013 直前の入力操作が未完了。REWRITE または DELETE ステートメントが指定しているデータは、EVENT オプションを指定した READ ステートメントによって直前に読み取られており、対応する WAIT が実行されていない。

1014 未完了の操作数が、ENVIRONMENT オプション NCP(n), またはデフォルトによって指定された数等しいときに、さらに入出力操作を開始しようとした。

1015 入出力操作に対して指定されたイベント変数は、既に使用中。

1016 ファイルの暗黙的なオープンが失敗した結果として UNDEFINEDFILE 条件が発生した後、ON ユニットからの通常のリターン時に、ファイルがオープンされていないことが検出された。

1018 データ・リストの終わりの前にあるデータ、または編集ディレクティブの伝送フォーマット・リストで、ファイルまたはストリングの終わりが検出された。

1019 現在のプロセス内でオープンされていないファイルをクローズしようとした。

1020 直前の READ が完了したことを確認するための WAIT ステートメントが実行される前に、さらに入出力を行おうとした。

1021 このプロセス内で別のファイルによってロックされたレコードにアクセスしようとした。

1022 索引付きデータ・セットを拡張できない。

1023 レコードがサブタスク内でまだロックされているときに、他者のファイルがクローズされた。
条件コード

1024 デバイスに関連したファイルに対する入出力操作の順序が誤っている。
1025 要求を完了するために使用できる仮想記憶域が不足している。
1026 索引データ・セット内の位置が設定されていない。
1027 レコード制御インターバルが既に排他制御に保持されている。
1028 要求されたレコードは、マウントされていないポリューム上にある。
1029 索引データ・セット内での位置変更が失敗した。
1030 索引データ・セットに対する索引アップグレード中にエラーが発生した。
1031 索引データ・セットに対して無効な順次書き込みが試行された。
1040 出力用にオープンされたデータ・セットが、使用可能なスペースを使い尽くした。
1041 レコード区切り文字を含むレコードを書き込みとした。
1042 データ・セット内のレコードが正しく区切られていない。
1102 ストレージ管理中にエラーが発生した。解放されるストレージが無効なアドレスによって指されている。
1104 ライブラリー内で内部エラーが発生した。
1105 オブジェクト・ウィンドウを作成できない。
1106 ストレージ割り振り要求を満たすために使用可能な容量が不十分。
1107 フリー・ストレージ処理中に問題が発生した。

条件コード 1500 から 2000

1500 計算誤差。SQRT 組み込み関数の短精度浮動小数点引数が 0 より小さい。
1501 計算誤差。SQRT 組み込み関数の長精度浮動小数点引数が 0 より小さい。
1502 計算誤差。SQRT 組み込み関数の拡張浮動小数点引数が 0 より小さい。
1503 LOG、LOG2、または LOG10 組み込み関数の計算誤差。拡張浮動小数点引数が 0 より小さい。
1504 LOG、LOG2、または LOG10 組み込み関数の計算誤差。短精度浮動小数点引数が 0 より小さい。
1505 LOG、LOG2、または LOG10 組み込み関数の計算誤差。長精度浮動小数点引数が 0 より小さい。
1506 SIN、COS、SIND、または COSD 組み込み関数の計算誤差。短精度浮動小数点引数の絶対値が大きすぎる。表記ごとの限度は、以下のとおりである。

<table>
<thead>
<tr>
<th>表記</th>
<th>限度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>16 進数</td>
<td>pi*(2**18)</td>
</tr>
<tr>
<td>z ieee 10 進数</td>
<td>1s6</td>
</tr>
</tbody>
</table>
1507 SIN、COS、SIND、または COSD 組み込み関数の計算誤差。長精度浮動小数点引数の絶対値が大きすぎる。表記ごとの限度は、以下のとおりである。

<table>
<thead>
<tr>
<th>表記</th>
<th>限度</th>
</tr>
</thead>
</table>
### 計算誤差

<table>
<thead>
<tr>
<th>16 進数</th>
<th>$\pi \times 2^{50}$</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>z ieee 2 進数</td>
<td>3.53711d15</td>
</tr>
<tr>
<td>z ieee 10 進数</td>
<td>1d15</td>
</tr>
<tr>
<td>i ieee 2 進数</td>
<td>$2^{63}$</td>
</tr>
</tbody>
</table>

#### 計算誤差

**TAN または TAND**
組み込み関数の短精度浮動小数点引数の絶対値が大きすぎる。表記ごとの限度は、以下のとおりである。

<table>
<thead>
<tr>
<th>表記</th>
<th>限度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>16 進数</td>
<td>$\pi \times 2^{18}$</td>
</tr>
<tr>
<td>z ieee 10 進数</td>
<td>1s6</td>
</tr>
</tbody>
</table>

#### 計算誤差

**ATAN**
組み込み関数の短精度浮動小数点引数の絶対値が 1 より大きい。

<table>
<thead>
<tr>
<th>表記</th>
<th>限度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>16 進数</td>
<td>$\pi \times 2^{50}$</td>
</tr>
<tr>
<td>z ieee 2 進数</td>
<td>3.53711d15</td>
</tr>
<tr>
<td>z ieee 10 進数</td>
<td>1d15</td>
</tr>
<tr>
<td>i ieee 2 進数</td>
<td>$2^{63}$</td>
</tr>
</tbody>
</table>

#### 計算誤差

**ATAN**
組み込み関数の長精度浮動小数点引数の絶対値が 1 より大きい。

#### 計算誤差

**ATAN**
組み込み関数の拡張浮動小数点引数の絶対値が 1 より大きい。
条件コード

1517  SIN、COS、SIND、または COSD 組み込み関数の計算誤差。拡張精度浮動小数点引数が大きすぎる。表記ごとの限度は、以下のとおりである。

<table>
<thead>
<tr>
<th>表記</th>
<th>限度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>16 進数</td>
<td>pi*(2**100)</td>
</tr>
<tr>
<td>z ieee 2 進数</td>
<td>4.07802q33</td>
</tr>
<tr>
<td>z ieee 10 進数</td>
<td>1q33</td>
</tr>
<tr>
<td>i ieee 2 進数</td>
<td>2**64</td>
</tr>
</tbody>
</table>

1518  計算誤差。ASIN または ACOS 組み込み関数の短精度浮動小数点引数の絶対値が 1 を超えている。

1519  計算誤差。ASIN または ACOS 組み込み関数の長精度浮動小数点引数の絶対値が 1 を超えている。

1520  計算誤差。ASIN または ACOS 組み込み関数の拡張浮動小数点引数の絶対値が 1 を超えている。

1522  計算誤差。TAN または TAND 組み込み関数の拡張浮動小数点引数の絶対値が大きすぎる。表記ごとの限度は、以下のとおりである。

<table>
<thead>
<tr>
<th>表記</th>
<th>限度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>16 進数</td>
<td>pi*(2**100)</td>
</tr>
<tr>
<td>z ieee 2 進数</td>
<td>4.07802q33</td>
</tr>
<tr>
<td>z ieee 10 進数</td>
<td>1q33</td>
</tr>
<tr>
<td>i ieee 2 進数</td>
<td>2**64</td>
</tr>
</tbody>
</table>

1523  計算誤差。SINH または COSH 組み込み関数の実数の短精度浮動小数点引数の絶対値が大きすぎる。表記ごとの限度は、以下のとおりである。

<table>
<thead>
<tr>
<th>表記</th>
<th>限度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>16 進数</td>
<td>175.366</td>
</tr>
<tr>
<td>z ieee 10 進数</td>
<td>2.233507s02</td>
</tr>
</tbody>
</table>

1524  SINH または COSH 引数の実数の長精度浮動小数点引数の絶対値が大きすぎる。表記ごとの限度は、以下のとおりである。

<table>
<thead>
<tr>
<th>表記</th>
<th>限度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>16 進数</td>
<td>175.366</td>
</tr>
<tr>
<td>z ieee 2 進数</td>
<td>709.7827</td>
</tr>
<tr>
<td>z ieee 10 進数</td>
<td>8.864952608027075d02</td>
</tr>
<tr>
<td>i ieee 2 進数</td>
<td>710.47</td>
</tr>
</tbody>
</table>
条件コード

1525  **SINH** または **COSH** の実数の拡張浮動小数点引数の絶対値が大きくする。
表記ごとの限度は、以下のとおりである。
<table>
<thead>
<tr>
<th>表記</th>
<th>限度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>16 進数</td>
<td>175.366</td>
</tr>
<tr>
<td>z iee 2 進数</td>
<td>11354</td>
</tr>
<tr>
<td>z iee 10 進数</td>
<td>1.414938596448410728574890354q4</td>
</tr>
<tr>
<td>i iee 2 進数</td>
<td>11357.56</td>
</tr>
</tbody>
</table>

1529 **SIN**、**COS**、**SIND**、または **COSD** 組み込み関数の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数の実数部の絶対値が大きい。表記ごとの限度は、以下のとおりである。
<table>
<thead>
<tr>
<th>表記</th>
<th>限度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>16 進数</td>
<td>π*(2**18)</td>
</tr>
<tr>
<td>z iee 10 進数</td>
<td>1s6</td>
</tr>
</tbody>
</table>

1530 **SIN**、**COS**、**SIND**、または **COSD** 組み込み関数の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数の実数部の絶対値が大きい。表記ごとの限度は、以下のとおりである。
<table>
<thead>
<tr>
<th>表記</th>
<th>限度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>16 進数</td>
<td>π*(2**50)</td>
</tr>
<tr>
<td>z iee 2 進数</td>
<td>3.53711d15</td>
</tr>
<tr>
<td>z iee 10 進数</td>
<td>1d15</td>
</tr>
<tr>
<td>i iee 2 進数</td>
<td>2**63</td>
</tr>
</tbody>
</table>

1531 **SIN**、**COS**、**SIND**、または **COSD** 組み込み関数の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数の実数部の絶対値が大きい。表記ごとの限度は、以下のとおりである。
<table>
<thead>
<tr>
<th>表記</th>
<th>限度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>16 進数</td>
<td>π*(2**100)</td>
</tr>
<tr>
<td>z iee 2 進数</td>
<td>4.07802q33</td>
</tr>
<tr>
<td>z iee 10 進数</td>
<td>1q33</td>
</tr>
<tr>
<td>i iee 2 進数</td>
<td>2**64</td>
</tr>
</tbody>
</table>

1550 計算誤差。指数演算時に、実数の短精度浮動小数点の基数が 0 であり、かつ整数の指数が正でない。

1551 計算誤差。指数演算時に、実数の長精度浮動小数点の基数が 0 であり、かつ整数の指数が正でない。

1552 計算誤差。指数演算時に、実数の短精度浮動小数点の基数が 0 であり、かつ浮動小数点または非整数の指数が正でない。

1553 計算誤差。指数演算時に、実数の長精度浮動小数点の基数が 0 であり、かつ浮動小数点または非整数の指数が正でない。

1554 計算誤差。指数演算時に、複素数の短精度浮動小数点の基数が 0 であり、かつ整数の指数が正でない。
条件コード

1555 計算誤差。指数演算時に、複素数の長精度浮動小数点の基数が 0 であり、かつ整数の基数が正でない。

1556 計算誤差。指数演算時に、複素数の短精度浮動小数点の基数が 0 であり、かつ浮動小数点または非整数の基数が正の実数でない。

1557 計算誤差。指数演算時に、複素数の長精度浮動小数点の基数が 0 であり、かつ浮動小数点または非整数の基数が正の実数でない。

1558 計算誤差。ATAN または ATAND 組込み関数の複素数の短精度浮動小数点引数が、それぞれ ±11 または ±1 の値をとっている。

1559 計算誤差。ATAN または ATAND 組込み関数の複素数の長精度浮動小数点引数が、それぞれ ±11 または ±1 の値をとっている。

1560 計算誤差。指数演算時に、実数の拡張浮動小数点の基数が 0 であり、かつ整数の基数が正でない。

1561 計算誤差。指数演算時に、実数の拡張浮動小数点の基数が 0 であり、かつ浮動小数点または非整数の基数が正でない。

1562 計算誤差。指数演算時に、複素数の拡張浮動小数点の基数が 0 であり、かつ整数の基数が正でない。

1563 計算誤差。複素数の拡張浮動小数点の基数が 0 であり、かつ浮動小数点または非整数の基数が正でない。

1564 計算誤差。ATAN または ATAND 組込み関数の複素数の拡張浮動小数点引数が、それぞれ ±11 または ±1 の値をとっている。

1568 EXP 組込み関数の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数の絶対値が大きくする。表記ごとの限度は、以下のとおりである。

<table>
<thead>
<tr>
<th>表記</th>
<th>限度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>16 16 進数</td>
<td>pi*(2**18)</td>
</tr>
<tr>
<td>z iee 10 進数</td>
<td>1s6</td>
</tr>
</tbody>
</table>

1569 EXP 組込み関数の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数の絶対値が大きくする。表記ごとの限度は、以下のとおりである。

<table>
<thead>
<tr>
<th>表記</th>
<th>限度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>16 16 進数</td>
<td>pi*(2**50)</td>
</tr>
<tr>
<td>z iee 2 進数</td>
<td>3.53711d15</td>
</tr>
<tr>
<td>z iee 10 進数</td>
<td>1d15</td>
</tr>
<tr>
<td>i iee 2 進数</td>
<td>2**63</td>
</tr>
</tbody>
</table>

1570 EXP 組込み関数の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数の虚数部の絶対値が大きくする。表記ごとの限度は、以下のとおりである。

<table>
<thead>
<tr>
<th>表記</th>
<th>限度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>16 16 進数</td>
<td>pi*(2**100)</td>
</tr>
<tr>
<td>z iee 2 進数</td>
<td>4.07802q33</td>
</tr>
<tr>
<td>z iee 10 進数</td>
<td>1qd33</td>
</tr>
<tr>
<td>i iee 2 進数</td>
<td>2**64</td>
</tr>
</tbody>
</table>
条件コード

1571 GAMMA または LOGGAMMA 組み込み関数の計算誤差。実数の短精度拡張浮動小数点引数が大きすぎる。表記ごとの GAMMA の限度は、以下のとおりである。

<table>
<thead>
<tr>
<th>表記</th>
<th>限度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>16 進数</td>
<td>57.5744</td>
</tr>
<tr>
<td>z iee 10 進数</td>
<td>6.932968s01</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表記ごとの LOGGAMMA の限度は、以下のとおりである。

<table>
<thead>
<tr>
<th>表記</th>
<th>限度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>16 進数</td>
<td>4.2937*(10**73)</td>
</tr>
<tr>
<td>z iee 10 進数</td>
<td>4.608910s94</td>
</tr>
</tbody>
</table>

1572 GAMMA または LOGGAMMA 組み込み関数の計算誤差。実数の長精度浮動小数点引数が大きすぎる。表記ごとの GAMMA の限度は、以下のとおりである。

<table>
<thead>
<tr>
<th>表記</th>
<th>限度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>16 進数</td>
<td>57.5744</td>
</tr>
<tr>
<td>z iee 2 進数</td>
<td>171.624</td>
</tr>
<tr>
<td>z iee 10 進数</td>
<td>2.05379629328708d02</td>
</tr>
<tr>
<td>i iee 2 進数</td>
<td>171.6243</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表記ごとの LOGGAMMA の限度は、以下のとおりである。

<table>
<thead>
<tr>
<th>表記</th>
<th>限度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>16 進数</td>
<td>4.2937*(10**73)</td>
</tr>
<tr>
<td>z iee 2 進数</td>
<td>2.559d305</td>
</tr>
<tr>
<td>z iee 10 進数</td>
<td>1.138023083333461d382</td>
</tr>
<tr>
<td>i iee 2 進数</td>
<td>2.0d0**1014</td>
</tr>
</tbody>
</table>

1573 GAMMA または LOGGAMMA 組み込み関数の計算誤差。実数の拡張拡張浮動小数点引数が大きすぎる。表記ごとの GAMMA の限度は、以下のとおりである。

<table>
<thead>
<tr>
<th>表記</th>
<th>限度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>16 進数</td>
<td>57.5744</td>
</tr>
<tr>
<td>z iee 2 進数</td>
<td>1755</td>
</tr>
<tr>
<td>z iee 10 進数</td>
<td>2.124599566624632363280713535544q3</td>
</tr>
<tr>
<td>i iee 2 進数</td>
<td>171.6243</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表記ごとの LOGGAMMA の限度は、以下のとおりである。

<table>
<thead>
<tr>
<th>表記</th>
<th>限度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>16 進数</td>
<td>4.2937*(10**73)</td>
</tr>
<tr>
<td>z iee 2 進数</td>
<td>1q4928</td>
</tr>
</tbody>
</table>
条件コード

<table>
<thead>
<tr>
<th>参照</th>
<th>IEEE 10 進数</th>
<th>IEEE 2 進数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1574</td>
<td>7.07272165228093306168809969252963q6140</td>
<td>2.0q0**1014</td>
</tr>
<tr>
<td>1575</td>
<td>3.537111d15</td>
<td>1s6</td>
</tr>
<tr>
<td>1576</td>
<td>4.07802q33</td>
<td>2**63</td>
</tr>
<tr>
<td>1577</td>
<td>pi*(2**18)</td>
<td>pi*(2**50)</td>
</tr>
<tr>
<td>1578</td>
<td>3.537111d15</td>
<td>1d15</td>
</tr>
<tr>
<td>1579</td>
<td>4.07802q33</td>
<td>2**63</td>
</tr>
<tr>
<td>1580</td>
<td>174.673</td>
<td>709.7827</td>
</tr>
<tr>
<td>1581</td>
<td>8.864952608027075d02</td>
<td>8.864952608027075d02</td>
</tr>
</tbody>
</table>

1574 TANH 組込み関数の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数の虚数部の絶対値が大きすぎる。表記ごとの限度は、以下のとおりである。

<table>
<thead>
<tr>
<th>表記</th>
<th>限度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>16 進数</td>
<td>pi*(2**18)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

1575 TANH 組込み関数の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数の虚数部の絶対値が大きすぎる。表記ごとの限度は、以下のとおりである。

<table>
<thead>
<tr>
<th>表記</th>
<th>限度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>16 進数</td>
<td>pi*(2**50)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

1576 TANH 組込み関数の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数の虚数部の絶対値が大きすぎる。表記ごとの限度は、以下のとおりである。

<table>
<thead>
<tr>
<th>表記</th>
<th>限度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>16 進数</td>
<td>pi*(2**100)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

1577 LOG、LOG2、または LOG10 組込み関数の計算誤差。実数の短精度浮動小数点引数が 0 に等しい。

1578 LOG、LOG2、または LOG10 組込み関数の計算誤差。実数の長精度浮動小数点引数が 0 に等しい。

1579 LOG、LOG2、または LOG10 組込み関数の計算誤差。実数の拡張浮動小数点引数が 0 に等しい。

1611 計算誤差。EXP 組込み関数に対する実数の短精度浮動小数点引数が大きすぎる。表記ごとの限度は、以下のとおりである。

<table>
<thead>
<tr>
<th>表記</th>
<th>限度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>16 進数</td>
<td>174.673</td>
</tr>
</tbody>
</table>

1612 計算誤差。EXP 組込み関数に対する実数の長精度浮動小数点引数が大きすぎる。表記ごとの限度は、以下のとおりである。

<table>
<thead>
<tr>
<th>表記</th>
<th>限度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>16 進数</td>
<td>174.673</td>
</tr>
</tbody>
</table>
条件コード

<table>
<thead>
<tr>
<th>i ee 2 進数</th>
<th>710.47</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>16 進数</td>
<td>174.673</td>
</tr>
<tr>
<td>z ieee 2 進数</td>
<td>11354</td>
</tr>
<tr>
<td>z ieee 10 進数</td>
<td>1.41493853964484107282905574890354q4</td>
</tr>
<tr>
<td>i ieee 2 進数</td>
<td>11357.56</td>
</tr>
</tbody>
</table>

計算誤差。EXP 組み込み関数に対する実数の拡張浮動小数点引数が大きすぎる。表記ごとの限度は以下のとおりである。

<table>
<thead>
<tr>
<th>表記</th>
<th>限度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>16 進数</td>
<td>174.673</td>
</tr>
<tr>
<td>z ieee 2 進数</td>
<td>11354</td>
</tr>
<tr>
<td>z ieee 10 進数</td>
<td>1.41493853964484107282905574890354q4</td>
</tr>
<tr>
<td>i ieee 2 進数</td>
<td>11357.56</td>
</tr>
</tbody>
</table>

計算誤差。指数演算時に、実数の短精度浮動小数点の基数が 0 であり、かつ実数の短精度浮動小数点の指数が正または 0 でない。

計算誤差。指数演算時に、実数の長精度浮動小数点の基数が 0 であり、かつ実数の長精度浮動小数点の指数が正または 0 でない。

計算誤差。複素数の短精度浮動小数点の基数と複素数の短精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、引数が限度を超ええた。

計算誤差。複素数の長精度浮動小数点の基数と複素数の長精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、引数が限度を超ええた。

計算誤差。複素数の拡張浮動小数点の基数と複素数の拡張浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、引数が限度を超ええた。

TAN または TAND の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数について、引数の実数部の絶対値が大きすぎる。表記ごとの限度は以下のとおりである。

<table>
<thead>
<tr>
<th>表記</th>
<th>限度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>16 進数</td>
<td>pi*(2**18)</td>
</tr>
<tr>
<td>z ieee 10 進数</td>
<td>1s6</td>
</tr>
</tbody>
</table>

TAN または TAND の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数について、引数の実数部の絶対値が大きすぎる。表記ごとの限度は以下のとおりである。

<table>
<thead>
<tr>
<th>表記</th>
<th>限度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>16 進数</td>
<td>pi*(2**50)</td>
</tr>
<tr>
<td>z ieee 2 進数</td>
<td>3.53711d15</td>
</tr>
<tr>
<td>z ieee 10 進数</td>
<td>1d15</td>
</tr>
<tr>
<td>i ieee 2 進数</td>
<td>2**63</td>
</tr>
</tbody>
</table>

TAN または TAND の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数について、引数の実数部の絶対値が大きすぎる。表記ごとの限度は以下のとおりである。

<table>
<thead>
<tr>
<th>表記</th>
<th>限度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>16 進数</td>
<td>pi*(2**100)</td>
</tr>
<tr>
<td>z ieee 2 進数</td>
<td>4.07802q33</td>
</tr>
<tr>
<td>z ieee 10 進数</td>
<td>1q33</td>
</tr>
</tbody>
</table>
条件コード

i ieee 2 進数  2**64

1914 計算誤差。SINH または COSH 組み込み関数の複素数の短精度浮動小数点引数の虚数部の絶対値が大きすぎる。表記ごとの限度は、以下のとおりである。

表記  限度
16 進数  pi*(2**18)
z ieee 10 進数  1s6

1915 計算誤差。SINH または COSH 組み込み関数の複素数の長精度浮動小数点引数の虚数部の絶対値が大きすぎる。表記ごとの限度は、以下のとおりである。

表記  限度
16 進数  pi*(2**50)
z ieee 2 進数  3.53711d15
z ieee 10 進数  1d15
i ieee 2 進数  2**63

1916 計算誤差。SINH または COSH 組み込み関数の複素数の拡張浮動小数点引数の虚数部の絶対値が大きすぎる。表記ごとの限度は、以下のとおりである。

表記  限度
16 進数  pi*(2**100)
z ieee 2 進数  4.07802q33
z ieee 10 進数  1q33
i ieee 2 進数  2**64

1960 SQRT の計算誤差。実数の短精度浮動小数点引数が 0 に等しい。

1961 SQRT の計算誤差。実数の長精度浮動小数点引数が 0 に等しい。

1962 SQRT の計算誤差。実数の拡張浮動小数点引数が 0 に等しい。

条件コード 2001 から 2500

2002 システム機能が制限されているために、WAIT ステートメントを実行できない。

2101 RANDOM 組み込み関数のためのグリニッジ標準時を取得することができなかった。

2102 RANDOM 組み込み関数の中で無効なシード値が検出された。乱数は -1 に設定された。

2103 地方時が取得できなかった。

2104 SECSTODATE, DAYS, DAYSTODATE, または DATETIME 組み込み関数の y の値に、無効なビクチャー・ストリングの指定が含まれている。
条件コード

DAYS 組み込み関数の \( x \) の値に、無効な日の値が含まれている。有効な範囲は、1582年10月15日から9999年12月31日である。

DAYS 組み込み関数の \( x \) の値に、無効な月の値が含まれている。有効な範囲は、1582年10月から9999年12月である。

DAYS 組み込み関数の \( x \) の値に、無効な年の値が含まれている。有効な範囲は、1582から9999である。

DAYSTODATE 組み込み関数の \( x \) の値がサポート範囲外にある。有効な範囲は、1から3,074,324である。

SECSTODATE 組み込み関数の \( x \) の値がサポート範囲外にある。有効な範囲は、86,400から265,621,679,999,999である。

DAYSTODATE 組み込み関数の \( x \) の値が、有効な日本元号または中国元号に変換できなかった。

現在の地方時とグリニッジ標準時との間の時差が取得できなかった。

SECS または DAYS 組み込み関数の \( x \) の値がサポート範囲外にある。有効な範囲は、1582年10月15日から9999年12月31日である。

SECS 組み込み関数の \( x \) の値に、無効な秒の値が含まれている。有効な範囲は、0から59である。

SECS 組み込み関数の \( x \) の値に、無効な分の値が含まれている。有効な範囲は、0から59である。

SECS 組み込み関数の \( x \) の値に、無効な時の値が含まれている。有効な範囲は、0から23または0から24(APフィールドが存在する場合)である。

DAYS 組み込み関数の \( x \) の値が、指示されたピクチャー指定と一致しない。

SECS 組み込み関数の \( x \) の値が、指示されたピクチャー指定と一致しない。

DAYSTODATE 組み込み関数から戻された日付ストリングが切り捨てられた。

DATETIME または SECTODATE 組み込み関数から戻されたタイム・スタンプが切り捨てられた。

SECTODATE または DATETIME 組み込み関数の \( x \) の値に、サポートされる日本元号または中国元号の範囲に対して無効な秒数の値が含まれている。

DAYS または SECS 組み込み関数に渡されたデータに不足がある。ピクチャー・ストリングに十分な情報が含まれていない。

SECS または DAYS 組み込み関数の \( x \) の値に、無効な年号名が含まれている。

GAMMA または LOGGAMMA 組み込み関数の計算誤差。実数の短精度浮動小数点引数が、0より小か等しい。

GAMMA または LOGGAMMA 組み込み関数の計算誤差。実数の長精度浮動小数点引数が、0より小か等しい。
### 条件コード

2167  GAMMA または LOGGAMMA 組み込み関数の計算誤差。実数の拡張浮動小数点引数が、0 より小か等しい。

2403  計算誤差。GAMMA または LOGGAMMA 組み込み関数の実数の拡張浮動小数点引数が、0 より小か等しい。

2404  計算誤差。GAMMA または LOGGAMMA 組み込み関数の実数の拡張浮動小数点引数が、0 に等しい。

2413  計算誤差。LOG、LOG2、または LOG10 組み込み関数の複素数の短精度浮動小数点引数が 0 である。

2414  計算誤差。LOG、LOG2、または LOG10 組み込み関数の複素数の長精度浮動小数点引数が 0 である。

2415  計算誤差。LOG、LOG2、または LOG10 組み込み関数の複素数の拡張浮動小数点引数が 0 である。

### 条件コード 3000 から 4000

3000  編集ディレクティブの入出力ステートメント内で、E フォーマット項目に対して指定したフィールド幅、小数の桁数、および有効数字の桁数（w、d、および s）は、有効数字または符号を失わずに伝送を行うことができない。

3002  MEMCONVERT 組み込みが誤った戴りコードを返した。

3003  Unicode 変換後は、シフトインは使用できない。

3006  ターゲットのビクチャー記述が、文字以外のストリングのソースと一致しない。

3009  大小文字混合ストリングにシフトアウトが含まれ、シフトインが見つかる前にシフトアウトが終了した。

3010  大小文字混合の定数の処理中に、次のいずれかが発生した。
  •  SBCS 部分にあるシフトイン。
  •  図形（2 バイト）部分にあるシフトアウト。シフトアウトは、図形文字のどのバイトでも表示できない。
  •  図形文字の 2 番目のバイトあるシフトイン。

3011  MPSTR 組み込み関数の処理規則を指定する式に、無効文字（あるいはヌル関数ストリング、またはプランクのみ）が含まれている。V、v、S、s、およびプランクだけが有効な文字。

3013  16,383 文字 (32,766 バイト) より長い漢字ターゲットへの割り当てが試行された。

3014  漢字ストリングまたは混合ストリングが、連結規則に準拠していない。

3015  X 定数または GX 定数の桁数が無効である。

3016  ストリーム出力でグラフィック・データが不適切に使用されている。グラフィック・データは、変数名またはストリングの一部としてだけ使用できる。

3018  無効なUTF-8 データが検出された。

3019  UTF-8 文字に無効なバイト 2 が検出された。
<table>
<thead>
<tr>
<th>ページ番号</th>
<th>条件コード</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>3020</td>
<td>UTF-8 文字に無効なバイト 3 が検出された。</td>
</tr>
<tr>
<td>3021</td>
<td>UTF-8 文字に無効なバイト 4 が検出された。</td>
</tr>
<tr>
<td>3022</td>
<td>不完全な UTF-8 文字が検出された。</td>
</tr>
<tr>
<td>3023</td>
<td>無効な UTF-16 データが検出された。</td>
</tr>
<tr>
<td>3024</td>
<td>不完全な UTF-16 文字が検出された。</td>
</tr>
<tr>
<td>3025</td>
<td>USUBSTR 参照が無効である。</td>
</tr>
<tr>
<td>3500</td>
<td>WAIT ステートメントの処理中に、オペレーティング・システムによってエラーが検出された。</td>
</tr>
<tr>
<td>3501</td>
<td>DETACH ステートメントの処理中に、オペレーティング・システムによってエラーが検出された。</td>
</tr>
<tr>
<td>3502</td>
<td>ATTACH ステートメントの処理中に、オペレーティング・システムによってエラーが検出された。</td>
</tr>
<tr>
<td>3503</td>
<td>STOP ステートメントの処理中に、オペレーティング・システムによってエラーが検出された。</td>
</tr>
<tr>
<td>3797</td>
<td>図形データへ、または図形データからの変換が試行された。</td>
</tr>
<tr>
<td>3798</td>
<td>ONCHAR、ONSOURCE、または ONGSOURCE 疑似変数がコンテキスト外で使用されている。</td>
</tr>
<tr>
<td>3799</td>
<td>CONVERSION ON ユニット内でソースが変更されなかった。再試行は行われなかった。ON ユニットに入った原因は、変換対象のストリング内の無効文字によって発生した CONVERSION 条件である。その文字は、ON ユニット内で ONSOURCE、ONGSOURCE、または ONCHAR 疑似変数を使用して訂正されなかった。</td>
</tr>
<tr>
<td>3800</td>
<td>データ集合の長さがシステムしきい値の2**24 バイトを超えた。</td>
</tr>
<tr>
<td>3808</td>
<td>COBOL または FORTRAN で集合がマップできない。</td>
</tr>
<tr>
<td>3809</td>
<td>データ集合が最大長を超えた。</td>
</tr>
<tr>
<td>3810</td>
<td>配列のエクステントが、許される上限を超えている。</td>
</tr>
<tr>
<td>3901</td>
<td>既にアクティブ・プロセスに関連付けられているプロセス変数を使用して、プロセスを起動しようとした。</td>
</tr>
<tr>
<td>3904</td>
<td>既に DISPLAY ステートメント用に使用されているイベント変数が、COMPLETION 疑似変数への引数として参照された。</td>
</tr>
<tr>
<td>3906</td>
<td>既にアクティブになっているイベント変数への割り当てが行われた。</td>
</tr>
<tr>
<td>3907</td>
<td>既にアクティブ・プロセスに関連付けられているイベント変数に関連付けようとした。</td>
</tr>
<tr>
<td>3909</td>
<td>使用可能な主記憶域が不足しているときに、サブタスクを作成しようとした（CALL ステートメントを使用して）。</td>
</tr>
<tr>
<td>3910</td>
<td>アクティブ・プロセス数が、EXEC ステートメントの ISASIZE パラメーターによって定義された限度に既に達しているときに、プロセスを生成しようとした（CALL ステートメントを使用して）。</td>
</tr>
<tr>
<td>3911</td>
<td>ON ユニット内の WAIT ステートメントが、ON ユニットに入る元のプロセス内で既に待機の対象になっているイベント変数を参照している。</td>
</tr>
</tbody>
</table>
条件コード

3912 PUT FILE(SYSPRINT) ステートメントの実行中に呼び出されたブロック内で、TASK オプションを指定して CALL を実行しようとした。

3913 TASK を指定した CALL ステートメントが、不明なエントリー・ポイントを指定している。

3914 2 つのプロセス内で FORTRAN または COBOL のルーチンを同時に呼び出すようにとした。

3915 リンク・エディット・ステップ内でマルチタスキング・ライブラリーが選択されていないときに、プロセスを呼び出すようにした。

3920 ストレージ不足による異常終了が発生した。

条件コード 4001 から 9999

4001 GET DATA ステートメントで、割り振り解除された CONTROLLED 変数にデータを割り当てようとした。

4002 PUT DATA ステートメントで、割り振り解除された CONTROLLED 変数を出力しようとした。

4003 STRING オプションを指定した PUT DATA ステートメントで、割り振り解除された CONTROLLED 変数から割り当てを行おうとした。

8091 演算例外。

8092 特殊命令例外。

8093 EXECUTE 例外。

8094 記憶保護例外。

8095 アドレスシング例外。

8096 指定例外。

8097 データ例外。

8098 スタック・ストレージの不足。

9002 非アクティブ・ブロック内のラベルを参照する GO TO ステートメントを実行しようとした。

9003 存在しないラベル定数への GO TO ステートメントを実行しようとした。

9050 異常終了によってプログラムが終了した。

9051 CICS 内でエラーが発生した。EXEC CICS コマンドに指定したパラメーター（特にポインタ）が、PL/I プログラムの所有するストレージを指してない可能性が高い。ERROR ON コマンドに制御が渡されなかった。

TEST ランタイム・オプションが有効になっている場合、ユーザーは PLITEST を使用して変数などを検査できるが、実行を継続することはできない。

9200 SORT/MERGE プログラム内のプログラム・チェック。

9201 CMS 内では SORT はサポートされていない。

9202 PLISRTx 呼び出しに RECORD TYPE ストリングが指名されていない。

9203 PLISRTx 呼び出しに誤ったレコード・タイプが指名されている。
条件コード

9204 PLISRTB または PLISRTD 呼び出しの RECORD TYPE ストリングの指定に LENGTH= がない。

9205 PLISRTx 呼び出しの LENGTH= パラメーターに指定した長さが、数値でない。

9206 E15 または E35 データ処理ルーチンから誤った戻りコードを受け取った。

9207 メッセージに表示されている戻りコードを出して DFSORT が失敗した。

9208 PLISRTx が ADMVS 以外の環境で呼び出された。

9249 ルーチンをリリースできない。

9250 フェッチするプロシージャーが検出できない。

9251 プロシージャーをフェッチする際に永続的な伝送エラーが発生した。

9252 CMS 内では FETCH/RELEASE はサポートされていない。

9253 PLITEST が使用できない。

9254 CICS のもとで、PL/I ルーチンから MAIN プロシージャーをフェッチしようとした。

9999 LE サービスの起動時に障害が発生した。
特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本书で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っています。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権（特許出願中のものを含む）を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒242-8502
神奈川県大和市下鎮間1623番14号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス係

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。

本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。
IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名は、IBM または各社の商標です。現時点での IBM の商標リストについては、

Intel および Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、および Windows NT は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。
参考文献

PL/I 資料

**Enterprise PL/I for z/OS**
- 「プログラミング・ガイド」、GI88-4249
- 「言語解説書」、SA88-4235
- 「メッセージおよびコード」、GA88-4237
- 「コンパイラおよびランタイム 移行ガイド」、GA88-4236

**PL/I for MVS & VM**
- 「導入およびカスタマイズ (MVS)」、SC88-7221
- 「言語解説書」、SC88-7219
- 「コンパイル時メッセージおよびコード」、SC88-7224
- 「診断の手引き」、SC88-7223
- 「移行の手引き」、SC88-7220
- 「プログラミングの手引き」、SC88-7218
- 「参照要約」、SX88-7011

**PL/I for AIX**
- 「プログラミング・ガイド」、SA88-4427
- 「言語解説書」、SA88-4429
- 「メッセージおよびコード」、SA88-4430
- 「インストール・ガイド」、GA88-4428

関連資料

**DB2 UDB for OS/390 および DB2 UDB for z/OS**
- 「管理ガイド」、SC88-8761
- 「DB2 入門」、SC88-8767
- 「アプリケーション・プログラミングおよび SQL ガイド」、SC88-8763
- 「コマンド解説書」、SC88-8764
- 「メッセージおよびコード」、GC88-8768
- 「SQL 解説書」、SC88-8772

**DFSORT™**
- 「アプリケーション・プログラミングの手引き」、SC88-7061
- 「導入およびカスタマイズ」、SC88-7163
IMS/ESA®

「アプリケーション・プログラミング: データベース管理プログラム」、SC88-7552
「Application Programming: Database Manager Summary」、SC26-8037
「アプリケーション・プログラミング: 設計の手引き」、SC88-7542
「アプリケーション・プログラミング: トランザクション管理プログラム」、SC88-7553
「Application Programming: Transaction Manager Summary」、SC26-8038
「アプリケーション・プログラミング: EXEC DL/I コマンド (CICS および IMS™)」、SC88-7554
「Application Programming: EXEC DL/I Commands for CICS and IMS Summary」、SC26-8036

TXSeries for Multiplatforms

「Encina 管理の手引き 第 2 巻: サーバー管理」、SD88-7403
「Encina SFS Programming Guide」、SC09-4483
インフォメーション・センター (publib.boulder.ibm.com/infocenter/txformp/v7r1/index.jsp) も参照してください。

z/Architecture

「Principles of Operation」、SA22-7832

z/OS 言語環境プログラム

「概念」、SA88-8555
「デバッグ・ガイド」、GA88-8548
「ランタイム・メッセージ」、SA88-8554
「カスタマイズ」、SA88-8552
「プログラミング・ガイド」、SA88-8549
「プログラミング・リファレンス」、SA88-8550
「ランタイム・アプリケーション マイグレーション・ガイド」、GA88-8553
「ILC (言語間通信) アプリケーションの作成」、SA88-8551

z/OS MVS

「JCL 解説書」、SA88-8569
「JCL ユーザーズ・ガイド」、SA88-8570
「システム・コマンド」、SA88-8593

z/OS UNIX システム・サービス

「z/OS UNIX システム・サービス コマンド解説書」、SA88-8641
「z/OS UNIX システム・サービス・プログラミング: アセンブラー呼び出し可能サービス 解説書」、SA88-8642
Unicode® および文字表現

「OS/390 Unicode サポート: 変換サービスの使用法」、SD88-6163